

平成26年度  
総合的な教師力向上のための調査研究事業  
「初任者研修の抜本的な改革」

成果報告書

徳島県教育委員会  
平成27年3月

本報告書は、文部科学省の初等中等教育等振興事業委託費による委託事業として、徳島県教育委員会が実施した平成26年度「総合的な教師力向上のため調査研究事業」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続が必要です。

## 目 次

1. 研究の概要	P. 1
(1) 研究の趣旨	P. 1
(2) 研究の目的	P. 1
(3) 研究の具体的内容	P. 2
(4) 研究の実施主体と方法	P. 2
(5) 研究の経過	P. 3
1) 連絡協議会・検討会議	P. 4
2) 学校訪問時における聞き取り調査	P. 5
3) 先進校等視察	P. 5
4) 調査研究実施主体によるアンケート調査の実施	P. 5
(6) 研究の実施体制	P. 6
2. 研究内容①「初任者研修実施校の選定に係る条件・基準の明確化」について	
(1) 望ましい学校規模等	P. 6
(2) 人事配置の配慮点（方針）	P. 7
(3) 調査研究方式と現行の方式（拠点校方式等）との比較	P. 7
3. 研究内容②「初任者研修の校内指導体制の確立と充実」について	P. 8
(1) 初任者指導のインセンティブが働く校務の工夫や学校全体で初任者に関わるための指導・評価の手立て	P. 8
(2) 初任者研修推進委員会等の効果的な運用	P. 10
(3) 初任者の状況把握と初任者に対する相談体制の整備（「若手教師の会」等の設立と運営）	P. 11
4. 研究内容③「研修等の内容の充実」について	P. 13
(1) 初任者の年間の勤務，初任者の校務（担任・副担任・TT担当等）を見通した研修内容や指導方法の工夫	P. 13
(2) OJTによる研修と直接指導による研修のバランス	P. 15
(3) 研修のノウハウの蓄積方法	P. 15
5. 研究のまとめと考察	P. 16
参考資料	P. 20

## 1. 研究の概要

### (1) 研究の趣旨

現在、本県では、小中学校における初任者研修を原則として、拠点校方式により実施している。

そのような中、初任者研修を進めていく上で、次のような課題が出てきている。

- ・ 学校全体で初任者を指導する体制が不十分な場合がある。
- ・ 異動等の関係で初任者を受け入れる学校に研修のノウハウが蓄積されにくく、学校全体の指導体制を構築するまでに時間や労力がかかっている。
- ・ 初任者一人あたりで見れば、拠点校指導教員による指導が週に1回程度しかなく、指導日から次の指導日までの間の直接的な指導が不十分になる。
- ・ 拠点校指導教員の能力に差があり、指導の質が十分担保されていない場合がある。また、初任者の状況把握が十分できない場合もある。
- ・ 校内指導教員は、他の校務との兼任のため初任者研修のコーディネートや指導に専念できず、初任者指導のインセンティブが働きにくい。
- ・ 初任者自身も日々の校務や学級経営で精一杯になってしまい、研修に力を注ぐゆとりがない。また、同年代の教職員が少ないために孤立感をもっている初任者や相談できる相手が少ない初任者もいる。

これらの課題を解決するために、調査研究方式による初任者研修を試行実施し、「初任者に対する効果的・効率的な研修が実施できるよう、学校全体で初任者を指導・評価するとともに、初任者が研修に専念できる体制の構築」に係る調査研究を行うこととした。

### (2) 研究の目的

県内の小・中学校の中から調査研究校を指定し、各校における調査研究を進め、次の事項について整理しつつ、調査研究方式の成果、課題等を明らかにする。

#### ①学校の選定等

- ・ 調査研究方式が実施可能な学校の特徴（学校規模、地域等）
- ・ 調査研究方式による学校の選定の上で、配慮すべき事項

#### ②初任者研修の実施体制

- ・ 学校全体で指導する体制の整備の在り方（指導教諭等や指導教員をはじめとする教員ごとの役割分担等）
- ・ 初任者を副担任とするなど、負担軽減の方策
- ・ 初任者と2、3年目程度の教員との関わりの持ち方

#### ③研修等の内容

- ・ 調査研究方式における初任者の年間の勤務として適切な在り方
- ・ 調査研究方式に適した年間の研修の在り方
- ・ 初任者の評価（評価方法、評価者等）

#### ④その他

- ・ 調査研究方式と現行の方式（拠点校方式、自校方式）との比較

### (3) 研究の具体的内容

徳島県教育委員会と調査研究校・関係市町教育委員会が連携を図りつつ、次のことに取り組んだ。

- ① 初任者研修実施校の選定に係る条件・基準の明確化
  - ア 望ましい学校規模等
  - イ 人事配置の配慮点
  - ウ 調査研究方式と現行の方式（拠点校方式，自校方式）との比較
- ② 初任者研修の校内指導体制の確立と充実
  - ア 初任者指導のインセンティブが働く校務の工夫や学校全体で初任者に関わるための指導・評価の手立て
  - イ 初任者研修推進委員会等の効果的な運用
  - ウ 初任者の状況把握と初任者に対する相談体制の整備
- ③ 研修等の内容の充実
  - ア 初任者の年間の勤務，初任者の校務（担任・副担任・TT担当等）を見通した研修内容や指導方法の工夫
  - イ OJTによる研修と直接指導による研修のバランス
  - ウ 研修のノウハウの蓄積方法

### (4) 研究の実施主体と方法

- ① 調査研究の実施主体
  - ア 「(1) ①初任者研修実施校の選定に係る条件・基準の明確化」については，徳島県教育委員会
  - イ 「(1) ②初任者研修の指導・評価体制の確立と充実」及び「(1) ③研修等の内容の充実」については，調査研究校と徳島県教育委員会
- ② 調査研究の方法
  - ア 調査研究実施主体関係者による「調査研究事業連絡協議会」（以下「連絡協議会」という。22名で構成。）を設置し，調査研究に関する諸事項について協議を行い，事業の成果や課題を明らかにしていった。（年4回実施）
  - イ 調査研究方式実施校指導教員（総括担当），大学教授，県教育委員会教職員課関係職員による「指導教員（総括担当）調査研究事業検討会議」（以下「検討会議」という。9名で構成。）を開催し，具体的な調査研究について情報交換等を進める中で，具体的な部分についての事業の成果や課題を明らかにしていった。（年2回実施）
  - ウ 学校訪問時における聞き取り調査（初任者，指導教員（総括担当・授業研修担当・一般研修担当），管理職員を対象）の実施
  - エ 先進校等視察として、学校経営に組織マネジメントを取り入れ校内における教職員研修が活性化している小・中学校を選定し，学校代表者等で訪問し，具体的なノウハウ等を学び調査研究校の取組に反映させた。（静岡県内の小中学校を視察）また，初任者研修についての研究発表会に参加し，情報共有を図った。（広

島大学シンポジウムに参加)

オ 調査研究実施主体によるアンケート調査(初任者, 指導教員(総括担当・授業研修担当・一般研修担当), 管理職員, その他の教職員を対象)の実施

カ 調査研究校の報告書の分析

各調査研究校の報告書をもとに, 調査研究方式の成果と課題を明らかにした。

#### (5) 研究の経過

研究の経過は, 表1のとおりである。

表1 研究の経過

月	実施状況 (徳島県教育委員会実施分)
4月	・4/30 調査研究校「調査研究事業実施計画書」提出
5月	・5/19 第1回検討会議 ・5/30 第1回連絡協議会
6月	・6/16 学校訪問における聞き取り調査①(藍住中) ・6/17 学校訪問における聞き取り調査①(千松小) ・6/23 学校訪問における聞き取り調査①(羽ノ浦小) ・6/26 学校訪問における聞き取り調査①(城西中)
7月	・7/ 4 先進校視察(小)(静岡県細江小) ・7/14 学校訪問における聞き取り調査①(松茂小) ・7/14 学校訪問における聞き取り調査①(北島小)
8月	
9月	・9/24 第2回連絡協議会
10月	・10/21 学校訪問における聞き取り調査②(藍住中) ・10/28 学校訪問における聞き取り調査②(千松小) ・10/31 学校訪問における聞き取り調査②(羽ノ浦小)
11月	・11/10 先進校視察(中)(静岡県相良中) ・11/13 学校訪問における聞き取り調査②(城西中) ・11/26 学校訪問における聞き取り調査②(松茂小) ・11/26 学校訪問における聞き取り調査②(北島小)
12月	・12/ 3 第3回連絡協議会 ・12/ 4 アンケート調査(～12/15)

1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1/28 第2回検討会議</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/ 6 調査研究校「調査研究事業実施報告書」提出</li> <li>・2/ 8 初任者研修シンポジウム参加（広島大学）</li> <li>・各調査研究校報告書の分析</li> <li>・2/20 第4回連絡協議会</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各調査研究校報告書の分析</li> <li>・研究成果報告（リーフレット）の配布（県内公立学校及び市町村教育委員会等）</li> <li>・成果報告書の作成</li> </ul>

## 1) 連絡協議会・検討会議

### 第1回検討会議 2014年5月19日 徳島県立総合教育センター

主として、各調査研究校の「調査研究事業実施計画書」をもとに、各校における調査研究の進め方についての報告と方向性の確認及び大学関係者(委員)による研究を進める上での指導助言を行った。

### 第1回連絡協議会 2014年5月30日 徳島県庁

各調査研究校の研究の方向性及び具体的な研修のための手立てについての報告を行うとともに、初任者研修を進めていく上での課題の共有化を図った。

### 第2回連絡協議会 2014年9月24日 徳島県庁

各調査研究校の研究の進捗状況についての報告を行うとともに、参加委員による研究を進めていく上での指導助言を行った。また、静岡県牧之原市立細江小学校の視察についての報告を行い、「初任者研修を進めていく上での校内指導体制の充実の重要性」や「効果的な授業研修のノウハウ」等について共有化を図った。

### 第3回連絡協議会 2014年12月3日 徳島県庁

各調査研究校の研究の進捗状況についての報告を行うとともに、研究内容②「初任者研修の校内指導体制の確立と充実」に関する報告を実施した。また、静岡県牧之原市立相良中学校の視察についての報告を行い、「授業スタイル(学び方)の確立」や「OJTによる力量育成」等について共有化を図った。

### 第2回検討会議 2015年1月28日 徳島県立総合教育センター

主として、各調査研究校の「調査研究事業実施報告書」の概要をもとに、各校における調査研究の成果と課題についての報告を行い、研究のまとめと今後の方向性等について大学関係者(委員)による指導助言を行った。

写真 1 連絡協議会

第4回連絡協議会 2015年2月20日  
徳島県庁

各調査研究校の「調査研究事業実施報告書」に基づいた研究内容②と③のまとめ及び研究内容①「初任者研修実施校の選定に係る条件・基準の明確化」についての報告を行うとともに、各委員による今後の初任者研修の在り方についての意見交換等を行った。



2) 学校訪問時における聞き取り調査

2014年6月から7月にかけてと10月から11月にかけての計2回、各調査研究校を徳島県教育委員会事務局員(管理主事)が訪問し、初任者の授業参観・協議とともに、次のとおり聞き取り調査を行った。

①学校長

主として、調査研究の概要・初任者研修の進捗状況・初任者の状況について

②指導教員

主として、初任者研修の進捗状況・初任者の状況について

③初任者

主として、初任者研修の状況・全般的な勤務状況について

3) 先進校等視察

①静岡県牧之原市立細江小学校 2014年7月4日

小学校の調査研究校代表者・大学関係者・徳島県教育委員会事務局員(管理主事)が参加し、授業研究の具体的な進め方について参観及び講義を受けた。

②静岡県牧之原市立相良中学校 2014年11月10日

中学校の調査研究校代表者・大学関係者・徳島県教育委員会事務局員(管理主事)が参加し、授業研究の具体的な進め方について参観及び講義を受けた。

③広島大学シンポジウム 2015年2月8日

徳島県教育委員会事務局員(管理主事)が参加し、広島県の取組(初任者研修支援プログラムの開発, 教育委員会・学校・大学の連携・協働の方法)について研修した。

4) 調査研究実施主体によるアンケート調査の実施

実施期間 2014年12月4日から15日まで



- 対象者 調査研究校の初任者，指導教員(総括担当・授業研修担当・一般研修担当)，管理職員，その他の教職員
- 調査項目 様式1：初任者用 (参考資料参照)
- 様式2：関係職員用 (参考資料参照)

(6) 研究の実施体制

表2 研究の実施体制

所属部署・職名	氏名	役割分担
教育長	佐野 義行	事業の総括
教職員課 課長	美馬 持仁	調査研究事業の推進代表者
教職員課 主幹(小中担当)	竹内 敏	事業の計画・実施・評価の総括リーダー
教職員課 副課長	原 政敏	事業の計画・実施・評価のサブリーダー
教職員課 統括管理主事	藤田 完	事業の計画・実施・評価の具体的推進，経費
教職員課 管理主事	多喜川広伸	事務連絡担当，事業の具体的推進，経費
教職員課 管理主事	眞摺 秀也	事業の具体的推進
教職員課 課長補佐	並川 竜彦	経費支出

2. 研究内容①「初任者研修実施校の選定に係る条件・基準の明確化」について

このことについては，拠点校方式によらない形で初任者研修を進めていく場合の諸条件について徳島県教育委員会教職員課人事担当者と協議したことを基に策定した。条件・基準については，次のとおりである。

(1) 望ましい学校規模等

- ①毎年2人以上の初任者を配置できること
- ②一定規模以上の学校であること
  - ・小学校：1学年3学級以上
  - ・中学校：1学年5学級以上
- ③全県的な視野から地域のバランスをとること

今回の調査研究を進めるにあたり指定した調査研究校は、この条件に合致しており、学校全体の意識の向上を図るのに適切な規模であった。

しかし、2人以上配置できる規模の学校が限られており、地域のバランスをとることは難しく課題となった。

## (2) 人事配置の配慮点（方針）

- ① 2人配置の内、1人は新卒等経験が少ない者、もう1人は講師経験がある者を配置すること
- ② 中学校においては、教科の関係を重視して配置すること
- ③ 初任者を指導できる教師を配置すること

今回、初任者を配置するにあたって、①から③の条件を基準として、市町教育委員会、学校長とのより丁寧なヒアリングを実施し、人事配置をすることができた。

しかし、男女比、年齢構成、経験年数、講師等全ての要素を調整することは、他の配置条件等もあり困難であった。

## (3) 調査研究方式と現行の方式（拠点校方式等）との比較

このことについては、表3のとおりである。

調査研究方式においては、学校や初任者の実態に応じた初任者研修の指導体制を整備していく上で、多くのメリットがある。初任者研修を学校運営のマネジメントに取り入れることにより、より効果的な取組を進めることが可能となる。

表3 調査研究方式と現行の方式（拠点校方式等）との比較

	拠点校方式	調査研究方式
初任者の配置	単年度で考えることを基本とし、1校1人配置が原則。可能であれば2人配置。	複数年にわたって初任者を2人配置することで、より計画的な学校マネジメントが可能。
指導教員の任命	本人の希望や校長、地教委からの具申等で拠点校指導教員を任命するが、学校の要望（教科等）に必ずしも合致する者を任命できるとは限らない。 また、拠点校指導教員は限られた曜日の勤務なので常時指導することが難しい面もある。	最も適性がある者を指導教員に充てることが可能となり、初任者への指導、教職員との調整等を適宜行うことができる。 学校の実態や状況に合う初任者研修の指導が可能となる。また、適材適所を考慮した分掌配置、学校マネジメントが可能となる。

### 3. 研究内容②「初任者研修の校内指導体制の確立と充実」について

このことについては、徳島県教育委員会において、次のような方針を示し、調査研究校における研究を推進した。また、徳島県教育委員会の学校訪問による聞き取り調査やアンケート調査の結果も反映した。

以下、取組の実際と成果・課題を記す。

#### (1) 初任者指導のインセンティブが働く校務の工夫や学校全体で初任者に関わるための指導・評価の手立て

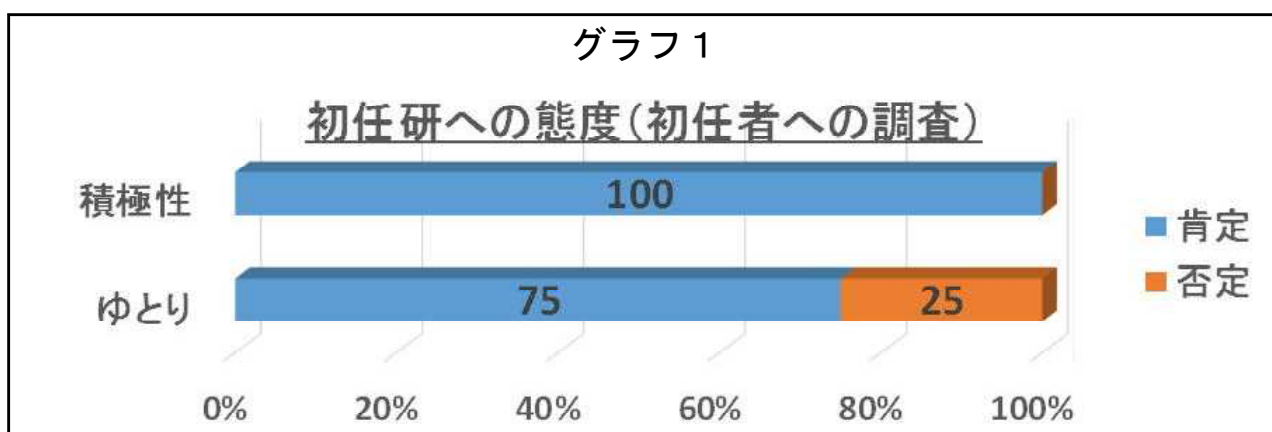
(県教育委員会の方針)

- ① 指導教員として、総括担当、授業研修担当、一般研修担当の3つの役割を設けるとともに、総括担当と一般研修担当の兼務を可能とする等、学校の実態に応じた運用をする。
- ② 副担任もしくはT T教員等の初任者には、学習指導や学級経営を研修できるベテランの正担任を、正担任の初任者にはサポートができるベテラン教師を指導教員(副担任)として充てる。
- ③ 授業研修は、初任者1人につき、少なくとも1人の指導教員を充てるようにし、継続・一貫した指導を行う。
- ④ できるだけ多くの教員が初任者研修に関わる「全校体制」で実施する。
- ⑤ 初任者や指導教員の担当時数や校務分掌を軽減し、ゆとりをもって初任研に取り組めるようにする。

(各調査研究校の取組)

- 初任者の校務分掌については、複数担当制を基本とし、中堅教員の補佐役として初任者を充てたり、初任者を主任とした場合は、ベテラン教員を副主任として充てたりした。
- 初任者の資質・能力を考慮して校務分掌を決定するようにし、職務に慣れるに従って少しずつより責任の重い校務を担当させるようにした。
- 指導教員の専科担当時間を減らし、初任者の授業のT T指導の時間を増やすなど時間割を工夫して編成した。
- 低学年配属の副担任の初任者を専科教員として高学年の授業の担当をさせ、1人で授業をできる機会を確保した。
- 学年団を基軸に運営できる初任者研修の体制づくりを行い、学年団と指導教員、教科担当等で連携して推進した。
- 加配教員の1人を初任者の指導教科と同一とし、全学年全学級の授業をチームティーチングで行った。T 1・T 2を交代しながらの授業とすることで、生徒管理の負担軽減や効果的・効率的な授業運営を図った。
- 年度当初、全教職員に研修に協力できることについてのアンケートを実施し、担当指導教員だけではなく、専門的知識や技能を有する多くの教員が初任者に対して講話や授業の指導・評価を行った。
- 初任者が気軽に他の学級を参観したり他の教員に質問したりできるよう全教職員間で共通理解を図った。

- 学期に1回以上、職員会議で初任者自身が初任研についての感想・意見・成果を発表する場を設けた。
- 評価は、初任者の観察、協力してくれた教員からの聞き取り、初任者自身の自己評価、一般研修のときの聞き取りなどの機会を通して行った。
- 評価については、初任者が「授業に関すること」と「生徒指導に関すること」、指導者が「授業に関すること」と「初任者の言動に関すること」で、年間を通して定期的に評価カードをつけてきた。また、教科主任やベテラン教員の示範授業を参観した時はねらいやポイントを書く欄を設けた参観授業記録を残し、実践に役立てた。



#### アンケート結果の考察

- 全員の初任者が積極的に初任研に取り組み、75%の者がゆとりをもって取り組めたと考えていた。拠点校方式の初任者については、ゆとりをもって取り組めていない場合も多いという実態があり、本研究を進めることにより、調査研究校の初任者に対して、ある程度のインセンティブを生むことができたと考えられる。

#### 成果

- 「全校体制」で初任者研修を実施することについての共通理解・意識化を図ることができた。
- 初任者研修や初任者により多くの教職員が関わることにより、指導教員等初任者研修担当者の業務をシェアすることで指導のインセンティブが働く状況が整いつつある学校もあった。
- 学校の実態に応じた弾力性のある体制・組織の構築ができつつある。また、初任者の状況に応じた指導ができるようになった。
- ペアでの校務、ペアでの研修により「校務遂行」の力量が向上した。
- 多くの教員が関わって多様な方法で初任者の評価ができた。

#### 課題

- 初任者を副担任とすることには課題が多い。副担任制は、小・中学校とも土壌が育っておらず、任命・運用ともに困難を伴う。「学年付け副担任」制の検討が必要である。
- 指導教員の負担軽減については、「全校体制」を志向したが、今後さらに研究を

進めていく必要がある。

- 評価の方法，尺度並びに評価結果の活用方法については，更なる検討が必要である。

## (2) 初任者研修推進委員会等の効果的な運用

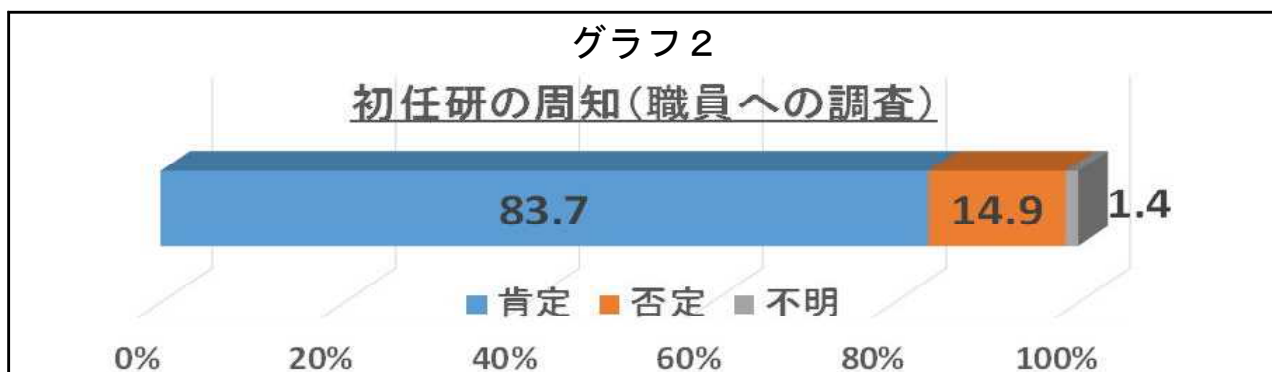
(県教育委員会の方針)

- ① 総括担当の指導教員が主宰し，管理職員，授業研修担当，一般研修担当，教務主任等で構成したメンバーで定期的実施する。
- ② 初任者研修及び調査研究事業の進捗状況や成果・課題の整理と次の取組への展望について協議する。
- ③ 必要に応じて，協議した内容を職員会議や校内研修で周知し，全校への意識化を図る。
- ④ 負担等を考慮した効果的な運営を行う。

(各調査研究校の取組)

- 学年団と連携して，初任者研修推進委員会を運営し，全校での共通理解を図ることができるように心がけた。
- 毎月1回校内企画委員会後に定例で開催することとした。全校職員での協議が必要なときは，校内研修や職員会議と兼ねて実施した。
- 「初任者研修便り」を発行し，初任者研修の実施状況や計画，推進委員会等で協議したことを周知するようにした。
- 初任者の課題について，具体的な解決方法を協議したり，研修内容を検討したりした。

写真2 初任者研修推進委員会



アンケート結果の考察

- 初任研の周知について，83.7%の教職員が「肯定」としている。推進委員会での協議が，教職員の共通理解にプラス面の影響を与えており，今年度の結果は，調査研究の初年度としては，ほぼ満足できるものである。

## 成果

- 企画委員会に引き続き行うことで、無理なく時間の確保ができた。メンバーに新たな負担なく実施できた。
- 年間を通して計画的に行うことで初任者の成長を確認することができた。初任者をメンバーに加えることで、初任者の状況が具体的に分かった。
- メンバー構成や実施日（企画委員会の後等）、運営に係る事務の効率化などを工夫することで、計画的な実施も可能となった。
- 推進委員会で協議した内容を初任研や学校運営に反映させることで、共通理解が容易になり全校指導体制の確立に向かうことができた。
- 初任者研修推進の協議だけでなく、その先の人材育成を見据えた取組についての協議も進めることができた。

## 課題

- 行事等で日程やメンバーの変更を受けやすい。定例化するための工夫とそれに係る事務の効率化に取り組む必要がある。
- 推進委員会に初任者が参加する場合とそうでない場合の進め方について検討していく必要がある。

## (3) 初任者の状況把握と初任者に対する相談体制の整備（「若手教師の会」等の設立と運営）

### （県教育委員会の方針）

- ① 初任者が気軽に相談できる体制の整備や方法の開発に努める。
- ② 若手教師（3年未満程度）の定期的な情報交換会を実施し、研修を進めていく上での助言を得たり悩みを相談し合えたりできる場を整え、相談体制の充実を図る。

### （各調査研究校の取組）

#### ◇相談体制の整備

- 学年団の組織を生かし、学年間で共通理解を図りながら初任者が相談しやすい体制づくりに努めた。
- 初任者の状況を把握するために「行動面の評価」「授業評価」等の「評価カード」を初任者・指導者が作成し、学年団や入り込みの教員と情報交換を行った。
- 初任者の状況把握をするために、総括担当の指導教員が初任者2人のクラスで専科教員をし、日常的に相談にのる体制を整えた。
- 初任者が話しやすい教員を事前に決め相談にのる「バディ・システム」を取り入れた。

写真3 評価カード

初任者の授業自己評価		1月15日	
教科 国語	単元・題材名 文と文とのつながり	氏名 ( )	
<4 たいへんよくできている>			
項目	評価	4	3
1 学習指導要領に基づき、かつ、児童に課題意識を持たせて授業ができたか。	4 3 2 1	③	2 1
2 展開における展開や指示、発問の取り上げ方が適切であったか。	4 3 2 1	③	2 1
3 板書やノート指導を適切に行ったか。	4 3 2 1	③	2 1
4 教師の立ち位置、話し方は適切であったか。	4 3 2 1	③	2 1
5 教材・教具などを活用し、分かりやすい指導ができたか。	4 3 2 1	③	2 1
6 個に応じた指導ができたか。	4 3 2 1	③	2 1
7 「ねらい」が達成できたか。	4 3 2 1	③	2 1
<所見>			
国語の授業もごんすのわを経験したせいか、楽しんでいる様子。めあてはノートに書かせるなど、細い指示も忘れないうれしく行っていた。			



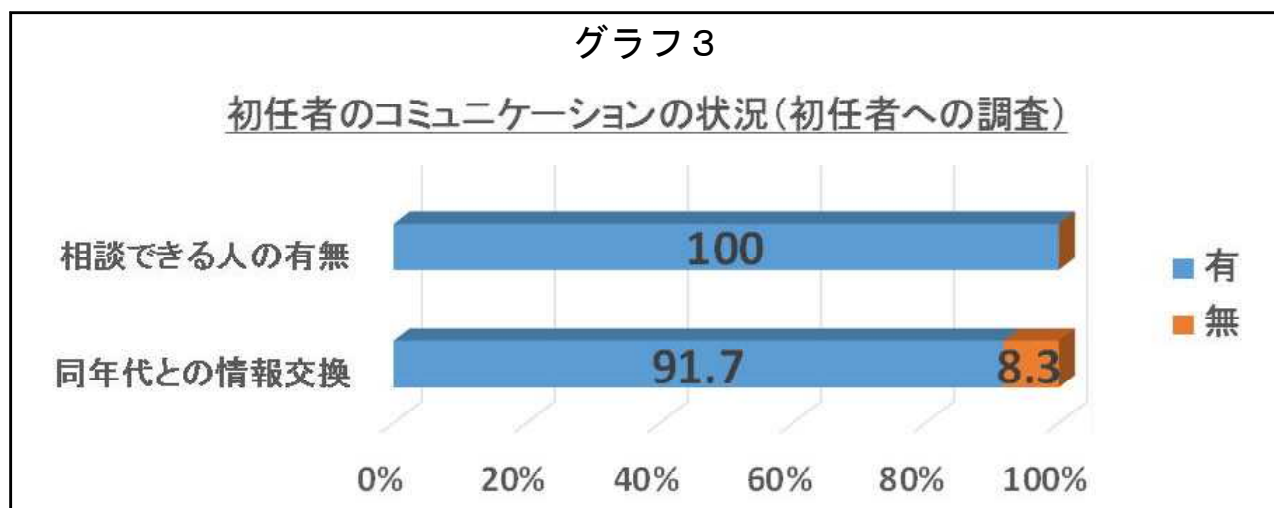
- 学年団，教科団，部活団と様々な側面からのサポート体制を整えた。
- 初任者の職員室の席を学年団の中央にし，その隣に一般研修担当（学年主任）を配置し，情報交換や相談がしやすいように配慮した。

◇「若手教師の会」等の設立と運営について

写真4 若手教師の会

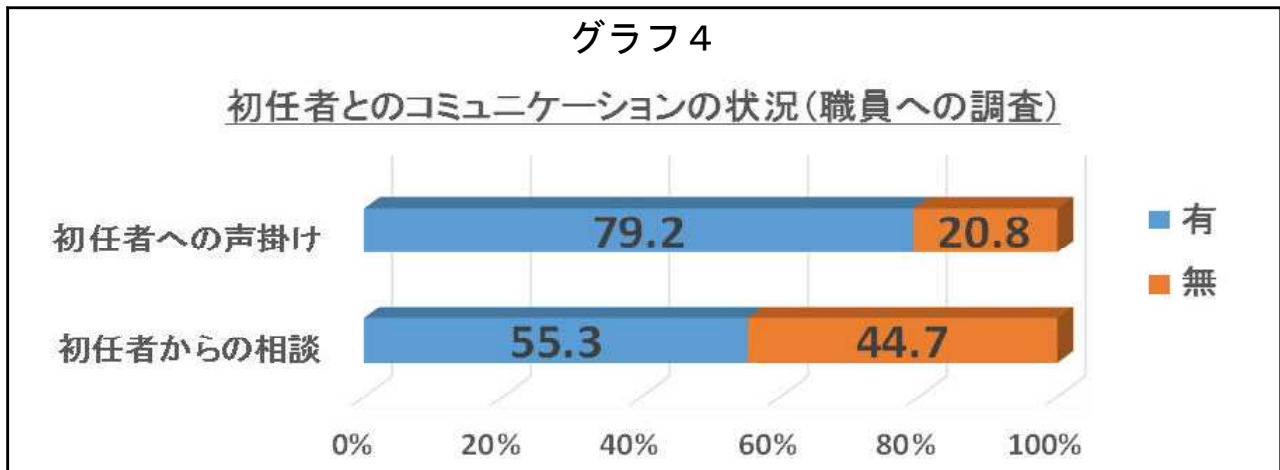


- 初任者，2年次教員，臨時教員，総括担当も参加し，日頃の様々な思いを共有し合い，励まし合い，学び会える場とした。
- 企画委員会と同時刻に開催し，毎回「テーマ」を決めて，研修や話し合い等を行った。何でも話せる場とした。
- 経験年数3年までの教員の会及び8年までの教員の会の2つを設立し，指導教員（総括担当）がコーディネートし，定期的実施した。
- 年度当初は若手教師の会を定期的開催し，徐々に自主的な運営に移行するように配慮した。話し合うテーマは事前に掌握し，指導教員も必要に応じて参加した。
- 従来から校内で実施していた「熱血教師塾」の後の時間帯に実施した。参加メンバーの距離が縮まり，相談しやすい人間関係ができた。
- 初任者，2年次教員，3年次教員，採用後2校目の教員をメンバーとして会を実施し，学級経営や部活動，生徒の状況について情報交換をした。



アンケート結果の考察

- 全員が相談できる教職員がいると回答した。常時指導する教職員が2名以上いる上に，学年団や教科，部活動など様々な側面から，複層的に手厚いサポートを受ける体制があり，若手教師の会等でラポートな関係も醸成されていると考える。



#### アンケート結果の考察

- 「声掛けをしている」という回答が79.2%あるものの、「初任者からの相談があった」という回答は55.3%にとどまっている。この結果は、初任者以外の教職員の数と初任者の人数が絶対的に違うことから生じていると考える。調査研究校の学校規模からすれば、学年が違うことや教室が離れている等の物理的な要因等を考えた場合、本来はもっと低い数値になることが想定される。

#### 成果

- 相談体制の整備により、初任者は安心して職務に取り組むことができた。
- 初任者とのコミュニケーションを図ろうとする意識が高まり、初任者の状況把握や時宜を得た対応ができるようになった。さらに、「報告・連絡・相談」を確実に行う習慣が定着した。
- 「学年団」など既存の組織を活用したり、バディ・システムを取り入れたりすることで、初任者のニーズに応える相談体制ができた。

#### 課題

- 初任者の育成が、他の教職員の資質や能力を伸ばすことにもつながるという意識を全体的に高めていく必要がある。
- 相談のための時間や質の確保をいかにしていくか、指導教員がどこまで関わるのか、といったことについての研究が必要である。
- 初任者自身が受け身ではなく自発的、積極的に人と関わったりしていく態度や姿勢をどのように育てていくか考えていくことも重要である。

#### 4. 研究内容③「研修等の内容の充実」について

このことについては、徳島県教育委員会において、次のような方針を示し、調査研究校における研究を推進した。また、徳島県教育委員会の学校訪問による聞き取り調査やアンケート調査の結果も反映した。

以下、取組の実際と成果・課題を記す。

- (1) 初任者の年間の勤務、初任者の校務（担任・副担任・TT担当等）を見通した研修内容や指導方法の工夫



(県教育委員会の方針)

- ① 調査研究校における校内研修，校外研修とも拠点校方式と同様の時間数を実施することを基本とする。
- ② それぞれの初任者の1年間の勤務の状況や担当校務を見通した研修内容や方法を工夫する。

(各調査研究校の取組)

- 授業の指導において課題と身につけさせたい力を整理し，最初は基本的なことを指導し，達成状況に応じて徐々に話法や指名の仕方などの細かい点も指導するようにした。
- TTの授業において，後期からとT1として入る機会を増やしたり，教材によっては一単元を通してT1として指導をするようにした。
- 学年全学級の同一教科をT1として担当。T2である各学級の担任の指導を受けられやすいようにし，教材研究や資料作り等に積極的に取り組めるようにした。
- 副担任の初任者に対し，特定の曜日において朝の活動から給食までを責任をもって指導するようにした。また後期は終日担任としての指導ができるような時間割編成を行った。
- 先進校視察で学んだ「学習のスキル」「家庭学習の手引き」を応用して全校統一型の授業スタイルを推進している。児童は友達の話最後まで聞き，自分の考えをはっきり話す力が定着してきている。初任研での学びが学級だけでなく全校としての取組へと広がった。
- 2学期の10月から11月にかけて「指導力向上研修期間」を1か月程度設定し，研究課題を教職員全員が共通理解した後，「①教科部会の実施，②研究授業の実施，③レポート作成」の研修スタイルによって研修を推進した。

成果

- 初任者の成長に応じて研修内容を工夫することで，ゆとりをもち，今必要なことに重点をおいて指導することができた。
- 副担任として正担任の授業や学級経営を参観することにより，授業方法，学級経営，保護者との対応等について実践的に習得することができた。
- TTでの授業を実施する中で，生徒指導上課題のある児童生徒に対応することができた。
- 研究授業に向けて，他の教職員が指導・助言したり，指導教員以外の教員が同じ単元で示範授業をしたりするなど，初任者と学び合う場面が見受けられた。
- 初任者は，授業力に自信をつけ，学級経営にもやりがいや充実感を感じている。

課題

- 正担任と副担任との研修内容は若干異なるが，一般研修としてはほぼ同じ内容で指導しなければならないことが多く，課題が残った。
- 副担任の立場で，「担任としての指導力」の向上を図ることについては難しい側面がある。
- 研修目標の達成に向けて，何をどう頑張っていくのかを焦点を絞って具体的に

示していく必要があると感じた。

## (2) O J Tによる研修と直接指導による研修のバランス

(県教育委員会の方針)

- ① 研修の効率化や多くの教職員が指導にかかわることによる学びの向上を図るため、O J Tによる研修と直接指導による研修のバランスを工夫する。

(各調査研究校の取組)

- O J Tによる授業研修として、多くの教員がその能力に応じて役割分担し、初任者に適切な指導を行った。
- 1学期の研修のO J Tによる研修と直接指導による研修の割合を3対7程度、2学期以降は7対3程度として実施した。これは、研修計画立案の際に、「O J Tによる研修での気づきが力量に繋がる。直接指導による研修は、気づきを整理し力量に繋げていくための知識を得る場である」と考えたことによる。
- 校内研修会を2部制(若手中心の研修と全教職員による研修)により実施し、教職経験年数やスキルに配慮した研修内容を工夫した。

成果

- 効果的な指導により、初任者は行事などの意義や運営方法、配慮事項など多くのことを総合的に学び実践につなげている。
- 初任者の状況に応じて、指導内容や方法を弾力的に変更したことで、研修の個性化や精緻化への道筋ができた。
- 初任者研修と他の校内研修を関連づけることにより、初任者研修への理解が促進されるとともに、全校一致での初任者研修の推進の契機となった。
- 学年行事や学年学習などの場面での指導を初任者に任せ、直接指導とO J Tによる指導をバランスよく取り入れたことで、初任者の指導力の向上を図ることができた。
- チームを組んでトラブル処理にあたることで、初任者の負担を軽くすることができた。
- 「報告・連絡・相談」をきちんする習慣が初任者に付いた。

課題

- 「O J Tでできること」と「O J Tでできないこと」との指導内容の精査が今後、重要となる。
- 学校マネジメントの観点から授業研修や一般研修での協力指導者の選定をしたり、初任者の自主性を引き出す手立てをが考えたりする必要がある。

## (3) 研修のノウハウの蓄積方法

(県教育委員会の方針)

- ① 次年度以降の研修の効率化や指導についての共通理解を図るためのノウハウの蓄積を工夫する。

(各調査研究校の取組)

- 研修記録，評価カード，記録ノート等をポートフォリオ的に蓄積することに取り組んだ。
- 研修内容や方法，研修時の写真や映像等をファイルへ保存したり，指導案・研修時の資料をまとめた冊子を作成したりした。
- 紙媒体やプレゼンテーション資料，ワークシートの電子媒体化を行い，指導者が誰でもアクセスできるようにした。



#### 成果

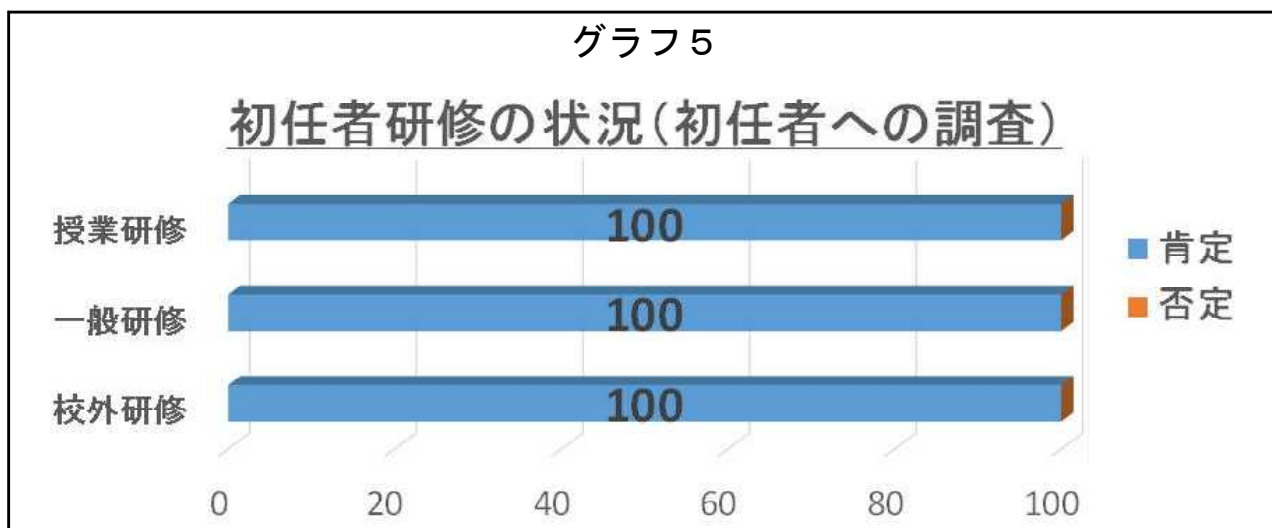
- 初任者の学びや課題について整理することができた。
- 研修記録を見直すことで研修内容の評価・反省をすることができ，次の研修に向けた改善を図ることができた。

#### 課題

- 保管しているファイルやデータについて，関係教職員の誰もが手軽に活用するための手立てが必要となる。
- 他の初任者研修実施校の指導教員と連絡を取り合うことが必要であると再認識した。他校の取組を参考にできるデータベースがあるとよい。

## 5. 研究のまとめと考察

今回の調査研究を通して，「初任者に対する効果的・効率的な研修を実施し，学校全体で初任者を指導・評価するとともに，初任者が研修に専念できる体制の構築」に関して，次のような成果と課題が確認できた。



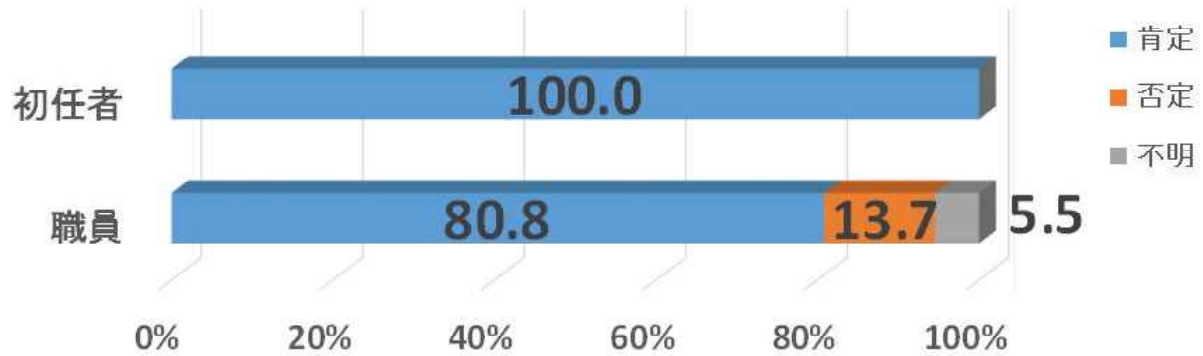
グラフ6

初任者研修の状況(職員への調査)



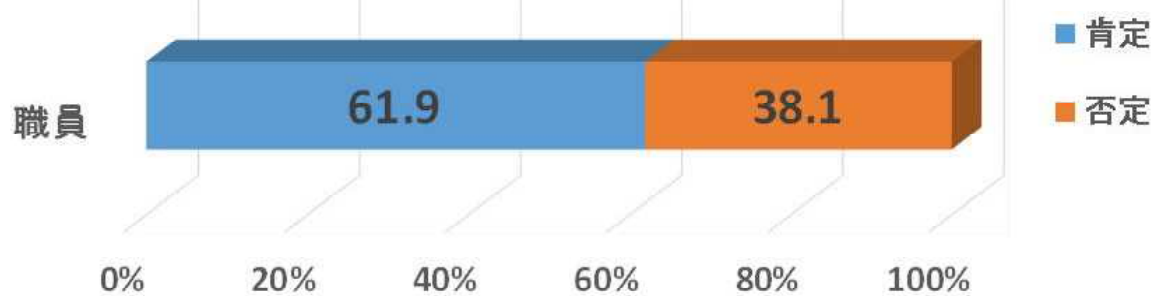
グラフ7

初任研への職員の関わり



グラフ8

授業研修・一般研修への関わり(職員への調査)



## アンケート結果の考察

- 「初任者研修の状況」及び「初任者研修への職員の関わり」について、初任者は全員が研修の成果を肯定的に捉えている。
- 「初任者研修の状況」について、初任者以外の教職員の約80%の者が、授業研修、一般研修のどちらに対しても肯定的に捉えているものの不明と捉えた者が約20%いる。
- 「初任者研修への職員の関わり」について、初任者以外の教職員の13.7%が否定的に捉え、5.5%が不明と回答している。「否定」と「不明」を合わせた数値「19.2%」は初任者研修の状況が不明であるとした「20%」とほぼ重なる。このことは、「初任者研修の状況が分かっていない教職員が初任者研修への関わりも薄い」ということを示唆していると考えられる。
- 「授業研修や一般研修への『教職員自身の関わり』」について、38.1%の教職員が関わっていないと捉えている。
- このことから、初任者の「研修の状況」はよい状態であると考えられるが、授業研修や一般研修に、具体的に関わっていない教職員も、かなりの率であり、改善の余地があると考ええる。

## 成果

- (1) 年間の勤務や校務を見通した初任者研修の内容や方法を組織として考えていくことにより、学校としての指導体制が強固になってきた学校が多かった。
- (2) 新たな初任者研修の進め方について「初任者の状況」や「学校の状況」に応じて、弾力的に運用していったことで、「研修の個性化や精緻化」への道筋をつけることができた。
- (3) 「直接指導による初任者研修の実施」と「OJTによるもの」についてバランスを考慮しながら取り入れていったことで、初任者の指導力向上に係る指導教員等の負担感を減らすことができ、指導のインセンティブの改善にもつながった。
- (4) 初任者研修で得られた知見を全体の教職員研修や学校マネジメントに活かすことができ「教職員全体の資質や能力」の向上につながった。

## 課題

- (1) 副担任の立場で、「担任としての指導力」の向上を図るには難しい側面がある。採用後2年間で初任者として必要な知識やスキルを身に付けていくことも視野に入れた研修内容の整理も必要である。
- (2) 「学校マネジメント」の観点から、授業研修や一般研修における指導教員以外の指導者を選定することを今後も推進していく必要がある。
- (3) 初任者の実態に応じた研修の推進も重要であるが、初任者自身の主体性を引き出す手立ても同時に考えていく必要がある。

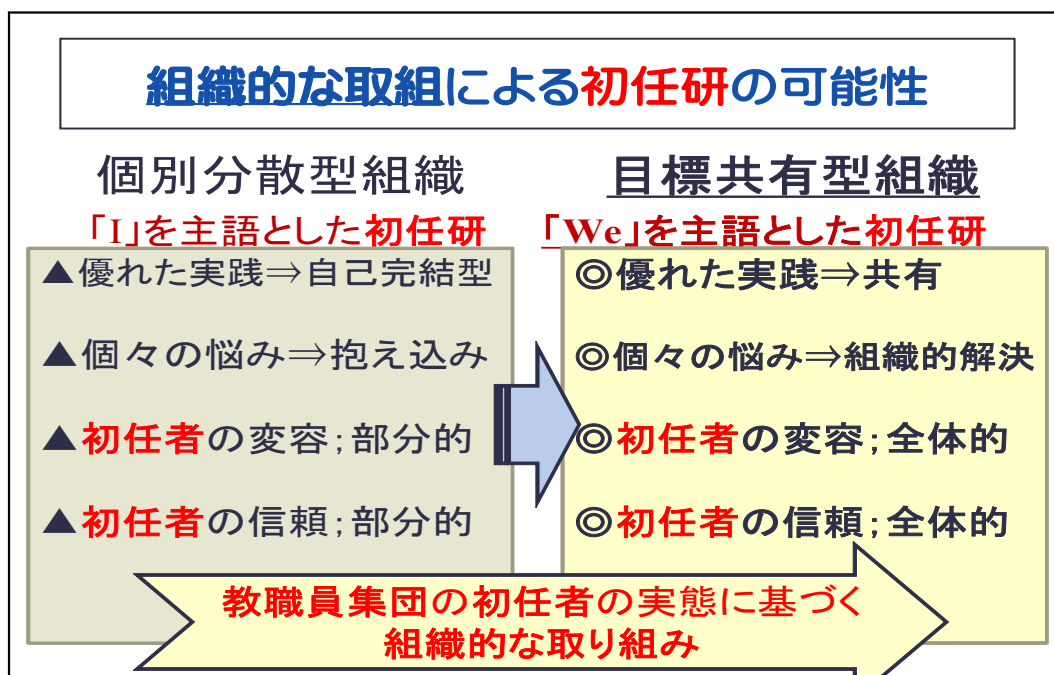
## 考察

今回の調査研究事業では、まず、「初任者の力量形成」において、授業力や学級経営力等が確実に身に付いた。また、研修の内容や方法の確立に創意工夫が見られた。しかし、副担任制度の実施については、運用についての更なる検討や実践の積み上げが必要と考

える。

次に、「教職員全体の力量形成」において、初任者を含む若手教師を、組織の成員全員で育てる意識が高まるとともに、教職員全体の資質、能力の向上も見られた。今後、全教職員が初任者を育てることを通して、自身も向上していくための手立ても充実していく必要がある。

図1 学校マネジメントと初任者研修



連絡協議会委員鳴門教育大学久我直人教授の考え方によるモデル図

最後に、「学校マネジメントの充実」において、学校長等管理職員が初任者研修を学校マネジメント推進の核のひとつと捉え、全校体制で初任者研修を進めていくことにより、指導教員を組織の中のリーダーとして活用したり、育成したりすることにもつながった。また、既存の制度を新しい制度にうまくつなぐことにより、一層効果的な研修推進を図る学校もあった。今後は、図1のような考え方により初任者研修を捉え、学校マネジメントの一環として進めていくことも重要であると考え。さらに、今年度整えた仕組みの定着や成果の還元をどのように図っていくかといったことも課題と考える。

## 参考資料

徳島県総合的な教師力向上のための調査研究事業連絡協議会設置要綱

アンケート調査用紙

調査研究校の実施報告書

## 徳島県総合的な教師力向上のための調査研究事業連絡協議会設置要綱

### 1 設置の目的

徳島県総合的な教師力向上のための調査研究事業連絡協議会（以下「連絡協議会」という）は、校内における初任者研修を効果的・効率的に実施し、学校全体で初任者を指導・評価する体制や初任者が研修に専念できる体制の構築を進めるための調査研究の諸問題について研究協議を行うことにより調査研究事業の充実を図るために設置する。

### 2 連絡協議会の構成

(1) 連絡協議会の委員は次に掲げる者によって構成する。

① 大学関係者（1名）

② 市町教育委員会代表（5名）

③ 実施校校長（6名）

④ 実施校校内指導教員（総括担当）（6名）

⑤ 県教育委員会事務局（教職員課長，教職員課主幹（小中学校担当），総合教育センター教職員研修課長）（3名）

(2) 委員は，教育長が委嘱する。

(3) 会長は，教育長が指名する教職員課長を充てる。

(4) 委員の任期は1年とする。

(5) 連絡協議会の事務局は，教職員課に置く。

### 3 連絡協議会の運営

(1) 連絡協議会は必要に応じ，会長がこれを招集し，会議を主宰する。

(2) 連絡協議会は適宜，県教育委員会事務局職員の出席を求めることができる。

### 4 指導教員（総括担当）調査研究事業検討会議

(1) 連絡協議会の円滑な運営を進めるため，「指導教員（総括担当）調査研究事業検討会議」（以下「検討会議」という。）を設置する。

(2) 検討会議は，連絡協議会委員の調査研究方式実施校指導教員（総括担当），大学関係者及び県教育委員会事務局で構成し，必要に応じて，会長がこれを招集する。

### 5 その他

この要綱に定めるもののほか，連絡協議会の運営等その他必要な事項は教育長と協議の上，会長が定める。

附則 この要綱は，平成26年4月1日より施行する。



教教課第626号  
平成26年12月3日

各調査研究校長 殿

徳島県教育委員会教職員課長  
( 公 印 省 略 )

初任者研修の抜本的改革における調査研究事業に係る  
アンケートの実施について（依頼）

日頃は、初任者研修の調査研究事業の推進に御尽力いただき、厚くお礼申し上げます。  
さて、このことについて、次のとおり実施しますので御協力くださいますようお願い  
します。

- 1 対 象 貴校の全教職員（非常勤職員を除く）
- 2 実施期間 平成26年12月4日（木）から平成26年12月15日（月）まで
- 3 実施方法
  - ・初任者 様式1
  - ・その他の教職員 様式2
  - ① 対象の教職員が、別添「様式1」又は「様式2」の問いに対する回答を、別紙「回答用紙」に記入してください。
  - ② 記入後は、教頭が取りまとめの上、教職員課まで、回答用紙のみ郵送してください。
  - ③ 可能な限り回答用紙の回収をお願いします。
- 4 提出期限 平成26年12月22日（月）
- 5 そ の 他 アンケートは、貴校の研究等に自由にお使いください。

【様式 1 : 初任者用】

初任者研修についてのアンケート

教職員課人材育成担当

【留意事項】

- このアンケートは、初任者研修の調査研究事業の成果を評価するためのアンケートです。御協力をお願いいたします。
- このアンケートは、上記の目的以外には使用しませんので、安心して、自分の考えのとおりに入力してください。
- 回答は全て別紙「回答用紙」（マークシート方式）に入力し、12月15日（月）までに、教頭先生に、提出してください。

1 所属校の学校種は何ですか。

- ①小学校 ②中学校

2 採用されるまでに、臨時教員の経験はありましたか。（他県での経験も含む）

- ①経験がない ②1年未満 ③1年以上3年未満 ④3年以上6年未満 ⑤6年以上

3 所属校で学級担任をしていますか。

- ①正担任をしている ②副担任をしている

ここからは、4月から現時点までの校内研修及び校外研修、学校での勤務について、回答してください。

4 **校内研修の授業研修**により、学習指導法（板書、発問、ノート指導等）について研修できましたか。

- ①できた ②だいたいできた ③あまりできなかった ④できなかった

5 **校内研修の一般研修**により、教員としての基礎的素養、学級経営等について研修できましたか。

- ①できた ②だいたいできた ③あまりできなかった ④できなかった

6 **校外研修**により、学習指導法や教員としての基礎的素養、学級経営等について研修できましたか。

- ①できた ②だいたいできた ③あまりできなかった ④できなかった

次の質問からは、当てはまるところを選んでください。

7 校内に、学習指導や学級経営などについて悩んだときに、相談できる人がいた。

- ①当てはまる ②だいたい当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

8 校内の同年代の教職員と、学習指導や学級経営などについて、情報交換等をよくした。

- ①当てはまる ②だいたい当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

9 校内の多くの教職員が、初任者研修に関わってくれた。

- ①当てはまる ②だいたい当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

裏へ ↓

10 初任者研修には、積極的に取り組んだ。

①当てはまる ②だいたい当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

11 初任者研修には、ゆとりをもって取り組んだ。

①当てはまる ②だいたい当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

次の質問からは、複数項目を選んでください。

12 **職務の遂行**について、初任者研修を受講したことにより、力を付けてきたと思うことを三つ選んでください。

①学級・ホームルーム経営（学級集団の掌握や指導等）  
②児童・生徒理解や指導（個々の児童・生徒への対応等）  
③学習指導  
④保護者への連絡や苦情への対応  
⑤学校行事の指導  
⑥学級・ホームルーム事務  
⑦休み時間や放課後の指導

13 **学習指導**について、初任者研修を受講したことにより、力を付けてきたと思うことを三つ選んでください。

①指導計画や学習指導案の作成  
②教材・教具等の準備  
③基本的な指導技術（発問・板書等）  
④個々の児童・生徒への対応  
⑤学習規律の保持・徹底  
⑥授業の進度  
⑦家庭での学習（宿題）の出し方

14 学校での勤務において、大きな困難や負担を感じたことがある項目はどれですか。

①管理職員との関係  
②指導教員との関係  
③同僚教職員との関係  
④会議や打合せ  
⑤部活動等の放課後や休日における指導  
⑥PTA行事や地域の行事への参加  
⑦担当している校務分掌上の役割や責務

※複数回答可

15 初任者研修に関する感想や意見等を箇条書で書いてください。

御協力ありがとうございました。

【様式 2 : 関係職員用】

初任者研修についてのアンケート

教職員課人材育成担当

【留意事項】

- このアンケートは、初任者研修の調査研究事業の成果を評価するためのアンケートです。御協力をお願いいたします。
- このアンケートは、上記の目的以外には使用しませんので、安心して、自分の考えのとおりに入力してください。
- 回答は全て別紙「回答用紙」（マークシート方式）に入力し、12月15日（月）までに、教頭先生に、提出してください。

あなた自身のことについて、回答してください。

1 学校種

①小学校 ②中学校

2 性別

①男 ②女

3 年齢

①20歳台 ②30歳台 ③40歳台 ④50歳台

4 経験年数

①5年以下 ②6～10年 ③11年～15年 ④16年～20年 ⑤21年～25年  
⑥26年～30年 ⑦それ以上

5 初任者研修における役割

①管理職員 ②指導教員 ③学年団の教員 ④同一専門教科（中学校のみ） ⑤その他

ここからは、4月から現時点までの初任者の状況について、回答してください。

6 初任者研修により、初任者は、学習指導法（板書、発問、ノート指導等）について研修できていましたか。

①できた ②だいたいできた ③あまりできなかった ④できなかった ⑤分からない

7 初任者研修により、初任者は、教員としての基礎的素養、学級経営等について研修できていましたか。

①できた ②だいたいできた ③あまりできなかった ④できなかった ⑤分からない

8 初任者は、積極的に、初任者研修に取り組んでいましたか。

①取り組んだ ②だいたい取り組んだ ③あまり取り組んでいない ④取り組んでいない  
⑤分からない

裏へ ↓

ここからは、4月から現時点までのあなた自身の状況について、回答してください。

次の質問の当てはまるところを選んでください。

9 学習指導や学級経営などについて、時々相談された。

①当てはまる ②だいたい当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

10 初任者に、積極的に声掛けをした。

①当てはまる ②だいたい当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

11 初任者研修の授業研修や一般研修等に関わったことがある。

①ある ②ない

12 初任者研修推進委員会や若手教師の会等に参加したことがある。

①ある ②ない

ここからは、4月から現時点までの学校の状況について、回答してください。

次の質問の当てはまるところを選んでください。

13 初任者研修の実施方法や実施状況は、校内研修や職員会などで、適宜、知らされていた。

①当てはまる ②だいたい当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない  
⑤分からない

14 校内の多くの教職員が、初任者研修に関わっていた。

①当てはまる ②だいたい当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない  
⑤分からない

15 初任者研修や調査研究事業に関する感想や意見等を箇条書で書いてください。

御協力ありがとうございました。

平成26年度 総合的な教師力向上のための調査研究事業（初任者研修の抜本的な改革）

# 参 考 資 料

各調査研究校の調査研究事業実施報告書

徳島県教育委員会  
平成27年3月



様式 2

平成26年度総合的な教師力向上のための調査研究事業（初任者研修の抜本的な改革）  
実施報告書

1 調査研究校の基礎情報

調査研究実施校名	徳島市千松小学校	
校長名	(ふりがな) 氏名	くわはら よしのり 桑原 義則
連絡担当者	職名 (ふりがな) 氏名 電話番号	教頭 やまさき まさひろ 山崎 眞弘 088-631-3944

2 調査研究校の状況（平成27年1月1日現在）

常勤教員数	49人	うち、学級担任外教員数(15人)
再任用短時間勤務教員数	0人	※週時間勤務 人 ※週日勤務 人
非常勤教員数	0人	-----
学級数	34学級	-----
2年目教員数	3人	-----
3年目教員数	0人	-----
初任者の属性等 (所属・校務等)	初任者(A)	3年1組副担任
	初任者(B)	4年2組担任
指導教員の属性等 (所属・校務等)	①指導教員(総括担当)	音楽専科
	○初任者Aの	
	②指導教員(授業研修担当)	3年1組担任
	③指導教員(一般研修担当)	教務主任
	○初任者Bの	
④指導教員(授業研修担当)	4年1組担任 4年TT担当(理科) 4年音楽 4年3組担任 学年主任 指導教諭	
⑤指導教員(一般研修担当)	教務主任	



### 3 指導体制等

#### 3-A) 校内の指導体制

##### (1) 役割

職名等	役割分担
校長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初任者研修推進の総括</li> <li>○初任者研修に係る校務の決定</li> <li>○初任者研修推進委員会の委員</li> <li>○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者</li> </ul>
教頭	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導体制整備・校務立案</li> <li>○初任者研修関係者への指導・助言</li> <li>○初任者研修推進委員会の委員</li> <li>○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者</li> <li>○県教育委員会や市町村教育委員会との連絡調整</li> </ul>
指導教員（総括担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初任者研修全体のコーディネーター</li> <li>○他の指導教員（授業研修担当・一般研修担当）と連携して初任者研修の全体計画を作成</li> <li>○初任者研修推進委員会の実施責任者</li> </ul>
指導教員（授業研修担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業研修のコーディネーター</li> <li>○初任者研修推進委員会の委員</li> <li>○授業研修の年間計画を作成し、指導にあたる。</li> </ul>
指導教員（一般研修担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一般研修のコーディネーター</li> <li>○初任者研修推進委員会の委員</li> <li>○一般研修の年間計画を作成し、指導にあたる。</li> </ul>
その他の主任等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者</li> <li>○当該学年主任は、初任者研修推進委員会の委員</li> </ul>
その他の教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者</li> <li>○若手教員の中には定期的な情報交換会のメンバーもいる。</li> </ul>

##### (2) 初任者研修推進委員会等

- ① 初任者2人・校長1人・教頭2人・総括担当1人・授業研修担当4人・一般研修担当1人・学年主任2人で構成し、毎学期2～3回開催。初任者研修の実施状況や課題への対応、今後の予定等について話し合う。

- ② 構成員に学年主任を加えることにより，学年全体で初任者を支えていく体制を整えるとともに，情報交換を行い，初任者も学級だけでなく学年全体の広い視点から自己の指導を見直すことができるようにする。



### (3) 「若手教員の情報交換会」等

- ① 初任者2人・教職2年目教員2人・若手助教諭1人・若手養護助教諭1人・若手助教員1人で構成し，総括担当指導教員も参加する中で，気がかりなことや分からないこと，疑問や不安等について，長期休業中自由に話し合う機会をもつ。
- ② 自分だけではないことの気付きは，自らを否定的に見がちな若手教員にとって，新たな展望を与え，自信をもって堂々と指導に励もうとする姿勢へと転換させる大きなきっかけになると考えられる。

この会の後，初任者と2年目教員の4名で剣山への登山に挑戦し，体力・気力の充実と仲間の親睦を図るとともに，徳島県についての見聞を深めた。

### (4) その他特に配慮した指導体制

- ① 初任者本人が積極的に報告・連絡・相談を行えるよう，指導教員や管理職などは日頃から積極的に声かけや支援をし，初任者が孤立感をもたず相談しやすい環境を作る。
- ② 学年主任を中心に学年団の組織を生かし，学年で共通理解を図りながら協力し合って指導できるようにする。

---

### 3-B) 初任者の勤務内容等における配慮事項

- ① 不慣れな学級事務等を行うため，ついつい遅くまで勤務する状況がみられるものである。業務を効率的に行う方法や，業務にメリハリをつけて省くところは省く方法，優先順位をつけて今すぐに行わなければならないことに限定することなどを指導するよう配慮する。
- ② 指導教員の側でも，協力できる部分は協力しつつ，初任者の業務軽減に努めていく。

#### 4 調査研究事業の実施状況

月	各調査研究校における実施状況 (初任者研修に係る取組状況の記録)	実施状況 (徳島県教育委員会実施分)
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>初任者研修年間指導計画の作成・提出</li> <li>調査研究事業実施計画書の作成・提出</li> <li>初任者研修推進委員会開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4/30 調査研究校「調査研究事業実施計画書計画書」提出</li> </ul>
5月		<ul style="list-style-type: none"> <li>5/19 第1回検討会議</li> <li>5/30 第1回連絡協議会</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>6/11 初任者研修推進委員会開催</li> <li>6/12 校内研修 (大研)</li> <li>6/17 初任者研修学校訪問</li> <li>6/26 初任者A研究授業 (中研)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6/16 学校訪問①(藍住中)</li> <li>6/17 学校訪問①(千松小)</li> <li>6/23 学校訪問①(羽ノ浦小)</li> <li>6/26 学校訪問①(城西中)</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>7/18 初任者研修推進委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7/4 先進校視察(小)(静岡県細江小)</li> <li>7/14 学校訪問①(松茂小)</li> <li>7/14 学校訪問①(北島小)</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>8/5 若手教員情報交換会</li> </ul>	
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>9/1 初任者研修推進委員会開催</li> <li>9/16 先進校視察報告</li> <li>9/18 初任者B研究授業 (中研)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9/24 第2回連絡協議会</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>10/2 校内研修 (大研)</li> <li>10/28 初任者研修学校訪問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10/21 学校訪問②(藍住中)</li> <li>10/28 学校訪問②(千松小)</li> <li>10/31 学校訪問②(羽ノ浦小)</li> </ul>
11月		<ul style="list-style-type: none"> <li>11/10 先進校視察(中)(静岡県相良中)</li> <li>11/13 学校訪問②(城西中)</li> <li>11/26 学校訪問②(松茂小)</li> <li>11/26 学校訪問②(北島小)</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>12/22 初任者研修推進委員会開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12/3 第3回連絡協議会</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>1/8 初任者研修推進委員会開催</li> <li>「調査研究事業実施報告書」作成・検討</li> <li>1/28 初任者A研究授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1/28 第2回検討会議</li> </ul>

	・1/29 初任者B 研究授業	
2月	・「調査研究事業実施報告書」提出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/6 調査研究校「調査研究事業実施報告書」提出</li> <li>・2/20 第4回連絡協議会</li> </ul>
3月	・初任者研修推進委員会開催	・研究成果報告の配布

## 5 調査研究の具体的な内容と成果・課題

### 視点(1) 初任者研修の校内指導体制の確立と充実について

#### ① 初任者指導のインセンティブが働く校務

##### ア 実際に取り組んだ内容

- ある中堅教員の担う校務について、同じ役割を補佐する形で初任者Aが分掌するように配慮した。
- 初任者Bについて、総合的な学習の時間の主任として校内全体の関係業務の取りまとめを行うようにしたが、その際、ベテラン教員を副主任とした。
- 初任者A・Bともに、運動会において当該学年の表現活動を中心的に指導する役割に充てた。

##### イ 成果

- 初任者Aは、補佐としての職務遂行を通して仕事に必要な知識・技能・取組姿勢を学ぶとともに、仕事を行うことによる価値や達成感を味わうことができつつある。(OJTの手法) その校務の主任である中堅教員は、初任者とともに校務を遂行することにより、初任者への理解が深まるとともに初任者指導への意欲が高まったと思われる。
- 初任者Bの校務に関しては、ベテラン教員を副主任にすることにより適切なアドバイスが効果的なタイミングで行われるように配慮した。初任者Bは、主任としての役割をやり遂げることによる充実感や達成感を味わうことができつつある。また、副主任として初任者に関わったベテラン教員にとっても自らの研修を深めるよい機会となっている。

- 初任者が運動会という大きな行事において、学年の中心的な役割を担ったこと、またその練習段階において、当該学年担当者（数名）からの適切な支援が効果的なタイミングで受けられたこと、指導の成果が目に見えて実感され、結果として大きな充実感や達成感を味わうことができたことは、初任者指導においての大きな成果であると考えます。また、運動会を参観した多くの保護者から初任者に対する信頼を高めることもできました。若い力を運動会という場で生かし、学年の教師集団の中でともに学び育てることができたと考えます。

#### ウ 課題

- 責任ある立場の教員を補佐することを通して、多くを学び、ともに達成感を得るという方法、また、適切な支援を受けながら重い責任をやり遂げるという方法、いずれもこれから年度末までの間に更なる研修成果が得られるものと確信しているが、今後は各自がさらに自立し、分からない部分は進んで先輩のアドバイスを求めながら、自らの力で責任ある業務を成し遂げていく体験を増やしていく必要がある。

---

#### ② 学校全体で初任者に関わるための指導・評価計画

##### ア 実際に取り組んだ内容

- 本校では、従来から学年の教師集団が一つにまとまりあらゆる教育活動を進めていくという校風が根付いていた。初任者研修でもこの各学年のまとまりを生かし、学年集団のチームとして互いに教え合う形を基本とした。
- 初任者が、ベテラン・中堅教員の指導を参観したい場合や、教科の専門性の高い教員等から指導を受けたい場合には、その求めに応じるよう職員間で共通理解を図った。
- 初任者の研究授業を校内研修に組み込み、できるだけ多くの教員から意見やアドバイスを受けられるようにした。
- 一般研修担当の指導教員や総括担当の指導教員など担任外の教員が、初任者の担任する学級の朝の会や帰りの会にTTとして入り、教科指導以外の時間もアドバイスが受けられるようにした。
- 本校では、児童や保護者に対して「児童の学校生活に関するアンケート」を行い学校評価に生かしている。学級担任をしている初任者については、このデータも一つの評価指標になると考えられる。

##### イ 成果

- 学年集団のチームとして教え合う形は、従来から行われていたこともあり、スムーズに取り組むことができた。
- ベテラン・中堅教員の指導を進んで受けることに関しては、時間割変更を適宜行い、実施することができた。
- 校内研修に組み込んだ研究授業後の意見交換によって、多くの意見を広く求めることができた。
- 「児童の学校生活に関するアンケート」では、指導を受ける側やその保護者の思いが

現れる。それを他と比較するのではなく、指導上どの面に力を注ぐ必要があるのか、あくまでも冷静かつ客観的に検討することによって、改善の方向を考えることができた。

#### ウ 課題

- 従来のように、初任研の業務を担当者にみに集中させることのないように、多くの者が分担する形をとったが、どの指導教員も他の業務を併せて担っているため、やはり一部の初任研への関わりが多い教員に負担が集中することになってしまった。

---

### ③ 初任者研修推進委員会等の効果的な運用

#### ア 実際に取り組んだ内容

- 実施計画に沿って開催し、情報交換を行うとともに、学級経営上の悩みや疑問等に対するアドバイスの場として、またその後の初任者研修実施方法改善を検討する場として機能させるように運営していった。

#### イ 成果

- 本校では、学年団を単位としてまとまって活動する仕組みが伝統的に備わっており、その取り組みと連携して初任者研修推進委員会を運営していくことにより、様々な問題にも機敏に対応するとともに、全校で確かな共通理解を図りつつ進めていくことができた。

#### ウ 課題

- 構成メンバーが12名という多人数のため、全員が一同に会する機会を設定することが難しい。本校では学年団としての活動と組み合わせ、場合によっては適宜小グループで対応を検討することも行ってきたが、機敏に対応するための工夫が必要であると考えられる。

---

### ④ 初任者研修の指導方法の一層の工夫

#### ア 実際に取り組んだ内容

- 初任者Aは、副担任と学年全5学級の理科をT1として担当してきた。そのため、T2である各学級の担任の指導が受けやすく、教材研究や資料作り等にも積極的に取り組んでいた。
- 初任者Aは、副担任という立場から、指導教員である担任の学級経営を日々OJTで学ぶことができるが、実際に自分が学級担任としてやっていくためには、学級担任に近い状況を経験することが必要と考える。そこで、担任としての業務を実践する場や時間を多く設定したり、1日のすべての指導を単独で行う日を設定したりして学級担任としての学級経営力を養うようにした。
- 初任者Bは、初めての学級担任ということもあり、1学期は、日々の学級経営や授業実践に加え参観授業や研究授業への対応に追われ、十分な時間をとってそれぞれの研修を深めることができなかつたという反省がある。学級経営においても児童への指導に苦

慮することが多くなっていった。そこで、夏季休業日中に学年集団で研修の時間を多くとり、初任者の課題意識が強い学級経営についての研修を深めるとともに、2学期早々校内研修を兼ねた研究授業を行うことにし、学校全体から多くの指導を得られるよう授業研修を深めていった。また、運動会や総合的な学習等の学校行事・学級行事に備えるようにした。

#### イ 成果

- 初任者Aは、理科の教科指導について年間を通して幅広く研修を深め、分かりやすく、児童がよく活動できる授業を展開することができた。これは、初任者が、今後他の教科指導を行う上でも大きな自信に繋がるものと思われる。

実際、2学期以降の他教科の授業実践においてもこの経験がおおいに生かされていた。

- 学級担任としての業務を実践する場が多くなるにつれ、児童とのコミュニケーションが増え、児童理解が進むとともに、学級経営についての知識や実践力が高まってきた。



〈 初任者A 理科の研究授業 〉

- 初任者Bは、夏季休業日中の研修により、2学期以降、朝の活動の指導やノート指導等を見直したことから児童に落ち着きが戻り、研究授業や運動会でも自信をもって児童を指導し、成果を上げることができた。

〈 初任者B 算数の研究授業 〉

#### ウ 課題

- T1で学年の1教科を担当していると、1学期の授業実践がその教科中心となってしまったことに対して初任者も指導教員も多少不安があった。2学期以降、時間割等を考慮しながら授業実践の教科を増やしていくことで対応してきたが、授業実践についてある程度の見通しをもって取り組めるような計画が必要であると感じた

---

#### ⑤ 研修のノウハウの蓄積方法

##### ア 実際に取り組んだ内容

- 県への提出文書や研修に使用した資料・記録・写真等を研修記録としてデータ及び紙媒体で整理し、保管する。
- 初任者の研究授業を校内研修に組み込み、授業記録や研究会記録等を残す。

イ 成果

- 研修記録を見直すことで研修内容の評価・反省をすることができ、次の研修への取り組みの改善を図ることができた。

ウ 課題

- 今年度の研修のノウハウを来年度の初任者研修に生かせるよう、研修記録を整理し、引き継ぎをして有効活用していく必要がある。

⑥ 初任者の状況把握と初任者に対する相談体制の整備

ア 実際に取り組んだ内容

- 指導教員や管理職は、日頃から積極的に初任者に声をかけ、初任者が相談しやすい環境作りに努めた。
- 学年団の組織を生かし、学年間で共通理解を図りながら日々の教育活動を行うとともに、初任者への相談体制をとり、協力し合って研修を進めてきた。
- 若手教員の情報交換会をもち、経験の浅い教員が互いに悩みや相談事を持ち寄ったり励まし合ったりできるようにした。

イ 成果

- 職員室でも教室でも近くに相談できる人がいることが初任者にとって大きな支えとなり、一年間を通して積極的に研修に取り組むことができた。
- 若手教員の情報交換会は、初任者を含む若い教員たちが日頃の様々な思いを共有し合い、励まし合い、学び合えるよい場となっていた。

ウ 課題

- 全ての教職員が初任者を育て、ともに学び合う組織づくりを進めていくためにどのようなことができるか考えていく必要がある。



## 視点(2) 研修等の内容の充実について

### ① 初任者の年間の勤務を見通した研修内容の整理

#### ア 実際に取り組んだ内容

- 大きな学校行事等については、事前に関連する内容を一般研修で扱うようにした。また、各時期に行う学級事務についても適切な時期に一般研修の内容とし、年間を通じて必要な時期に必要な内容を研修し、円滑な学級運営が行えるよう配慮した。
- 校内の他の研修と関連させながら必要な内容の初任者研修を行うことにより、当該研修内容の深化徹底を図るようにした。

#### イ 成果

- 何事にも不慣れで学級事務等にも時間がかかる初任者にとって、研修内容がニーズに合ったものでなければ研修自体が負担になってしまう恐れもある。初任者の年間の勤務を見通し整理された研修内容を適切なタイミングで行ったことで、初任者は精神的にもゆとりをもってそれぞれの校務や研修に取り組めた。
- 運動会という大きな行事において、初任者が学年の表現活動指導の中心的役割を担うという研修内容を実施したことは、初任者にとって指導の成果が目に見えて実感され、結果として大きな充実感や達成感を味わうことができ自信に繋がったと思われる。

#### ウ 課題

- 教師としての指導力を上げる具体的・実践的な研修、学級事務や学級経営についての支援・指導等も含め、初任者の年間の勤務を見通した研修内容を精選し行っていく必要がある。

### ② 正担任・副担任・TT担当等、初任者の校務に即した研修内容の工夫

#### ア 実際に取り組んだ内容

- 初任者Aは、3年生の副担任と学年全5学級の理科をT1として担当した。そのため、教科では特に理科の指導について研修を深めることができた。また、副担任として担任の指導教員のもと学級経営のノウハウを日々OJTで学んできた。2学期以降は、理科以外の教科についても授業研修の幅を広げ、国語や算数・図工・学級活動等の授業実践を行ってきた。また、担任としての校務（給食指導・話し合い活動の指導・休み時間の児童との関わり・学級事務等）を実践する場を多くとり、来年度に向け学級経営についての実践力を高めるようにしてきた。
- 副担任としての児童理解に基づく授業実践として初任者Aは、学級活動の研究授業「行事食について知ろう」を行った。日々の児童との会話や国語・社会等の教科指導、日記指導、給食指導等から得た情報をもとに担任の指導教諭及び栄養教諭のアドバイスを受けて実践することができた。児童の家庭での生活や食についての意識などを知り、さらに児童理解が深まり今後の指導に生かせるものと思われる。
- 初任者Bは、担任として初めての学級経営に取り組んできたが、1学期後半、学級が落ち着かない時期もあり悩みがちであった。そこで、一般研修として指導教員が学級に

入りOJTによる研修を増やしたり、学年団による相談や研修（学級経営・研究授業・学校行事・学年行事等）を深めたりして支援した。

- 初任者Bの学年では、学年全体で市の交歓演奏会に出場することになっており、2学期末より準備・練習に取り組んできた。初任者Bは、全体の曲の指揮を担当し、他の教員とともに演奏の指導に意欲的に取り組んだ。

#### イ 成果

- 初任者Aにとって、一つの教科について研修を深め得意な教科ができたことは、大きな自信となり、他の教科指導・授業実践に生かしている。
- 副担任という立場であっても、担任としての実務を体験することで身に付くことは多く、来年度学級経営をする上での見通しをもつことができた。
- 初任者Bは、OJTによる研修を増やしたり、課題意識をもっていた学級経営や研究授業、学年・学級行事への対応等について研修を深めたりすることで学級に落ち着きが戻り、授業実践や行事等においても自信をもって取り組むことができた。
- 校外行事への参加においても、学年の協力体制のもと児童を指導し大きな責任を果たすことができた。

#### ウ 課題

- 初任者の状況把握と相談体制を整備し、初任者それぞれの課題意識に応える研修内容を工夫していく必要がある。

### ③ OJTによる研修と直接指導による研修のバランス

#### ア 実際に取り組んだ内容

- 一般研修において、1学期の研修のOJTによる研修と直接指導による研修の比率は、3対7、2学期以降は、逆に7対3の割合で進めてきた。これは、1学期当初、研修計画を立てるにあたり、「OJTによる研修での気づきが力量に繋がる。直接指導による研修は、気づきを整理し力量に繋げていくための知識を得る場である。」と考えたことによる。

#### イ 成果

- 1学期は、直接指導により教師として必要な知識を研修という形で獲得し、それを日々の実践に生かしてきたところが多いと思われる。2学期以降は、OJTによる研修を増やし、初任者が体験的に得た気づきや知識として学んだ内容を、指導教員がより広い観点から助言することで初任者の教師としての力量が高まったと思われる。

#### ウ 課題

- 一般研修においては、初任者の状況や課題意識・研修内容等により、OJTによる研修と直接指導による研修のバランスを考えて指導してきたが、担当の指導教員が一人で行ってきたため負担も大きかった。今後は、より多くの教員がいろいろな分野で初任者の一班研修の指導者として関わり、初任者がいろいろな価値観に触れられるようなシステムづくりを考えていきたい。

様式 2

平成 26 年度総合的な教師力向上のための調査研究事業（初任者研修の抜本的な改革）  
実施報告書

1 調査研究校の基礎情報

調査研究実施校名	阿南市立羽ノ浦小学校	
校長名	(ふりがな) 氏名	(なかた みつあき) 中田 光明
連絡担当者	職名 (ふりがな) 氏名 電話番号	教頭 (かたおか ひろじ) 片岡 弘治 0884-44-2053

2 調査研究校の状況（平成 27 年 1 月 1 日現在）

常勤教員数	31人	うち、学級担任外教員数(10人)
再任用短時間勤務教員数	0人	※週 時間勤務 人 ※週 日勤務 人
非常勤教員数	1人	
学級数	21学級	
2年目教員数	1人	
3年目教員数	2人	
初任者の属性等 (所属・校務等)	初任者(A)	2年2組正担任
	初任者(B)	4年2組副担任
指導教員の属性等 (所属・校務等)	①指導教員(総括担当)	教務主任
	○初任者Aの	
	②指導教員(授業研修担当)	2年1組 担任 (2学年主任)
	③指導教員(一般研修担当)	①と同じ
	○初任者Bの	
④指導教員(授業研修担当)	4年2組 担任 (4学年主任)	
⑤指導教員(一般研修担当)	①と同じ	

### 3 指導体制等

#### 3-A) 校内の指導体制

##### (1) 役割

職名等	役割分担
校長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初任者研修推進の総括</li> <li>○初任者研修に係る校務の決定</li> <li>○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者</li> <li>○初任者研修推進委員会の委員</li> <li>○初任者の勤務評価</li> </ul>
教頭	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初任者研修に係る校務の立案</li> <li>○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者</li> <li>○初任者研修推進委員会の委員</li> <li>○教育委員会との連絡調整</li> </ul>
指導教員（総括担当） （一般研修担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初任者研修コーディネーター</li> <li>○一般研修の年間計画作成及び指導</li> <li>○計画に基づく授業研修等の指導</li> <li>○初任者研修推進委員会実施責任者</li> <li>○授業研修担当者や学年団と連携して初任者研修を推進</li> <li>○初任者Aと同学年の副担任として補佐</li> <li>○初任者状況評価と研修内容の検討</li> </ul>
指導教員（授業研修 担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初任者の所属する学年の主任として一般研修担当者や学年団と連携しながら初任者研修を推進</li> <li>○授業研修の年間計画作成及び指導</li> <li>○授業研修のコーディネーター</li> <li>○初任者状況評価と研修内容の検討</li> </ul>
その他の主任	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画に基づく一般研修や授業研修の指導</li> </ul>
その他の一般教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画に基づく一般研修や授業研修の指導</li> <li>○若手教員の会（スプラウト会）のメンバー</li> </ul>

(2) 初任者研修推進委員会等

- ① 委員は、管理職3名、初任者研修総括（一般研修担当）、授業研修担当2名  
② 毎月一回の企画委員会や職員会、校内研修に合わせて初任者研修推進委員会を開いた。

＜初任者研修推進委員会の開催日と内容＞

- 4/15 初任者研修推進委員会を発足  
「調査研究事業実施計画書」について検討
- 4/17 市教委に提出する「授業研集計画・一般研修計画」の確認
- 5/14 初任者研修推進委員を含む企画委員会  
「調査研究事業実施計画書」を配布、説明と協力依頼
- 6/17 初任者研修推進委員を含む企画委員会  
「初任研記録用紙」と「初任者評価カード」の形式について検討
- 7/10 初任者研修推進委員を含む職員会  
「細江小学校視察」の報告  
「学習スキル」「家庭学習の手引き」の作成を決定
- 9/12 初任者研修推進委員会  
初任研の進捗状況確認と第2回連絡協議会で報告する文書の検討
- 10/14 初任者研修推進委員会  
第2回学校訪問に向けての打ち合わせ
- 11/14 初任者研修推進委員会  
初任研の進捗状況確認と第3回連絡協議会の報告文について検討
- 12/4 初任者研修推進委員を含む職員会  
初任者研修についてのアンケート依頼
- 1/14 初任者研修推進委員会  
初任者研修についてのアンケート集計  
「実施報告書」について検討
- 2/13 初任者研修推進委員会（予定）  
「調査研究事業実施報告書」のまとめ

(3) 「若手教員の情報交換会(スプラウト会)」等

- ① スプラウト会（6年次までの教職員12名）と名付け、校内企画委員会と同時刻に開催し、毎回テーマをもって、研修や話し合い等を行った。

＜スプラウト会の開催日と内容＞

- 5/14 スプラウト会 発足  
(初任者の悩み相談、異学年間の情報交換、特に支援を要する児童について)
- 6/17 第1回学校訪問の準備
- 7/11 授業研究会（2年次教員の研究授業について模擬授業及び検討会）
- 9/12 一部のメンバーによる話し合い（運動会の係の仕事と児童の指導について）
- 10/14 学校の環境面や安全面について改善すべき点についての話し合い  
(警報発令時の集団下校の仕方、裏庭での危険な遊び等について)

- 11/14 学年間、校務、行事（マラソン大会）について情報交換
- 12/4 初任者より初任者研修の報告 アンケート依頼
- 1/14 「防災教育」6年担任「食育教育」2年初任者A から研修報告 <写真1>
- 2/14 スプラウト会の振り返りと今後の活動について （予定）

(4) その他特に配慮した指導体制

- ① 初任者Aは、2年2組の学級担任なので、総括担当（一般研修担当）が2学年の副担任となり、必要に応じて学級経営や授業、生徒指導面で支援を行った。週3時間、算数のTTに入り、初任者の要望に応じて国語や道徳の示範授業を行った。初任者Aが出張の時は、終日学級に入り、授業を進めたり、給食、清掃の指導をするようにした。行事や学年の校外学習、交流会なども共に活動した。
- ② 初任者Bは、配属学年の全学級、いろいろな教科にTTに入ることにより、学年内で授業研究をしやすくした。

3-B) 初任者の勤務内容等における配慮事項

- ① 初任者研修に集中して取り組めるように、授業時数、校務内容の軽減を図った。
- ② 二人とも校務分掌は副とし、主の教師から学べるようにした。
- ③ 初任者Aは、比較的落ち着いた学級を担当するようにした。

4 調査研究事業の実施状況

月	各調査研究校における実施状況 (初任者研修に係る取組状況の記録)	実施状況 (徳島県教育委員会実施分)
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4/15 初任者研修推進委員会を発足</li> <li>・4/30 調査研究校「調査研究事業実施計画書計画書」提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4/30 調査研究校「調査研究事業実施計画書計画書」提出</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5/9 授業研修計画・一般研修計画を作成し、市教委に提出</li> <li>・5/14 初任者研修推進委員会</li> <li>・5/14 スプラウト会 発足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5/19 第1回検討会議</li> <li>・5/30 第1回連絡協議会</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6/6 研究授業 初任者B 「一億をこえる数」4年算数科</li> <li>・6/17 初任者研修推進委員会</li> <li>・6/23 学校訪問 研究授業 初任者A 2年算数科 「1000までの数」&lt;写真2&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6/23 学校訪問①(羽ノ浦小)</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7/10 校内研修 (先進校&lt;細江小&gt;視 察の報告会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7/4 先進校視察(小)(静岡県細江小)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>7/11 スプラウト会</li> </ul>	
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>8/1 授業研修報告・一般研修報告を作成し、市教委に提出</li> </ul>	
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>9/12 初任者研修推進委員会</li> <li>9/12 スプラウト会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9/24 第2回連絡協議会</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>10/14 初任者研修推進委員会</li> <li>10/14 スプラウト会</li> <li>10/31 学校訪問② 研究授業 初任者B 4年人権教育「共に生きる」 参観授業 初任者A 2年国語科「友だちのこと知りたいな」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10/31 学校訪問②(羽ノ浦小)</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>11/12 初任研授業スキルアップ研修 国語科「おもちゃの作り方を説明しよう」 初任者A 講師 指導主事 宮本浩子先生</li> <li>11/14 初任者研修推進委員会</li> <li>11/14 スプラウト会</li> </ul>	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>12/2 授業力向上研修 講師 鳴教大学教授 久我直人先生</li> <li>12/4 スプラウト会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12/3 第3回連絡協議会</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>1/9 授業研修報告・一般研修報告を作成し、市教委に提出</li> <li>1/14 初任者研修推進委員会</li> <li>1/14 スプラウト会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1/28 第2回検討会議</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>2/14 初任者研修推進委員会</li> <li>2/14 スプラウト会</li> <li>2/17 研究授業 初任者A 2年道徳</li> <li>2/19 研究授業 初任者B 4年社会科</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2/6 調査研究校「調査研究事業実施報告書」提出</li> <li>2/20 第4回連絡協議会</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>3/20 授業研修報告・一般研修報告を作成し、市教委に提出</li> <li>初任者研修の振り返りとまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究成果報告の配布</li> </ul>

## 5 調査研究の具体的な内容と成果・課題

視点(1) 初任者研修の校内指導体制の確立と充実について

### ① 初任者指導のインセンティブが働く校務

ア実際に取り組んだ内容

- 初任者2名の資質、能力がより生きる校務を考慮し、初任者自らが、意欲的、主体的に取り組めるようにした。
- 初任者Aは、几帳面で整理上手という長所を生かして職員会議録の仕事を受け持ち、書類の整理や記録を行った。
- 初任者Aは、体育部員として運動会では2年の表現指導を、保健体育の副としては、養護教諭と共に保健委員会の担当となり、積極的に活動した。
- 初任者Bは、視聴覚・情報教育の副として、副担任ならではの時間を活用してパソコン指導やホームページの書き換えなどを行った。行事や集会時の放送機器の活用法なども主から学び、運動会ではビデオ・写真等の記録係として活躍した。 <写真4>
- 初任者Bは、管理職やベテラン男子教員の指導のもと、参観日の駐車場の整理や環境の整備やPTA活動なども進んで行った。

#### イ成果

- 初任者Aの職員会議録の仕事は学校運営に関することでもあり、次年度にも生かせるよう会議内容の記録と文書の整理を適切に行うことができた。
- 初任者Aが、運動会で指導した2年の表現は、曲の構成や隊形を工夫したので児童が喜んで取り組み、参観者にも好評であった。また、保健委員会の指導については、養護教諭と協力し、児童の意見を取り上げながら、掲示物や発表物を作ることができた。 <写真3><写真10>
- 初任者Bは、男子職員からフェンスや車止めの修理の仕方を学んだり運動会の万国旗を高い所に取り付けたりするなど進んで学校のために働く姿が見られ、女性教員からも頼られる存在になった。 <写真7>
- 初任者Bは、学校長や体育主任等の指導の下、市の陸上記録会・体操検定会出場の児童の指導に当たった。来年度も体育関係の指導する機会が多いことを考えると、よい経験になったと考えられる。
- 初任者Bは、環境美化作業やPTAソフトボール大会出場などPTA活動にも積極的に取り組み、校務の他にも男性教員として期待されることが多くなった。 <写真5・6>

#### ウ課題

- 校務内容は、4月当初に負担にならないように組んでいたが、校務以外にも学校全体の仕事、PTA活動等、責任のある仕事が増えていった。

#### ② 学校全体で初任者に関わるための指導・評価計画

##### ア実際に取り組んだ内容

- 授業研修や一般研修の指導に関わってもらう教員については年間計画に入れ込み、事前に協力を求めた。初任者Aは示範授業協力者9名、初任者Bは10名、一般研修協力者14名(外部講師を含む)であった。
- 外部からも専門的な知識をもった講師を招き、校内研修や阿南市の教科部会の授業研修と兼ねてご指導をいただいた。

「学級経営について」 (講師：鳴門教育大学 教授 久我直人先生)

「歌唱指導について」 (鳴門教育大学 教授 頃安利秀 先生) <写真8>



「国語科指導について」 (県教育委員会 指導主事 宮本浩子 先生)

「体育科指導について」 (鳴門教育大学 准教授 湯口雅史 先生)

「人命救助法について」 (阿南市消防署署員 3名)

<写真9>

「トイレ掃除研修会」 (NPO法人 日本を美しくする会 「徳島掃除に学ぶ会」) 等

- できるだけ数多くの教員に関わってもらうために指導計画を立て、教科主任や校務関係の主任が豊富な経験や知識を生かして指導できるように配慮した。
- 評価については、初任者が「授業に関すること」と「生徒指導に関すること」、指導者が「授業に関すること」と「初任者の言動に関すること」で、年間を通して定期的に評価カードをつけてきた。また、教科主任やベテラン教員の示範授業を参観した時はねらいやポイントを書く欄を設けた参観授業記録を残し、実践に役立てた。 <資料1・2>
- 初任者A B共に、研究授業をする場合は、授業研修や一般研修担当の指導だけでなく、学年団で指導案の検討や事前授業を綿密に行った。初任者Bは、複数学級にTTとして入っていることもあり、多くの教職員と関わりをもち、指導が受けられた。

#### イ成果

- 年間計画に合わせて、たくさんの教職員が快く示範授業を引き受けてくれたので、初任者は指導の幅が広がり、個性と特性に合わせた指導の実際を学ぶことができた。また、校内研修や市の部会研修と重ねて初任者研修を行うことで全職員の意識、意欲の向上につながった。
- 教職員がそれぞれの役割ごとに能力を出し合い、初任者の資質向上のため一丸となって指導したことは大変有意義であった。初任者のみならず指導者自身の能力の向上にもつながった。
- 初任者の所属する2年、4年の学年団は結束力が強まり、授業ばかりでなく学年行事や体験活動などでも児童にもよい影響を与えた。
- 初任者Bは、学年団で指導案の検討や模擬授業を行ったり、TTとして複数学級で授業を行ったりして、より質の高い授業力が身についた。
- 評価に関しては、臨時経験の長い初任者Aは、当初から自己評価が厳しく、初任者Bは、経験を重ねるに従って自己評価が厳しくなった。評価カードをつけることで、授業分析をしたり不得意な分野を見つけたりして授業力向上につながった。指導者も初任者各自のめあてを確認し、指導に生かすことができた。

#### ウ課題

- 初任研に直接関わることができなかった教員は、研修内容を十分把握することができず、何をしているのか分からなかったようだ。(アンケート結果から)
- 他の教職員に依頼した授業参観や一般研修の場合、初任者Bは副担任ということで時間調整をしやすいが、初任者Aは、時間割変更をしたり補教を組んだりする必要があった。前もって弾力的に実施できるようにはしたが、調整が難しい時があった。
- 内容に合わせて指導教員の人選が難しい面がある。
- 授業研修担当者の持ち時間や校務の軽減をしたが、担任をしながら細かな指導や協力者との連絡調整等を考えると、時間的、精神的な負担は軽減されているとは言えない。

### ③ 初任者研修推進委員会等の効果的な運用

#### ア実際に取り組んだ内容

- 毎月一回校内企画委員会後に開くことになっていたが、全校職員に検討してもらいたいことや協力を求めたいことがあるときは、職員会や校内研修と同時に行った。
- 文章作成などは時間が限られているので、先に推進委員に記入用紙を配ってそれぞれに書いてもらい、総括担当がまとめた。また、確認事項があるときは、適宜回覧を行った。
- 会という形ではないが、総括担当（一般研修担当）と授業研修担当は、授業記録や評価カードをもとに研修の進捗状況や初任者の様子について日々情報交換を行った。

#### イ成果

- 会のもち方を工夫することにより、限られた時間内に必要事項について検討・協議することができた。職員会や校内研修の形で行ったことで、全校教職員に初任研についての理解や協力が得られた。

#### ウ課題

- 時によっては、推進委員の負担が大きいと感じることがあった。「教員（大人）を指導する」ことも、児童の育成とは異なり、相互に気を遣うこともあった。

### ④ 初任者研修の指導方法の一層の工夫

#### ア実際に取り組んだ内容

- PDCAサイクルを生かすために記録・評価を行い指導に活用した。記録については、初任者、指導者共にA4とA5サイズのファイルを持ち、細かな記録を残した。〈資料3〉
- 職員数が多いため、授業研修担当以外の専門的知識を持った教員の示範授業の参観ができ、複数教員の指導を受けることができた。授業参観ばかりでなく、自主研修、一般研修の講義など、多くの教職員にも関わってもらった。
- 授業ばかりでなく、集会や校外学習、休み時間等でも実際に子どもと触れ合う時間を多くし、すべての場において指導方法の工夫を見いだせるようにした。
- 二人の立場と経験の違いから、一般研修は、初任者の希望や要望を加味しつつ異なる内容にすることもあった。また、学年行事に関しては一般研修指導員も共に参加し、支援、指導を行った。
- 初任者Aの国語科の研究授業については、一般研修担当が数週間前から補教に入り、国語科の単元学習「説明文」の示範授業を行った。研究授業に関しては、学年団で事前研究や模擬授業をして、学年団が常に初任者をバックアップする体制で取り組んできた。
- 一度に多くの研修をするのではなく、初任者の特質や能力に合わせた研修を段階的に実施した。1年を通して、初任者がやらされる研修ではなく、自ら考え行動する力を育てられるように実践した。
- 国語科が専門の教頭は、初任者が空いている時間は自由に参観できるような体制で、5年「枕の草子」（古典に親しむ）、6年「やまなし」（宮沢賢治の世界をさぐる）で国語科の単元指導を行い、国語科の指導案作成に当たっては適切な指導を行った。

## イ成果

- 学習指導については、複数学級で授業を行うことにより、教材・教具の準備、開発を大切にし、より質の高い授業をしようという意識の向上が見られた。
- 後期の個人懇談等に参加することで保護者への接し方を学んだ。
- 行事、集会等において学年団の一員として関わることで、学級経営のみならず学年で共通理解をしながら取り組むことの大切さを実践の中で学んでいった。
- 初任者Bは、授業研修のみならず、終日児童と接することで生徒指導面での児童への対応力が身に付いてきた。
- 初任者Bは、後期から週2日学級担任をすることで、授業の準備、課題処理、児童対応など担任として一日の流れを把握し、見通しをもって取り組もうとする姿勢が見えてきた。また、担任としての立場とTT教員としての立場の違いを経験することで視点が変わり、全体的な見通しを掴むことができた。
- 初任者Bは、4年生全クラス（4学級）の算数のTTに入るようにしたので、授業参観をして学んだことを生かして別の学級でT1をするなど応用力をつけることができた。またT2に入っている4年全学級の国・社・算・理・図と5年の理科について各授業者から教科の指導法を学ぶことができた。後期は、これらの授業でT1をすることが多くなり、責任をもって授業をすることに慣れてきた。T2として入っているときは授業を進めることに気をとられがちであったが、一人で授業をするようになって、個々の理解度をチェックしながら、遅れがちな児童にも目を配れるようになった。 <写真11・12>
- 県外視察で学んだ「学習のスキル」「家庭学習の手引き」を応用して全校統一型の授業を行った。児童は友達の話最後まで聞き、自分の考えをはっきり話す力が定着してきている。初任研での学びが学級だけでなく全校としての取組へと貢献した。 <資料4>

## ウ課題

- 今年度はこの研究指定を受けて学校全体としていろんな面でプラスであったが、教員の構成により実践内容や程度は変わってくると思われる。
- 初任者の成果を客観的に評価できる場が必要であった。全職員が研修内容を把握し、一体感をもつということが十分でなかった。（アンケート調査から）
- 初めから指導することを考え過ぎて、初任者に負担になったり自ら苦勞して学ぼうとする意欲をそいでしまったりしたのではないかと疑問が残る。

### ⑤ 研修のノウハウの蓄積方法

#### ア実際に取り組んだ内容

- 今年度の初任研の内容については、教育委員会に提出している昨年度までの「初任者研修授業研修・一般研修」を参考にして計画を作成した。その上に、初任者の要望や必要性に合わせて変更や改善を加えてきた。今年度の記録が次年度からの初任研のノウハウとしても役立つものと考え、指導内容や指導時期について適切に記録をしてきた。
- 初任者、指導教員共に、研修記録・授業記録・評価カード等を残してきた。また、参観授業に関しては、初任者がノート記録を残している。

## イ成果

- 「評価カード」「記録ノート」等、ポートフォリオ的な蓄積方法が、学校あるいは初任者自身の研修のノウハウとして今後も活用できるものとなっている。
- 初任者研修指導員が変わっても、研修に深く関わり熱心に協力をしてきた教職員が中心となって本校の研修の形を引き継げるまでに定着している。

## ウ課題

- 1年間蓄積した「研修内容」を今後いかに生かすかは、初任者にとって大きなポイントになる。それだけノウハウの積み上げは大きい。

## ⑥ 初任者の状況把握と初任者に対する相談体制の整備

### ア実際に取り組んだ内容

- 初任者の状況把握に関しては、「初任者による行動面の評価」「初任者による授業評価」「指導者による行動面の評価」「指導者による授業評価」等の評価カードで行った。また、学年団や入り込みをしている学級の担任、校務分掌の主になる教員とも情報交換を行った。
- 相談体制については、指導教員はもとより学年団の教師、各主任など、相談に応じる体制づくりをした。学年団での話し合いの時間は、放課後を中心に十分確保するように努めた。職員室での立ち話や雑談の中に解決法が見いだせることも多かった。
- スプラウト会を定期的に関き、親睦を深めながら何でも話せる相談の場とした。

## イ成果

- 4種類の評価カードは、初任者の授業や生徒指導、校務に関わる様子が把握でき、教師力の変容がよく分かった。これにより、指導方針や指導計画が明確となるとともに、初任者も研修の方向性がはっきりし、意欲的に取り組むことができた。
- 相談体制については、指導法のみならず悩み等を相談できる協働体制を確立した。指導担当、学年団、スプラウト会等、気軽に相談できる体制を作ったことは有効だった。
- スプラウト会は、他学年の児童の実態や参加教員の教育観等意見交換の場となった。教科指導や外国語活動についても知識や情報を得ることができた。校内の問題や改革点について話し合ったこともあり、初任者を含む若手教員の親睦、研修の場となって、大変有意義であった。
- 初任者Aは、教室が授業研修指導員の隣で職員室でも隣の席なので、授業をするに当たり疑問点があったり、生徒指導面で不安なことがあったりすると、すぐに具体的なアドバイスを受けることができた。拠点校方式と異なり、指導員が常駐することにより連絡調整並びに相談がその場ででき、処理がスムーズであった。

## ウ課題

- 相談体制は整備できたが、時間の確保が難しいこともある。日々の業務の慌ただしさの中で初任者も気を遣い、十分相談できたか疑問である。
- 学級担任側とT T教員側との児童への思いの相違により指導の方向性による達成目標が異なる場合があった。

## ⑦ その他

### ア実際に取り組んだ内容

- 大学院生によるエンカウンターグループの実践研究を共に行った。大学院生は、年間を通して初任者Bの学級を中心に活動したので、児童の変容を確認しながら共に研究を進めることができた。

### イ成果

- エンカウンターグループの実践研究では、学級経営の重要性と児童生徒支援の必要性への理解が深まった。

## 視点(2) 研修等の内容の充実について

### ① 初任者の年間の勤務を見通した研修内容の整理

#### ア実際に取り組んだ内容

- 初任者の勤務や研修に関しては、学年始めは負担が大きくなり過ぎないように、慣れるに従って徐々に責任を伴う内容を増やせるよう、教育課程や学校行事等を踏まえて計画を立てた。
- 初任者Bは、副担任という立場であったが、後期は次年度に向けて終日指導ができるような時間割編成を行った。金曜日は、学級担任として朝の活動から給食までを責任をもって指導するようにした。また、1月からは、初任者がTTに入っていた学級へ指導教員である担任が入り、火曜日も同じように終日学級担任をするようにした。副担任としても朝の会、帰りの会、給食指導は、年間を通して児童と接する時間を大切にした。
- 初任者Bは、T2として入っていた国語、社会、算数等を後期からT1として入る機会を増やしていった。国語科においては、単元の一部を指導していたが、後期から教材によっては一単元を通して指導をするようにした。
- 初任者Bは、後期は個人懇談にも同席し、懇談の仕方についても学んだ。また、生徒指導上の問題や保護者対応の問題等も担任と共に問題解決を図れるようにした。
- 初任者Aは、時間割の都合で算数と道徳の授業研究が多かったが、後期は時間割を入れ替えて国語科や生活科などいろいろな教科も行うようにした。
- 年間を通して、大きな行事や期末の通知表、提出書類作成などの時期は、余裕をもって取り掛かれるように一般研修に組み込んだ。また、遠足や学年の行事、体験活動については、学年団で計画を立て、初任者も見通しをもって取り組めた。

#### イ成果

- 研究授業や参観授業前は、一般研修の時間も指導案や細案の作成、模擬授業などの研修を余裕をもって行ったので、初任者は自信をもって授業をすることができた。
- 初任者Bは、前期は主にTTをして、後期は週に2日担任という形をとった。来年度は学級担任として自立するのでその準備期間として技能や意識を高めるのによい方法であった。
- 研修内容をステップアップするとともに、整理修正して重要な点を繰り返して研修することで、授業力はもとより学級経営力などの教師力向上につながった。
- 学校行事や研究授業等を考慮し、研修内容を必要に応じて整理することで、初任者は時間的にも精神的にもある程度余裕をもって研修を進めることができた。

## ウ課題

- 研修内容については、初任者ということで長期的なスパンで考えぶらく、臨機応変に対応することもあった。

## ② 正担任・副担任・TT担当等，初任者の校務に即した研修内容の工夫

### ア実際に取り組んだ内容

- 一般研修は、二人の立場の違いはあったが、ほぼ同じ内容で行うことが多かった。ただ、通知票作成時は行動評価や所見の文面チェック等で初任者Aに時間をかけ、運動会前は分担された仕事や手順などの説明を初任者Bに行った。どちらかが校外の研修に出ている日は、できるだけ初任者それぞれの要望に応じながら行った。
- 初任者Aは、10年に余る臨時教員の経験があり、年度当初から自信をもって授業や学級経営ができていた。学校行事や学年独自の活動前には、他学級と足並みが揃うように学年団や一般研修担当で事前に打ち合わせを行った。
- 初任者Bは、公簿の記入や教科の評価の仕方などは一般研担当から研修を受け、学級事務については日常生活の中で学級担任から学んだ。また、校務の情報教育については、主の教員から指導を受け知識と技能を身につけてきた。視聴覚・情報教育の副として放送委員会の担当をし、副担任ならではの時間を活用してパソコン指導やホームページの書き換えなどを行った。初任研の時間ではないが、委員会の活動や行事や集会の度に放送機器の使い方なども主から学び、校務遂行に生かすことができた。
- 初任者Bは、研修の時間以外にも、管理職やベテラン男子教員の指導のもと、参観日の駐車整理や環境美化作業なども行った。PTAの美化作業やPTAソフトボール大会など男性教員ならではの活動にも積極的に参加した。

### イ成果

- 正担任のAは、校務に関してはほとんど研修の時間をとらなかった。職員会議録や保健関係は先輩教員や養護教諭に助言を受けながら基本的なことを学び、自分で工夫を加えながら遂行できていた。地域交流などの学年行事や運動会の表現なども、学年団での話し合いが綿密にできているので、大勢の前でも憶することなく堂々と指導をする頼もしい姿が見られた。
- 副担任として1年勤務した初任者Bは、様々な学級や児童と触れ合うことができ、広い視点で学校を見渡すことができた。校務に即した研修内容の工夫というのは少なかったがOJTにより視聴覚関係、体育関係、PTA活動、環境整備など、今後の教職生活に生かせる多くのことを学んだ。何事も積極的に取り組む姿に好感がもてた。

## ウ課題

- 正担任と副担任との研修内容は若干異なるが、一般研修としてはほぼ同じ内容で指導しなければならぬことが多く、このシステムの難しさがある。
- 正担任として1年間勤務した者と副担任として勤務した者とは、業務内容面で大きな差が出てくる。この差が、来年度からの正担任としての勤務に課題が出てくるかもしれない。

- 副担任の場合，児童の問題行動が生じたときの保護者対応などが，実践として学びにくかった。

### ③ OJTによる研修と直接指導による研修のバランス

#### ア実際に取り組んだ内容

- 学年主任や学年団の教員をはじめ全教職員で初任者を育てるという思いで研修を行ってきた。学校行事や集会活動，学年の体験活動，校務等はOJTで学ぶことが多かった。
- OJTによる授業研修としては，多くの教員がその能力に応じて役割分担し，初任者に適切な指導を行ったことがあげられる。初任者は，教科は異なるが先輩教員の児童への熱い思いと分かる授業に力を尽くす姿から，授業力向上に繋がるたくさんことを学び，自身の実践に活かしていった。
- 一般研修は直接指導的な内容が多いが，一般研修での知識としての学びを学級や学年団における日々の教育活動で実践的な学びとして身に付けていった。特に授業や学級経営に関する技能や取り組む姿勢は，OJTによってレベルアップしてきた。
- 初任者Bは，副担任という立場なので担任の指導のもと学級経営のノウハウを日々OJTで学んできた。後期から担任をするようになり，そのノウハウを生かして目標実現に向けてチャレンジできていた。

#### イ成果

- 年間計画を立てて進めたことにより，OJTと直接指導は全体的にバランスがとれた研修が実施できた。直接指導をもとにOJTによる経験を伴う研修があって初任者が教師としての自覚と自信をもつことに繋がると考える。教職員が一丸となって初任者を育てたことは，直接指導とOJT研修のバランス面でも効果的であった。
- OJTでしかできない研修内容はたくさんあり，どれも重要なものばかりである。絶えず，推進委員や学年集団がそばにおり，指導できる体制は，初任者の精神的な安心やゆとりにつながり，研修内容の充実につながった。
- 授業研修担当者の評価カードからは，初任者のOJTによる研修の成果が見えてくる。前期前半には，授業中の声の大きさ，立ち位置，板書など基本的なことが課題であった初任者Bが，後期には，そのような課題は見られなくなり，授業内容に応じてねらいに迫る協議をするなど，年間を通じて授業力が向上してきた。授業研修担当者や学年団の実践に伴う指導が継続的，徹底的に行われた成果であると考ええる。

#### ウ課題

- OJTによる研修が，初任者の個性や特質に応じられるような柔軟性を持つことも大切である。
- 直接指導により知識として獲得している内容やOJT研修による体験から得た気づきをより広い観点から整理していくことが，初任者の総合的な教師力向上に効果的であると考ええる。
- 「OJTでできること」「OJTでできないこと」との指導内容の精査が今後重要であろう。また，OJTの場合は，推進委員・協力者の人間関係や時間の確保等が課題になる。

※ 本報告書のための補助資料がある場合は，別途添付すること。

# 実施報告添付資料

羽ノ浦小学校

写真1 スプラウト会  
防災教育について研修をしている

写真2 初任者A 研究授業  
「1000までの数」

写真3 初任者A  
保健委員会の指導

写真4 初任者B  
運動会のビデオ記録中

写真5 初任者B  
PTAの美化作業に参加

写真6 初任者B  
PTAソフトボール大会に参加

写真7 初任者B  
梯子の上で万国旗を取り付けている

写真8 歌唱指導  
(鳴門教育大学 頃安利秀先生)



写真 9 校内研修 人命救助法  
(阿南市消防署員)

写真 10 初任者 B が指導した  
運動会の 2 年の表現

初任者の授業自己評価 11月15日  
教科 国語 単元・題材名 文と文とのつなぐ  
氏名 ( )

<4 たいへんよくできている>

項目	評価
1 学習指導要領に基づき、かつ、児童に課題意識を持たせて授業ができたか。	4 ③ 2 1
2 展開における発問や指示、発達の取り上げ方が適切であったか。	4 3 ② 1
3 板書やノート指導を適切に行ったか。	4 3 ② 1
4 教師の立ち位置、話し方は適切であったか。	4 ⑤ 2 1
5 教材・教具などを活用し、分かりやすい指導ができたか。	4 3 ② 1
6 個に応じた指導ができたか。	4 ③ 2 1
7 「おらい」が達成できたか。	4 ③ 2 1

<所見>  
国語の授業もごんきつねを題材にしたせいか、楽しんでいていいと思う。めあてはノートに書かせをなど、細い指示も本能的にうけと付けていた。

指導者による言動面の評価 11月20日  
氏名 ( )

<4 たいへんよくできている>

項目	評価
1 「学習経路の組み」や「授業の仕方」等で分らないことを積極的に聞いているか。	4 ⑤ 2 1
2 元気のよい挨拶ができていますか。	④ 3 2 1
3 出題の趣の準備ができていますか。	④ 3 2 1
4 職員会・授業等の開始時間を守っているか。	④ 3 2 1
5 出題から帰ってきたら、「お世話になりました」「児童のことで何か連絡はありませんか」等が言えているか。	④ 3 2 1
6 授業研修の担当教員に授業の進行状況を報告しているか。	4 ④ 2 1
7 主体的な行動ができていますか。	④ 3 2 1

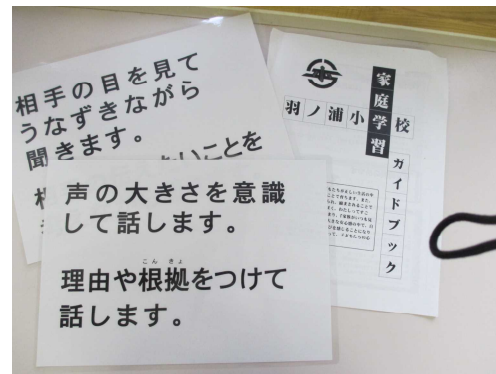
<所見>  
体調にも気を付け、毎日元気に明日の授業にがんばっています。[知る所、知る所]をきちんと考えて、厳格に指示ができています。児童の話し合いの場も上手に促進指導ができています。

資料 1 初任者の評価カード

資料 2 指導員の評価カード



資料 3 記録ノート



資料 4 学習のスキル 家庭学習の手引き

写真 11 T1 をする初任者 B

写真 12 個人指導をする初任者 B

## 初任者研修についてのアンケート結果(関係職員)

1 総数 31名

2 性別

①男	②女
6	25

3 年齢

①20代	②30代	③40代	④50代
2	8	8	13

4 経験年数

①5年以下	②6～10年	③11～15年	④16～20年	⑤21～25年	⑥26～30年
9	0	2	3	5	5
⑦それ以上					
7					

5 初任者研修における役割

①管理職	②指導教員	③学年団	④その他
3	3	7	18

6 初任者は、学習指導法について研修できていたか。

①できた	②だいたい	③あまり	④できなかった	⑤分からない
23	6	0	0	2

7 初任者は、教員としての基礎的素養、学級経営について研修できていたか。

①できた	②だいたい	③あまり	④できなかった	⑤分からない
22	6	0	0	3

8 初任者は、積極的に研修に取り組んでいたか。

①取り組んだ	②だいたい	③あまり	④取り組んでいない	⑤分からない
27	3	0	0	1

9 学習指導や学級経営などについて、時々相談された。

①当てはまる	②だいたい	③あまり	④当てはまらない
17	4	5	5

10 初任者に、積極的に声掛けをした。

①当てはまる	②だいたい	③あまり	④当てはまらない
16	12	3	0

11 初任者研修の授業研修や一般研修等に関わったことがある。

①ある	②ない
24	7

12 初任者研修推進委員会や若手教師の会等に参加したことがある。

①ある	②ない
20	11

13 初任者研修の実施方法や実施状況は、適宜知らされていた。

①当てはまる	②だいたい	③あまり	④当てはまらない	⑤分からない
22	6	3	0	0

14 校内の多くの教職員が、初任者研修に関わっていた。

①当てはまる	②だいたい	③あまり	④当てはまらない	⑤分からない
22	7	2	0	0

## 感想や意見等

### <調査研究事業について>

- 少なくとも、拠点校方式よりも本事業の初任研の方が効果的であり、全職員にもプラスになっている。
- 調査研究事業の効果をもっと理解してもらわなければ、実施した意味が薄れる。
- 様々な研修があり、初任者には勉強になることばかりだと思う。
- ベテランの先生の近くで指導を見る時間があるので、とても勉強になっていると思う。
- 1年で終わることなく、2年次、3年次と2名の追跡調査が必要。長いスパンで実践を考察することで、本年度の成果が現れる。
- 初任者が、たくさんの先生方の示範授業を参観し、研修できる時間を確保されているのはよいと思う。
- きっちりと計画的に初任研が行われていた。
- 昨年度までの拠点校方式と異なり、校内指導員を中心に本校教職員が必要に応じて初任者の指導に当たることができ、有効であった。

### <初任者について>

- 学年団が違うと、あまりよく分からないが、二人ともよく頑張っているように見受けられた。
- 今年度、本校の初任者研修を受けた二人は、確実に実力を上げ、これからの教師道に邁進していけると思う。
- 初任者が積極的にT1をしたことで学年団の授業力向上が図られた。
- 本校のベテラン教師陣の愛情に満ちた研修を積み重ね、初任者の成長を表情や子どもへの接し方、また、授業から感じ取ることができた。
- ベテラン教師によるきめ細やかな指導が行われていて、初任者も前向きに学んでいる姿が見られた。
- 初任者2名も意欲的・積極的に研修を行い、成果を上げたのではないだろうか。
- 細かい計画に沿って初任者研修が進められており、この一年間で随分力がついたと思う。
- 出張が多く、担任は忙しくて大変そうであった。
- 積極的に研修に取り組み、校内での役割も果たそうと努力できていた。

### <副担任というシステムについて>

- 副担任制で実施するなら、担任を初任者、副担任を指導者がするという形で行うとより効果的であると考えられる。
- 副担任制はじっくりと授業研究をするには効果的かと思うが、学級経営などを研修するには、時間割編成等で困難なところがある。
- 副担任という立場で一から学級経営を見せてもらえる初任者はとても恵まれていると思う。逆に、初任者が担任をする方が切実感や経験からの学びが多いのではないかと感じる。
- 副担任として担任の仕事を見ることで学ぶことも多いと思うが、担任として実際に仕事をすることで気付くこともあると思う。
- 一人で任される時間ができるだけ多く確保できると良いと思う。
- 一人は担任、一人は副担任。仕事の軽重があるように見えた。副担任は来年度担任するであろうから、そういった研修も必要ではないか。

<指導者について>

- 本校の初任者研修に携わるスタッフの力量と熱さは他にはないのではないか。
- 全員参加の初任研だった。指導した教諭の苦勞がよく分かる。

<本校職員にとって>

- 初任者でなくても研修等に関わることで、改めて考えさせられることがあり、勉強になった。
- 副担任制という新しい形の研修であったが、学年団が一致団結して取り組んだ結果、指導の立場の私も勉強になった。
- 中堅教員としてもっと積極的に関わるべきだったと反省している。
- 初任者の授業研究会に参加することで自分自身も学ぶことが多かった。
- 指導教諭が授業をした後の板書等を見るだけでも参考になったので、同じ学年団でよかったと感じた。
- 初任研と校内研を兼ねることができ、教師力向上ばかりでなく児童の学力向上まで高めることができ、調査研究事業を受けてよかったと思う。
- 学年が違えば、どのような内容で行われているのか分かりにくい部分もあった。
- 推進委員会、スプラウト会等、協議・研修の機会が多く、初任研の計画・推進・評価に協力的であった。

## 初任者研修についてのアンケート結果(初任者用)

4～11までは全て①

12 職務の遂行について、力を付けてきたと思うこと

項 目	該当初任者
①学級経営	A
②児童・生徒理解や指導	A・B
③学習指導	A・B
④保護者への対応	
⑤学校行事の指導	
⑥学級事務	
⑦休み時間や放課後の指導	B

13 学習指導について、力を付けてきたと思うこと

①指導計画や学習指導案の作成	A
②教材・教具等の準備	B
③基本的な指導技術	A・B
④個々の児童への対応	
⑤学習規律の保持・徹底	A
⑥授業の進度	B
⑦家庭での学習の出し方	

### 感想や意見等

○研修、学年団の先生はもちろん、全ての先生方が温かく見守ってくださり、指導・協力して下さった。

○細かな指導をいただき、授業・学級経営の両面で少しずつではあるが、力がついてきたように感じる。

○多くの先生方に見守られている。

○様々な先生の専門性の高い授業を見ることができて、自己の研鑽に役立った。

○職場全体が、何でも相談できる雰囲気であった。

様式 2

平成 26 年度総合的な教師力向上のための調査研究事業（初任者研修の抜本的な改革）  
実施報告書

1 調査研究校の基礎情報

調査研究実施校名	松茂町立松茂小学校	
校長名	(ふりがな) 氏名	(ほそい まこと) 細井 誠
連絡担当者	職名 (ふりがな) 氏名 電話番号	教頭 (あべ きよみ) 阿部 清美 088-699-2250

2 調査研究校の状況（平成 27 年 1 月 1 日現在）

常勤教員数	33人	うち、学級担任外教員数(13人)
再任用短時間勤務教員数	0人	※週 時間勤務 人 ※週 日勤務 人
非常勤教員数	0人	-----
学級数	20学級	-----
2年目教員数	2人	-----
3年目教員数	2人	-----
初任者の属性等 (所属・校務等)	初任者(A)	2年1組 副担任
	初任者(B)	3年3組 正担任
指導教員の属性等 (所属・校務等)	①指導教員(総括担当)	3学年配属専科 2年1組図工専科
	○初任者Aの ②指導教員(授業研修担当)	2年1組担任
	③指導教員(一般研修担当)	教務主任
	○初任者Bの ④指導教員(授業研修担当)	3学年配属専科(総括担当)
	⑤指導教員(一般研修担当)	教務主任

### 3 指導体制等

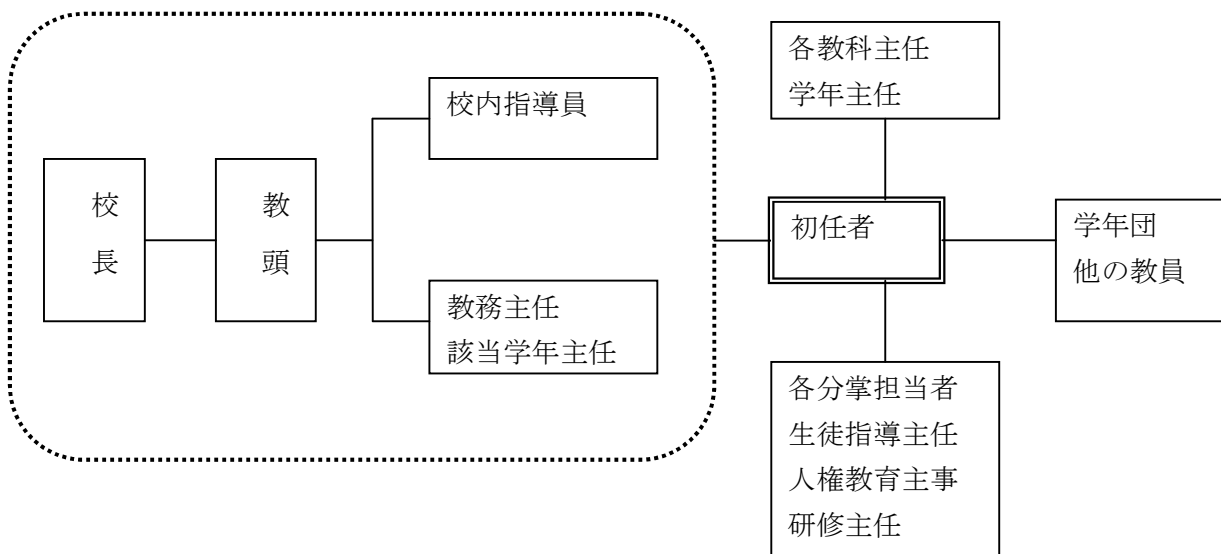
#### 3-A) 校内の指導体制

##### (1) 役割

職名等	役割分担
校長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初任者研修推進の総括</li> <li>○初任者研修に係る校務の決定</li> <li>○初任者研修推進委員会の委員</li> <li>○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者</li> </ul>
教頭	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導体制の整備・校務立案</li> <li>○初任者研修関係者への指導・助言</li> <li>○初任者研修推進委員会の委員</li> <li>○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者</li> <li>○県教育委員会や市町村教育委員会との連絡調整</li> </ul>
指導教員（総括担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初任者研修全体のコーディネーター</li> <li>○他の指導教員（授業研修担当・一般研修担当）と連携して初任者研修の全体計画を作成</li> <li>○初任者研修推進委員会の実施責任者</li> </ul>
指導教員（授業研修担当） 【初任者1名につき1名】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業研修のコーディネーター</li> <li>○授業研修の年間計画を作成し、指導にあたる。</li> <li>○初任者と同じ学年配置とする。</li> </ul>
指導教員（一般研修）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一般研修のコーディネーター</li> <li>○一般研修の年間計画を作成し、指導にあたる。</li> </ul>
その他の主任等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者</li> <li>○初任者研修推進委員会の委員</li> </ul>
その他の一般教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者</li> <li>○2・3年目教員は、「初任者情報交換会」のメンバー</li> <li>○8年目程度までの教員は、「若手教員情報交換会」のメンバー</li> </ul>

##### (2) 初任者研修推進委員会等

- ①学期に2回程度開催。指導教員（総括担当）が主催する。
- ②構成員は、校長，教頭，各指導教員，その他の主任とする。
- ③初任者研修及び調査研究事業の進捗状況や成果・課題の整理と次の取り組みへの展望について話し合う。
- ④負担等を考慮した効果的な運営に努める。



(3) 「初任者の情報交換会（ひよっこ会）」の実施

- ①学期に1回程度開催。3年目の教員が主催する。
- ②構成員は、初任者、2年目、3年目の教員とする。
- ③情報交換会を実施し、研修を進めていく上での助言を得たり、悩みを話し合ったりする。

(4) その他特に配慮した指導体制

- ①若手教員（れんこんの会・8年目程度まで）の情報交換会の実施

3-B) 初任者の勤務内容等における配慮事項

- ①当該初任者のこれまでの経験を考慮した校務分掌とする。
- ②初任者が研修に専念できるようにするため、初任者を校内指導教員の学級の副担任とする。  
学級担任の初任者には、もう一人の校内指導教員が専科教員としてサポートする。
- ③授業時数を減らし、研修に専念できるようにする。
- ④校務分掌は、副として担当し、負担の軽減を図る。



#### 4 調査研究事業の実施状況

月	各調査研究校における実施状況 (初任者研修に係る取組状況の記録)	実施状況 (徳島県教育委員会実施分)
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>4/2 初任者研修推進委員会 「調査研究事業実施計画書」検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4/30 調査研究校「調査研究事業実施計画書計画書」提出</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>5/23 初任者研修推進委員会 「1学期の活動計画」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5/19 第1回検討会議</li> <li>5/30 第1回連絡協議会</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>6/4 ひよっこ会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6/16 学校訪問①(藍住中)</li> <li>6/17 学校訪問①(千松小)</li> <li>6/23 学校訪問①(羽ノ浦小)</li> <li>6/26 学校訪問①(城西中)</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>7/11 校内研修 「学級経営について」 (講師：鳴教大 久我直人先生)</li> <li>7/14 初任者研修推進委員会 「1学期の成果と反省」</li> <li>7/24 初任者研修推進委員会 「2学期の活動計画」</li> <li>7/31 れんこんの会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7/ 4 先進校視察(小)(静岡県細江小)</li> <li>7/14 学校訪問①(松茂小)</li> <li>7/14 学校訪問①(北島小)</li> </ul>
8月		
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>9/11 校内研修 「算数科授業研究会」 (講師：鳴教大 服部勝憲先生)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9/24 第2回連絡協議会</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>10/10 校内研修 「国語科授業研究会」 (講師：森山小 野口幸司先生)</li> <li>10/23 校内研修 「からだづくり運動」 (講師：鳴教大 湯口雅史先生)</li> <li>10/29 ひよっこ会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10/21 学校訪問②(藍住中)</li> <li>10/28 学校訪問②(千松小)</li> <li>10/31 学校訪問②(羽ノ浦小)</li> </ul>

11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>11/13 校内研修 「人権教育について」 (県人権教育指導員 藤原スミ先生)</li> <li>11/20 校内研修 「理科教育・教材研究」 (北島北小 村上茂先生)</li> <li>11/27 校内研修 「図工教育・教材研究」 (元JICAシニアボランティア 美術教育 森本美鶴先生)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>11/10 先進校視察(中)(静岡県相良中)</li> <li>11/13 学校訪問②(城西中)</li> <li>11/26 学校訪問②(松茂小)</li> <li>11/26 学校訪問②(北島小)</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>12/19 初任者研修推進委員会 「2学期の成果と反省及び3学期の 活動計画」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12/3 第3回連絡協議会</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>初任者研修推進委員会「調査研究事業 実施報告書」検討(聞き取り)</li> <li>1/29 校内研修 「教員としての20年目をどう迎える か」 (徳島大学大学院M2 いわき市立 小名浜第一中学校 小野覚久先生)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1/28 第2回検討会議</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひよっこ会</li> <li>れんこんの会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2/6 調査研究校「調査研究事業実施報告書」 提出</li> <li>2/20 第4回連絡協議会</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>初任者研修推進委員会「1年間の成 果と課題」</li> <li>れんこんの会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究成果報告の配布</li> </ul>

## 5 調査研究の具体的な内容と成果・課題

### 視点(1) 初任者研修の校内指導体制の確立と充実について

#### ① 初任者指導のインセンティブが働く校務

ア実際に取り組んだ内容

○指導教員の負担を軽減し、初任者研修のコーディネートや指導に専念できるようにした。

- ・一人で担当するもち時間を減らし、初任者のTTとして入る時間を増やすなど時間割を工夫して編成し、初任者の指導に専念できるように配慮した。

- ・担当の校務分掌も複数制とし、分担して校務をこなせるようにした。
  - ・職員室の配置を初任者の隣とするなど、いつでも初任者の相談にのったり指導したりできるような環境作りを工夫し、きめ細かい指導を行った。
  - ・行事等で初任者研修がとれなかったときは、日を変えてとるなど柔軟に実施した。
- 教員ごとに役割分担をし、得意な分野を生かして初任者研修に関われるようにした。
- ・初任3年目までの会、「ひよっこ会」では、3年目の教員が会の運営と進行を務めた。
  - ・8年目までの会、「れんこんの会」ではメンバーの中から二人の教員が会の運営と進行を務めた。
  - ・中堅以上の教員は、一般研の講師としてや授業公開などで初任者と関わった。

#### イ 成果

- 指導教員として、初任者の学級の様子を毎日観察し、きめ細かい指導をすることができた。行事等で研修がとんだ時は、日を変えてとることができ、初任者と十分に関わることができた。
- 教員ごとに何らかの形で、初任者研修に関わることができた。
- 周りによく似た年令の教職員がいるので、目指すよいモデルとなっている。

#### ウ 課題

- 研究授業前になると協議の時間だけでは、十分な話をすることができない。放課後、初任者と話し合うとなると、学年部会、生徒指導対応が終わった後になったので、勤務時間外になることがあった。研修に専念できる日を設けるなど、時間の確保が必要である。
- ひよっこ会、れんこんの会の開催について、初任研コーディネーターの指導のもとで実施していて、自主的な会になっていない。自主的に会の運営ができるよう、リーダーを育てていく必要がある。また、何を話し合い、何を身につけるのか、話し合いの質も高めていかなければならない。
- 副担という制度が小学校では初めてであったため、副担任の初任者について、当初は保護者の理解が不十分であった。副担が担任に代わって保護者対応もできるように、副担の制度について学校便りや学年便りで学年はじめに知らせていく必要がある。

## ② 学校全体で初任者に関わるための指導・評価計画

### ア 実際に取り組んだ内容

- 初任者の課題を把握し、内容に応じて分担し、多くの教員が指導にあたる。
- ・初任者Aは、2年1組の副担任で、掲示（副）、図書館（副）を担当している。初任者Bは、食育（副）、書写（副）を担当している。主の教員がおり、指導を受けながら校務をこなしている。
  - ・指導にあたった教員は、よかった点やうまくいかなかった点を具体的に伝えるようにした。また、うまくいかなかった点については、共に原因や改善点を考えるようにした。
- 講師を招いての初任者研修では、若手研修、校内研修と2部制で実施し、全教員が関わられるようにした。
- 学期の終わりには、アンケートと自由記述で自己評価を行った。
- いろいろな学年・教科の授業参観を行った。

## イ 成果

- 主任の教員とともに校務を行うことで、実務を具体的に学ぶことができた。
- いろいろな学年の授業をみることで、子どもの成長の様子・学習の系列などを知ることができた。また、学年に応じた指導方法を学ぶことができた。
- 学期末に自己評価をすることで、来学期への目標をもつことができた。
- 多くの教職員が何らかの形で初任者研修に関わることで、初任者研修への理解を深めるとともに初任者研修自体も深まりのあるものになった。

## ウ 課題

- 初任者の校務分掌を副として割り当てたが、実践力を育てるために何か一つは、主として担当させることも考えていかなければならない。
- 本年度は、初任者研修の中の講話や実技研修を校内研修として行ったため、研修を負担に感じる教員も少なくなかった。計画的に研修を進めていく必要がある。
- 指導者が初任者の授業・学級経営等について、どのように評価していくか評価基準を考える必要がある。
- 評価の方法や尺度及び評価結果の活用方法が十分確立されていない。

## ③ 初任者研修推進委員会等の効果的な運用

### ア 実際に取り組んだ内容

- 初任者研修推進委員会で、調査研究授業の進捗状況や成果・課題について、初任者の状況について話し合った。
- 初任者研修の実施状況や計画を「初任者研修推進委員会便り」を発行し、全職員に知らせた。

## イ 成果

- それぞれの立場から初任者研修や初任者の状況について話を聞くことで、初任者の担任・副担任としての成長の様子や課題をより一層詳しく把握することができた。
- 課題解決のため、今後の指導について共通理解をすることができた。

## ウ 課題

- 行事等のため日程調整が難しく、十分な時間確保ができない。

## ④ 初任者研修の指導方法の一層の工夫

### ア 実際に取り組んだ内容

- 学年体制で教材研究を行い、必要な教材教具を準備したり作ったりした。
- 実践的な技術が身につけられるように、副担任の初任者には、1日担任の日を設けた。
- 副担任の初任者には、2学期から算数・体育・書写の指導と評価を任せた。3学期からは、合同体育の指導も行っている。
- 3年次までの初任者の会（ひよっこ会）、教職経験8年程度の若手教員の会（れんこんの会）を設け、共に学び合えるようにした。
- 体育・理科・図工の実技研修や学級経営・人権学習についての講話など、日々の授業実践の中ですぐに生かせる研修を実施した。

## イ成果

- 学年で教材教具を準備したり作ったりすることで、ベテラン教員のノウハウを伝えることができた。
- 普段の授業の準備も学年で必要なことが分かり、手分けして動けるようになってきている。
- 副担任に指導と評価を任せることで、責任を持って指導にあたっていた。
- 同世代の仲間と話をすることで、仲間との人間関係作りに有効であった。それぞれの仲間の工夫や苦勞を知ることができた。

## ウ課題

- ひよっこ会、れんこんの会ともに学期に1回程度しか実施できていないので、初任者の課題に応じて柔軟に開催できるように、また、若手教員の切磋琢磨の会となるようにメンバーの意識を高めていく必要がある。

## ⑤ 研修のノウハウの蓄積方法

### ア実際に取り組んだ内容

- 研修方法、内容等を文書ファイルとして保管し、必要に応じて活用できるようにした。
- 写真、ビデオ等で記録をとり、活用できるようにした。
- 指導案、研修時の資料をまとめた冊子を編集中である。

## イ成果

- 研修方法、内容等について文書ファイルとしてだけでなく、データとしても保管し、来年度も使えるようにするだけでなく、誰でも閲覧できるようにした。

## ウ課題

- 保管しているファイルやデータについて知らせ、活用できるようにする。

## ⑥ 初任者の状況把握と初任者に対する相談体制の整備

### ア実際に取り組んだ内容

- 指導教員は、初任者の課題を踏まえて具体的に助言するとともに、初任者の理解者として関わるように心がけ、相談しやすい雰囲気になるよう努めた。
- 同年代の教員とグループ研修をする場を設定し、気兼ねなく悩み等を相談できるようにした。
- 生徒指導・保護者対応などでトラブルが生じた時には、学年主任や管理職を交えて処理にあたった。
- 学級で生じたトラブルは、どんな些細なことでも報告・連絡・相談するよう指導した。
- 指導教員同士で初任者の状況について連絡を取り合い、それぞれの立場でフォローに努めるようにした。
- 初任者の状況把握ができるよう、コーディネーター担当の指導教員が二人のクラスに専科として入っている。

## イ成果

- 「ひよっこ会」「れんこんの会」で初任者の課題について共に考え、学び合う体制作りができた。

○学級で起こった些細なトラブルの報告・連絡・相談が確実に行えるようになり、指導者側も、初任者の状況がよく把握できた。

○トラブル処理には、学年主任や管理職が初任者と共に対処にあたり、初任者を支援することができた。

ウ課題

○トラブルに関して相談する時間や、トラブルの解決や処理の仕方に関する指導が放課後や勤務時間外に及んでしまうことがあった。

## 視点(2) 研修等の内容の充実について

### ① 初任者の年間の勤務を見通した研修内容の整理

ア実際に取り組んだ内容

○年間の学校・学年行事の流れに沿って研修内容を精選する。

・遠足・運動会・個人懇談等の大きな学校行事について、事前に関連する内容を一般研修で扱う。

・学年行事については、学年主任を中心に、学年で計画・準備・実施を行う。

・実際の活動に際しては、授業担当の指導員が共に参加し、助言する。

イ成果

○見通しをもって活動に取り組める。

○複数の教師で子どもを見ることにより、安全面に配慮することができる。

○複数の教師で活動することで、初任者の負担を軽くすることができる。

ウ課題

○授業担当の指導員が他学年の図工を2時間受け持っているため、曜日によっては、時間の調整が必要であった。

○週2時間の一般研の時間になっているが、学校行事、学年行事などでとぶことがある。その時は、放課後に実施したりしているが、時間の確保が難しい。

### ② 正担任・副担任・TT担当等、初任者の校務に即した研修内容の工夫

ア実際に取り組んだ内容

○授業診断・記録分析を生かした指導改善

・研究授業に際しては、授業記録・板書記録をとり、協議に生かしている。

・学年団で協力して事前授業を行い、指導改善できるようにしている。

・校内職員の協力を得て先輩職員の授業を参観し、授業に生かせるようにしている。

・授業担当の指導員がきめ細かい授業観察を行い、指導助言や示範授業をおこなっている。

○次年度以降を見すえた研修

・該当学年の学級事務に関わらせ、校務処理を具体的に学ばせる。

・公簿については、一般研で指導教員から指導するとともに、学年主任と共に作業し、具体的に指導している。

・若手教員の会をもち、校内の校務分掌について学ばせたり、将来担当するであろう校務に

ついて見通しをもたせたりしている。

#### イ成果

- 研究授業に向けて、指導教員から指導を受けたり、学年団で話し合ったりすることで、教材研究が深まり、授業力向上につながった。
- いろいろな学年の授業を見せていただくことで、子どもの発達段階が分かり、発達に応じた指導の仕方が分かる。
- 公簿の扱いについて、実践を通して学ぶことができた。
- 若手教員の会をもつことで、職員同士仲良くなれ、仕事のことなど話をしやすくなった。
- 研究授業、参観授業、若手教員の会等何らかの形で、たくさんの教員が初任者研修と関わることができ、初任者研修に対する理解を深めることができた。

#### ウ課題

- 時間の確保が難しく、時には、勤務時間を過ぎることもあり、初任者の負担となっている。

### ③ OJTによる研修と直接指導による研修のバランス

#### ア実際に取り組んだ内容

##### ○副担任

- ・2学期からは、将来担任することを見すえて、週3回を「1日担任の日」とし、朝の会から帰りの会まで指導を行っている。
- ・参観日（10月オープンスクール）には、T1として授業を行った。
- ・教科毎（算数・体育・書写）評価も含めて指導を担当している。
- ・他学年への入り込みは、経験のある教員に指導を受けながら活動している。

##### ○担任

- ・毎日、学年部会をもち、学習に必要な教材・教具を作ったり準備したりしている。
- ・算数のノートのとり方を学年でそろえるなど、学習の進め方についても具体的に指導を受けながら進めている。
- ・校外学習の際には、学年主任と共に、事前打ち合わせ等計画段階から校外学習の手順を学んでいる。
- ・生徒指導上のトラブルがあった時には、学年主任と共に生徒指導を行ったり、保護者対応をしたりしている。時には、生徒指導主任、管理職を交えての相談体制をとることができている。

##### ○直接指導

- ・授業力の向上を図るため、外部の専門的な知識を持った講師を招き、教師としての知識を習得できるよう研修を計画・実施した。
- ・2部制（若手中心の研修と全教職員による研修）にし、教職経験年数やスキルに配慮した研修内容を工夫した。

「学級経営について」（講師：鳴門教育大学 教授 久我 直人 先生）

「算数科授業研究会」（講師：鳴門教育大学 講師 服部 勝憲 先生）

「国語科授業研究会」（講師：森山小学校 教頭 野口 幸司 先生）

「体育科示範授業」（講師：鳴門教育大学 准教授 湯口 雅史 先生）

若手中心研修・・・「からだづくり運動」（2年，4年，6年）

全体研修・・・いろいろな準備運動について

「人権教育について」（講師：徳島県人権教育指導員 藤原 スミ 先生）

「理科教育・教材研究」（講師：北島北小学校 教頭 村上 茂 先生）



若手研修「教材づくり」

全体研修「模擬実験等」

○「図工教育・教材研究」（講師：元JICAシニアボランティア 森本 美鶴 先生）



初任者研修（図工授業研修）

全体研修（講義と実技研修）

○「教員としての20年目をどう迎えるか」

（講師：徳島大学大学院M2 いわき市立小名浜第一中学校 小野 寛久 先生）

イ成果

- 日々授業実践をすることで授業力が向上している。
- 評価も任せられることで，責任をもって授業に臨むことができています。
- チームを組んでトラブル処理にあたることで，初任者の負担を軽くすることができた。
- 参観日デビューをすることで，保護者への理解を深めることができた。
- 報告・連絡・相談がきちんとできるようになった。
- 初任者だけでなく職員全員で研修に取り組むことができた。講師招聘の実技講習は好評であった。

ウ課題

- 校内研修と初任者研修とからめて実施したので，多忙になった。
- もっと早く話を聞いていれば学級経営に生かしたり，学習指導に生かしたりできた内容もあったので，研修の実施時期と内容について改善していきたい。
- 副担ということで，学級ではお姉さんの存在となっている。そのため，統制がとりにくい。
- 保護者対応は，すべて担任が行っている。そのため，来年度，担任するようになった時が心配である。



平成26年度総合的な教師力向上のための調査研究事業（初任者研修の抜本的な改革）

実施報告書

1 調査研究校の基礎情報

調査研究実施校名	北島町立北島小学校	
校長名	(ふりがな) 氏名	(かわにし たかお) 川西 隆夫
連絡担当者	職名 (ふりがな) 氏名 電話番号	教頭 (まえだ まさひこ) 前田 昌彦 088 (698) 2250

2 調査研究校の状況（平成27年1月1日現在）

常勤教員数	35人	うち、学級担任外教員数(4人)
再任用短時間勤務教員数	0人	※週 時間勤務 人 ※週 日勤務 人
非常勤教員数	0人	
学級数	21学級	
2年目教員数	2人	
3年目教員数	0人	
初任者の属性等 (所属・校務等)	初任者(A)	2年C組副担任・職員会議録
	初任者(B)	4年B組担任・ボランティア活動(副)
指導教員の属性等 (所属・校務等)	①指導教員(総括担当)	研修副主任
	○初任者Aの	
	②指導教員(授業研修担当)	2年C組担任・金銭教育
	③指導教員(一般研修担当)	総括担当と同じ
	○初任者Bの	
	④指導教員(授業研修担当)	4年段配属専科教員・図書館教育
	⑤指導教員(一般研修担当)	総括担当と同じ

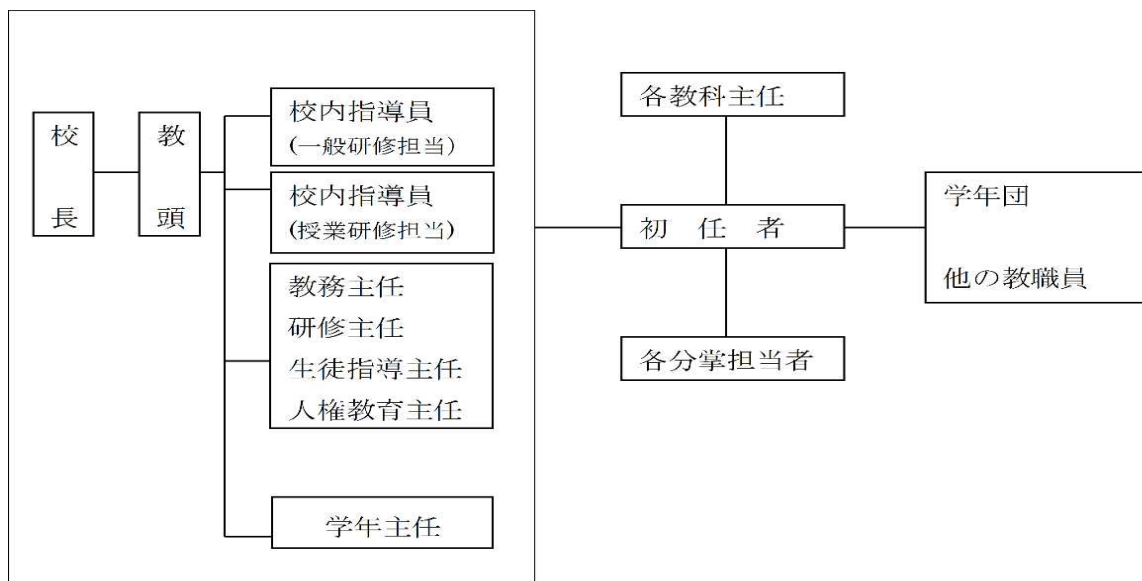
### 3 指導体制等

#### 3-A) 校内の指導体制

##### (1) 役割

職名等	役割分担
校長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初任者研修推進の総括</li> <li>○初任者研修に係る校務の決定</li> <li>○初任者研修推進委員会の委員</li> <li>○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者</li> </ul>
教頭	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導体制整備・立案</li> <li>○初任者研修関係者への指導・助言</li> <li>○初任者研修推進委員会の委員</li> <li>○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者</li> <li>○県教育委員会や市町村教育委員会との連絡調整 等</li> </ul>
指導教員（総括担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初任者研修全体及び一般研修のコーディネーター</li> <li>○一般研修の年間計画を作成し、指導にあたる。</li> <li>○他の指導教員と連携して初任者研修の全体計画を作成</li> <li>○初任者研修推進委員会の実施責任者</li> </ul>
指導教員 (授業研修担当)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業研修のコーディネーター</li> <li>○授業研修の年間計画を作成し、指導にあたる。</li> </ul>
研修主任	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初任者研修を含めた校内年間計画の作成</li> <li>○初任者研修全体及び一般研修のコーディネーター</li> </ul>
その他の主任等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者</li> <li>○初任者研修推進委員会の委員となることもある。</li> </ul>
その他一般教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者</li> <li>○2年目教員は定期的な意見交換会のメンバー</li> </ul>

##### <組織図>



(2) 初任者研修推進委員会について

- ① 月1回程度、指導教員（総括担当）が主宰した。
- ② 構成員は、校長、教頭、初任者研修担当教員、研修主任、担当学年主任、その他の主任等とした。
- ③ 協議内容の中に初任者の状況報告だけではなく、調査研究についての協議を含む。

(3) その他特に配慮した指導体制

- ① 若手教員の研修会（若人の会）を開催した。
- ② 初めは定期的で開催し、徐々に自主的な運営とした。
- ③ あらかじめ話し合う内容について担当者は事前に掌握し、必要に応じて研修会に参加して指導助言を行った。

3-B) 初任者の勤務内容等における配慮事項

- ① 教材研究・実践授業の準備等の時間を確保するため2名とも校務及び授業時数を軽減した。
- ② 初任者Aには、高学年の専科授業を担当させ、一人で授業を行う機会を確保した。

4 調査研究事業の実施状況

月	各調査研究校における実施状況 (初任者研修に係る取組状況の記録)	実施状況 (徳島県教育委員会実施分)
4月	○調査研究事業実施計画書作成 ○初任者研修推進委員会	・4/30 調査研究校「調査研究事業実施計画書計画書」提出
5月	○初任者及び他の教員へのアンケート及び聞き取りの実施(1回目) ○初任者研修推進委員会 ○外部講師によるコンプライアンス研修(全教職員対象)	・5/19 第1回検討会議 ・5/30 第1回連絡協議会
6月	○初任者研修推進委員会 ○研究授業・授業研究会(B教諭:算数)	・6/16 学校訪問①(藍住中) ・6/17 学校訪問①(千松小) ・6/23 学校訪問①(羽ノ浦小) ・6/26 学校訪問①(城西中)
7月	○研究授業・授業研究会(A教諭:算数)	・7/ 4 先進校視察(小)(静岡県細江小) ・7/14 学校訪問①(松茂小) ・7/14 学校訪問①(北島小)

8月	○実技講習（毛筆）	
9月	○初任者研修推進委員会	・9/24 第2回連絡協議会
10月	○初任者研修推進委員会 ○講師を招いての研究授業・授業研究会（A・B教諭：国語）	・10/21 学校訪問②（藍住中） ・10/28 学校訪問②（千松小） ・10/31 学校訪問②（羽ノ浦小）
11月	○初任者研修推進委員会	・11/10 先進校視察（中）（静岡県相良中） ・11/13 学校訪問②（城西中） ・11/26 学校訪問②（松茂小） ・11/26 学校訪問②（北島小）
12月	○初任者及び他の教員へのアンケート及び聞き取りの実施（2回目） ○外部講師によるコンプライアンス研修（若手教員対象）	・12/3 第3回連絡協議会
1月	○初任者研修推進委員会 ○町内幼・小・中研究指定中間発表会にて発表	・1/28 第2回検討会議
2月	○初任者研修推進委員会 ○研究成果報告のまとめ ○A・B教諭研究授業予定（道徳・人権）	・2/6 調査研究校「調査研究事業実施報告書」提出 ・2/20 第4回連絡協議会
3月	○初任者研修推進委員会	・研究成果報告の配布

## 5 調査研究の具体的な内容と成果・課題

### 視点(1) 初任者研修の校内指導体制の確立と充実について

#### ① 初任者指導のインセンティブが働く校務

##### ア 実際に取り組んだ内容

- 初任者担当教員が初任者指導に専念できるよう、授業時数及び校務を軽減した。
- 初任者研修推進委員会を学期に1回の開催から月に1回程度の開催とし、初任者研修の成果や課題を共有し、定期的に全職員に報告し、共通理解を図った。

##### イ 成果

- 初任者担当教員(授業研修担当)が初任者1名について1名ずつおり、また、月曜から金曜まで毎日指導できることから、初任者の状況に応じて十分に寄り添い、サポートし、指導することができた。
- 初任者にとっても分からないことがあればすぐに相談できることがよかった。
- 初任者研修推進委員会において、初任者の状況や研修の進捗状況を共有する機会を持てたことで、その初任者ごとに必要なことは何か相談・協議し、共通理解を図り、連携して指導に当たることができた。

##### ウ 課題

- 教職員のより一層の共通理解を図るためには、月一回以上は推進委員会を持つようにすることが大切である。

#### ② 学校全体で初任者に関わるための指導・評価計画

##### ア 実際に取り組んだ内容

- 講師を招いて2回コンプライアンス研修を行い、教員としての基本姿勢、責務、現代の課題に対する解決法等について話を聴いた。その際、全教職員や若手教員(教職経験10年未満)が参加した。



コンプライアンス研修の様子(左:全職員対象(5月)・右:若手教員対象(12月))

- 初任者の研究授業(国語)においても2名とも講師を招いて指導を受けた。他の教員や若手教員が研究会に参加し、初任者とともに学んだ。

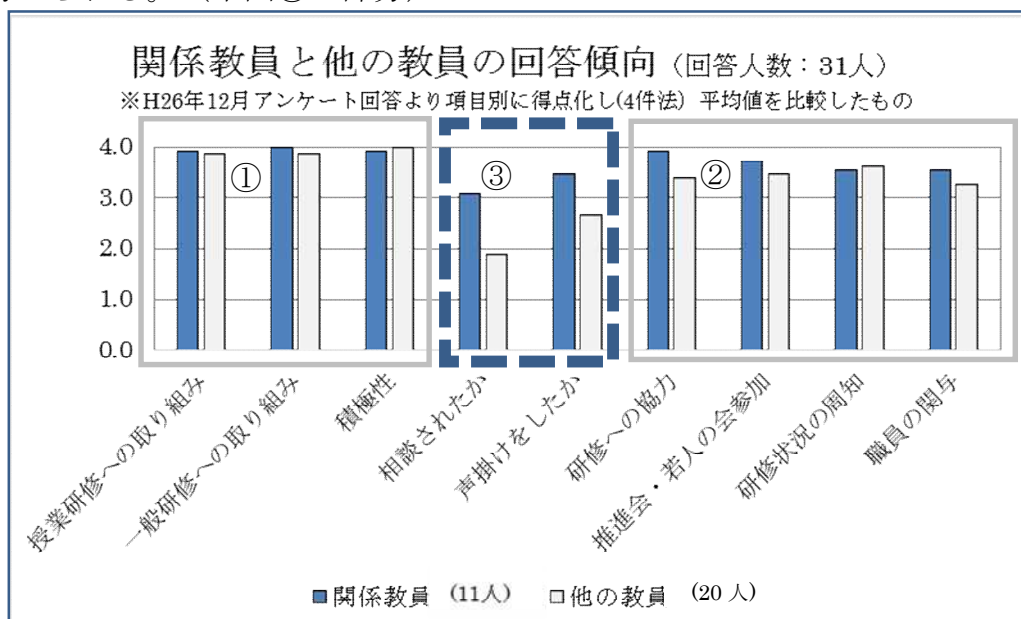
- 初任者担当教員だけではなく、専門的知識や技能を有する多くの教員が初任者に対して講話や授業の指導・評価を行った。年度当初に全教職員にアンケートを実施し、初任者研修に協力できることはないか聞き取っておき、それにもとづいて実施した。
- 初任者が気軽に他の学級を参観したり他の教員に質問したりできるよう全職員間で共通理解を図った。
- 学期に1回以上、職員会議で初任者自身が初任研についての感想・意見・成果を発表する場を設けた。
- 評価は、初任者の観察、協力してくれた教員からの聞き取り、初任者自身の自己評価、一般研修のときの聞き取りなどの機会を通して行った。

## イ 成果

- アンケート結果より多くの教員が初任者の研修態度や成果（下図グラフの①の部分）、校内の体制づくり（②の部分）について高い評価を示していた。
- コンプライアンス研修や国語の研究授業では、若手教員を始め他の教員も多く学ぶことができた。研修に参加できなかった教師には、内容を口頭で要約して伝えたり資料を回覧・配布したりして、研修内容をより広められた。
- 希望の聞き取りにより、多くの教員の一般研修や参観授業への協力を得られた。
- 多くの教員が関わって多様な方法で初任者の評価ができた。

## ウ 課題

- 初任者への指導に対して積極的に協力してくれた教員もいたが、担当でない教員の中には多忙さや自信のなさを理由に、応じてもらえない場合もあった。
- 初任者に関わりの深い教員（初任研の指導者及び初任者と同じ学年団に属している教員）と他の教員の間で「初任者から相談を受けた」と「初任者に声をかけた」の項目において差が見られたことから、「初任者研修を全員で支える」という点が十分ではなかったと考えられる。（下図③の部分）



- 初任者が他の学級の様子（給食や清掃活動、掲示など）を参観し、工夫するところを尋ねる機会をもっととればよかった。初任者の学級を見てのアドバイスが誰でも気軽にできるような雰囲気づくりを目指し、教職員全員の理解と協力の意識を高めたい。

### ③ 初任者研修推進委員会等の効果的な運用

#### ア 実際に取り組んだ内容

- 初任者研修推進委員会が形式的なものとならぬよう、初任者の課題について、具体的に解決方法について話し合ったり、次回からの研修内容に生かしたりした。

#### イ 成果

- 昨年度までは初任者も参加していた。初任者が参加していたために初任者を配慮した形式上の討論・意見交換になっていたという反省から、本年度は初任者を除いて行った。推進委員が初任者の研修状況等についてそれぞれの立場でいろいろな意見を出し合い、指導について共通理解を図れたことがよかった。
- 推進委員会で話し合ったことを初任者自身に伝えたり職員会等で全職員に知らせたりするようにした。

#### ウ 課題

- 本年度の初任者は明るく素直でどんな小さなことも指導教員や学年主任に相談した。初任者研修の成否は、初任者の教師としての資質に大きく左右されると思われる。

### ④ 初任者研修の指導方法の一層の工夫

#### ア 実際に取り組んだ内容

- 一般研修において、講話方式や初任者の相互評価等、多様な指導方法を工夫した。
- 授業方法に慣れない初任者Bのために、実技指導を伴い安全面の配慮が必要な体育、問題解決的な総合的な学習の時間の指導の在り方等について、学年の合同授業を通して実際の授業の在り方を身に付けていくようにした。
- インフォーマル研修（初任者の要望等を加味した若手教員の研修会）を実施し、教職年数の少ない教員同士で共に学び合う機会をもった。
- 初任者を常に指導する立場である一般研修の指導教員、授業研修の指導教員、学年主任の連携と共通理解を特に意識して取り組んだ。

#### イ 成果

- 一般研修においては初任者の要望を取り入れたり、研修センターでの研修や支援学校訪問、郡の研修会で参観した研究授業のことなどをもとに話し合いを深めたり、授業改善シートを用いて振り返りを行ったりして、多様な研修を行うことができた。
- 学年団の教員の指導や「若人の会」の実施により、学年行事の実施や学年の掲示物の作成、ホームページの写真の加工の仕方など、初任者は、多様な立場の教員から多くのことを学び、実践できるようになった。

- それぞれの指導教員や学年主任が初任者に指導したことや「この指導のこの部分は△△研修で行ったのでこの部分は□□研修のときに任せる」というように役割分担について会話することにより、研修に無駄がなく、より効果的なものどできた。

#### ウ 課題

- 初任者の学年団や若手教員など多くの教員に協力をよびかけることが重要である。

### ⑤ 研修のノウハウの蓄積方法

#### ア 実際に取り組んだ内容

- 初任者の実態や要望に応じた研修を工夫し、その成果や課題を記録して残した。
- インフォーマル研修の成果や課題についてまとめた。

#### イ 成果

- 初任者の学びや課題について整理することができた。
- 次年度以降利用しやすいように、研修に用いた資料やメモをデジタルや紙媒体で整理できた。

#### ウ 課題

- 今年度は、連絡協議会で他校の取り組みや講師の指導から学んだことが非常に参考になった。今後も研修の記録をとるとともに、他校の指導教員と連絡を取り合うことが必要であると再認識した。他校の取り組みが見えるデータベースがあるとよい。

### ⑥ 初任者の状況把握と初任者に対する相談体制の整備

#### ア 実際に取り組んだ内容

- 初任者配属の学年主任と指導教員が常に情報交換し、初任者の状況を把握した。
- 初任者の状況把握や悩みの相談については指導担当教員が授業研修の協議の時間や一般研修の時間に十分に時間をかけて行うようにした。
- 悩みを分かち合える同年代の教員との交流の場（若人の会）を定期的に設けた。
- 一番話しやすい教員は誰かと聞き取っておき（バディー）、その教員に困ったときには相談にのってもらえるよう依頼しておいた。

#### イ 成果

- 相談体制を充実させることにより、初任者はのびのびと仕事をすることができていた。2名とも小さなことでも、指導員等に話し、相談した。指導教員もしっかり声をかけた。
- 「若人の会」のメンバーや他の若手教員には、特に細かいことも聞きやすいようで、研修のとき以外に雑談を含め、学級の様子、仕事の方法などたくさんのかんことを尋ねており、意図的に会を持ったことが、きっかけのひとつとなったと考えられる。



## ウ 課題

- 初任者の個性、特性、臨時経験の有無などを考慮して専科担当学年や教科を決めることが課題である。



若人の会の様子（7月）

## ⑦ その他

- 初任者の年齢・性格や個性、臨時経験の有無などを考慮した初任者研修の在り方について今後も研修していきたい。

## 視点(2) 研修等の内容の充実について

### ① 初任者の年間の勤務を見通した研修内容の整理

#### ア 実際に取り組んだ内容

- 前年度の反省をもとに初任者の実態に応じた年間計画を設定した。
- 授業力の向上を図るために2学期後半に外部の講師を招いて研究授業を行い、助言を受けるようにした。
- 初任者の授業方法の指導において課題と身につけさせたい力を整理し、最初は基本的なことを指導し、達成状況に応じて徐々に話法や指名の仕方などの細かい点も指導するようにした。
- A・B教諭とも最初は国語・算数を中心に授業研修を進め、徐々に他の教科の研修も進めた。
- B教諭は2学期後半には少しゆとりができたため、来年度以降を見越して普段は行っていない社会や理科の授業方法についても授業を参観させたり、実験を共に行わせたりするなどした。

#### イ 成果

- 国語の研究授業（大研）について指導教員や学年主任と相談して指導案を作成する他、指導の展開について何度も講師に相談し、素晴らしい授業を実施することができた。
- 初任者の成長によって研修内容を工夫することで、ゆとりをもち、今必要なことに重点をおいて指導することができた。
- A教諭はいろいろな教科の授業方法を身に付け、落ち着いた授業を展開し、子どもの興味や発達段階に合った発問や声かけを生かした授業ができるようになった。

- B教諭は授業の目標を貫く堂々とした授業ができるようになり，児童理解が進むにしたがって意図的な指名などもできている。社会や理科の授業の進め方についても理解しつつある。
- 2名とも授業力に自信をつけ，学級経営にもやりがいや充実感を感じている。  
(11月 聞き取り)

A教諭の研究授業の様子(2年 算数「かさ」 国語「お手紙」)

B教諭の研究授業の様子(4年 算数「分数」 国語「ごんぎつね」)

#### ウ 課題

- A教諭の主な入り込み授業の教科が家庭科であったことで，準備や個人差への対応のため，休み時間等を利用することがあり，1日担任の日を十分にとることは難しかった。しかし，多忙にも関わらずA教諭と指導教員は協力して時間をやりくりしていた。

② 正担任・副担任・TT担当等，初任者の校務に即した研修内容の工夫

#### ア 実際に取り組んだ内容

- 一般研修においては，A教諭が来年度は担任をすることを考えに入れて，2名とも担任としての立場で同じ研修を行った。
- 副担任であるA教諭は，授業方法，子どもへの接し方等について，正担任の取り組みを参観し，毎日共に学級経営を行うことで学ばせた。来年度の正担任を目指して，担任

と役割を交代して一日児童の登校から下校まで担任として学級を任される日を設定し、後半は交代して行う日を増やした。

- A教諭の家庭科や書写の入り込み授業の指導については、参観授業や実践授業として行い、初任者同士で協議したり5年生の担任に指導してもらったりするなどの工夫をした。
- 担任のB教諭は臨時経験がなかったため、授業、朝夕の会、給食、清掃指導、子どもの評価、保護者対応等について指導教員をはじめ、学年主任、相学級の教員がていねいに指導し、少しずつ任せていくようにした。

#### イ 成果

- 初任者同士が学級経営や生徒指導、人権教育などについて、話し合い、意見を述べ合う機会を多く持つことができ、有意義な研修ができた。
- A教諭は家庭科や書写の授業において、他の教員からの助言を取り入れて子ども同士の教え合いや相互評価を取り入れるなど、指導方法の改善に努めている。
- B教諭は校務で体育（副）を担当した。自主的に体育的行事を体育主任等と共に行うことで運営の仕方について学んだり、郡陸上大会、町内駅伝大会などの放課後の練習等に参加して安全に気をつけた指導方法等について学んだりしている。

#### ウ 課題

- 今後も初任者の担当や校務によって研修内容を工夫していかなければならない。

### ③ OJTによる研修と直接指導による研修のバランス

#### ア 実際に取り組んだ内容

- 学年団や他の教員がOJTで指導したことや授業研修担当、一般研修担当がそれぞれの立場で行った研修内容及びその進捗状況について推進委員会で報告し合い、その後の適切かつ効率的な研修に生かすよう心がけた。
- 学校行事や日々の様々な活動を通して全教職員がOJTで初任者を指導していくよう共通理解を図った。

#### イ 成果

- 行事の運営や教室掲示の方法・配布物の作成などについて、OJTで多く学んだ。
- 適切な指導により、初任者は行事などの意義や運営方法、配慮事項など多くのことを総合的に学び実践につなげている。

#### ウ 課題

- 指導教員同士、学年主任と指導教員の初任者指導についての話し合いの機会を増やし充実させていきたい。

### ④ その他

#### ア 実際に取り組んだ内容

- 平成 27 年 1 月，町教育長や教育委員，町内 3 小学校，1 中学校の管理職等の前で本校の取り組みの成果を発表した。
- 正担任，副担任をおく今回の取り組みにより，常に初任者を支援できる校内体制ができ，初任者が大きく成長を遂げたこと，全職員の初任者を育てる意識が高まったことなどを報告した。

#### イ 成果

- 町の教育関係者や町内の他校教員に，本校の初任者研修の取り組みについて知ってもらい，広めることができた。他校でも取り入れたいとの感想が多数あった。

#### ウ 課題

- 初任者研修の充実や共に学び合う教師集団の体制づくりについて他校に伝え，また，他校の取り組みからも学び，今後の実践を充実させていくことが大切である。
- 従来の初任研制度の場合に，今年度の成果を取り入れてどう生かしていくかが課題である。
- 学校ホームページに研究の様子を紹介することも，今後検討していきたい。



町内教育関係者及び他校教員に説明する様子  
(H27 年 1 月 於：北島町総合庁舎)

様式 2

平成 26 年度総合的な教師力向上のための調査研究事業（初任者研修の抜本的な改革）  
実施報告書

1 調査研究校の基礎情報

調査研究実施校名		徳島市城西中学校	
校長名	(ふりがな) 氏名	き づ まさ のり 木 津 正 憲	
連絡担当者	職名 (ふりがな) 氏名 電話番号	教 頭 い とう ち よ 伊 藤 千 代 学校 (088-631-5543) 携帯 (090-4331-4908)	

2 調査研究校の状況（平成 27 年 1 月 1 日現在）

常勤教員数	4 2 人	うち、学級担任外教員数(20人)
再任用短時間勤務教員数	0 人	※週 時間勤務 人 ※週 日勤務 人
非常勤教員数	0 人	
学級数	2 2 学級	
2 年目教員数	2 人	
3 年目教員数	1 人	
初任者の属性等 (所属・校務等)	初任者(A)	1 年 3 組担任, 性教育, 集団指揮
	初任者(B)	2 学年, 副担任, 学年会計, 掲示
指導教員の属性等 (所属・校務等)	①指導教員(総括担当)	3 学年主任
	○初任者 A の	
	②指導教員(授業研修担当)	2 学年, 副担任, 保健主事, 特コ
	③指導教員(一般研修担当)	①が担当
	○初任者 B の	
	④指導教員(授業研修担当)	3 年 3 組担任, 進路指導主事
	⑤指導教員(一般研修担当)	①が担当

### 3 指導体制等

#### 3-A) 校内の指導体制

##### (1) 役割

職名等	役割分担
校長	○初任者研修推進の総括 ○初任者研修に係る校務の決定 ○一般，教科研修における指導及び助言
教頭	○初任者研修の推進状況の把握と関係者への指導及び助言 ○校内の連携体制の確立 ○一般，教科研修における指導及び助言 ○教育委員会との連絡・調整
指導教員	○初任者研修計画の立案，調整，記録(総括担当) ○校内の教職員との連絡・調整(総括担当) ○初任者研修の記録の保管 ○研修資料の収集，整理，保管
学年主任	○学年内の指導協力体制の確立 ○初任者への指導および助言 ○初任者の実践に関する評価
研修主任	○初任者研修と絡めた校内研修の内容，実施日の調整 (「城西熱血教師塾」他)
教務主任	○研究授業日の日程調整 ○校内研修日の日程調整

##### (2) 初任者研修推進委員会等

- ① 毎月1回程度開催。総括担当が主宰。
- ② 企画委員会の後に行う。(校長，教頭，総括担当，教務主任，学年主任，生徒指導主事，養護教諭，事務長)
- ③ 初任者研修及び調査研究事業の進捗状況確認，課題の整理，次の取り組みへの方向性確認。

##### (3) 「若手教員の情報交換会」等

- ① 「わかばの会」を「城西熱血教師塾」のあとで実施予定。
- ② 総括担当が参加し，必要に応じて助言。

(4) その他特に配慮した指導体制

- ① 部活動指導においては、指導力のある教師とともに担当させる。
- ② 関係教員を初任者所属学年だけでなく、すべての学年に配置。

3-B) 初任者の勤務内容等における配慮事項

- ① 校外研修の予定される曜日に授業や研修の時間を入れない。
- ② 校務分掌において負担加重とならないよう担当させる。

4 調査研究事業の実施状況

月	各調査研究校における実施状況 (初任者研修に係る取組状況の記録)	実施状況 (徳島県教育委員会実施分)
4月	<ul style="list-style-type: none"><li>○校務分掌により担当者の役割を明らかにし、研修計画を立てる。</li><li>○初任者に研修の内容や方法を伝えるとともに聞き取りをする。</li><li>○職員会で初任者研修についての説明と協力依頼をする。</li><li>○各学年主任を中心とした初任者のOJTをスタートする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・4/30 調査研究校「調査研究事業実施計画書計画書」提出</li></ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"><li>○校内研修として、「学び合い」の研究授業及び授業研究会を実施する。</li><li>○検討会議、連絡協議会での協議内容、情報交換に基づき、計画の修正を行う。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・5/19 第1回検討会議</li><li>・5/30 第1回連絡協議会</li></ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"><li>○教科の研究授業及び授業研究会を実施する。(初任者A)</li><li>○外部講師を招いての校内全体研修(心肺蘇生法・AEDの使い方)を実施する。</li><li>○初任者研修の進捗状況を教育委員会に報告をし、指導助言していただく。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・6/16 学校訪問①(藍住中)</li><li>・6/17 学校訪問①(千松小)</li><li>・6/23 学校訪問①(羽ノ浦小)</li><li>・6/26 学校訪問①(城西中)</li></ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"><li>○教科の研究授業及び授業研究会を実施する。(初任者B)</li><li>○一学期の取り組みについて初任者への聞き取りをしながら、振り返りをするとともに夏季休業日と二学期の研修計画に修正を加える。</li><li>○外部講師を招いての校内全体研修(コンプライアンス研修)を実施する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・7/ 4 先進校視察(小)(静岡県細江小)</li><li>・7/14 学校訪問①(松茂小)</li><li>・7/14 学校訪問①(北島小)</li></ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"><li>○夏季休業日を利用して、外部講師を</li></ul>	

	招いての校内全体研修（指導力向上研修・防災教育研修）を実施する。 ○一般研修（生徒指導・情報教育・食育）を実施する。	
9月	○校内研修として、「学び合い」の場を設定した授業実践の課題と成果についての報告会を実施する。	・9/24 第2回連絡協議会
10月	○教科の研究授業及び授業研究会を実施する。（初任者B）	・10/21 学校訪問②（藍住中） ・10/28 学校訪問②（千松小） ・10/31 学校訪問②（羽ノ浦小）
11月	○初任者研修の進捗状況を教育委員会に報告をし、指導助言していただく。 ○教科の研究授業及び授業研究会を実施する。（初任者A）	・11/10 先進校視察（中）（静岡県相良中） ・11/13 学校訪問②（城西中） ・11/26 学校訪問②（松茂小） ・11/26 学校訪問②（北島小）
12月	○先進校視察の報告（校内研修・授業研修）をする。 ○二学期の取り組みについて初任者への聞き取りをしながら振り返りをするとともに、冬季休業日と三学期の研修計画に修正を加える。	・12/ 3 第3回連絡協議会
1月	○冬季休業日を利用して一般研修（生徒会活動・環境教育）を行う。	・1/28 第2回検討会議
2月	○教科外の研究授業及び授業研究会を実施する。（初任者A・B）	・2/ 6 調査研究校「調査研究事業実施報告書」提出 ・2/20 第4回連絡協議会
3月	○一年間の取り組みについて初任者への聞き取りをしながら振り返りをして、総括と評価をする。 ○校内の教員間で、初任者研修の成果と課題を共有する。	・研究成果報告の配布

## 5 調査研究の具体的な内容と成果・課題

### 視点(1) 初任者研修の校内指導体制の確立と充実について

#### ① 初任者指導のインセンティブが働く校務

##### ア 実際に取り組んだ内容

- 指導教員・学年主任・学年内の教員を中心として校務への協力・支援体制を整える。
- できるだけ数多くの教員に関わってもらえるよう指導計画を立て連絡・調整する。

##### イ 成果

- 学年内の教員を中心に、同じ教科の教員や同じ部活動の顧問など数多くの教員が関



わり、教科指導や校務における協力・支援体制が整った。

- 授業研修では、同じ教科の教員がアドバイスしたり、同世代の教員と意見交換したりして意欲的に取り組んでいた。また、本校には、専門的な知識が豊富な教員が多いので、一般研修において、その人材が十分に生かせるよう配慮した。時間の都合がつかない場合は、放課後や長期休業日に指導をお願いをした。

#### ウ 課題

- 部活動や急な生徒指導で、予定していた研修ができないこともあったが、校内の教員なので、後日取り返しをすることができた。

---

### ② 学校全体で初任者に関わるための指導・評価計画

#### ア 実際に取り組んだ内容

- 教員数が多いので、校長や教頭を含めたできるだけ多くの教員からの指導・助言をしてもらえるよう計画を立て、その連絡・調整を図った。そして、「初任者研修の手引」から「実施上のポイント」「初任者への指導の視点」「研修の進め方のポイント」などを周知し、指導のねらいを明らかにした上で関わってもらうよう配慮した。
- 学年主任や教科指導教員、指導に携わった教員との連携を密に図りながら、指導計画や指導のねらいに沿った評価を行うように努めた。
- 初任者の研究授業には、多くの先生に参加してもらえるように呼びかけ、参観者には、評価シートの記入とともに指導・助言をお願いした。

#### イ 成果

- さまざまな協力依頼を誰もが快く引き受けてくれ、初任者研修に数多くの教員に関わってもらうことができた。また、初任者研修をきっかけとして、教員どうしが学び合う場面も見受けられた。

授業研修においては、初任者二人ともが1回目の研究授業より2回目の方が全ての項目で評価が高くなっており、研修の成果がうかがえた。

#### ウ 課題

- 一般研修の評価については、相対評価や個人内評価はできても、評価規準がはっきりとしないので絶対評価をするのが困難である。

また、副担任の立場では、担任に比べ保護者との連携や直接的な生徒指導の場面が少なく、知識では理解できていても実践ではどうなのかといった点で評価しづらい面がある。

---

### ③ 初任者研修推進委員会等の効果的な運用

#### ア 実際に取り組んだ内容

- 主たる委員会メンバー(校長・教頭・教務主任・初任者研修担当・研修主任・学年主任)で研修推進の方向性の検討、実施状況の確認を行い、必要に応じて関係指導者(人権教育主事、生徒指導主事等)を加えて具体的な研修の機会、実施内容を協議する。

- 企画委員会(週1回)の場で、初任者研修に関して担当より報告や指導の依頼を行う。

#### イ 成果

- 初任者研修推進委員会が、毎週行われる授業時間(火曜日の三校時)に組み込まれた企画委員会の中で必要に応じて行われるので無理なく時間の確保ができた。また、構成メンバーの新たな負担も無く行うことができた。

#### ウ 課題

- 学年主任や生徒指導主事とは、毎朝行われる職員朝会(管理職・教務主任・学年主任・生徒指導主事・養護教諭・栄養教諭・事務職員 計11名)や企画委員会で情報交換ができたが、研修主任や学力向上担当の教員とより情報交換を密にすべきであった。

---

### ④ 初任者研修の指導方法の一層の工夫

#### ア 実際に取り組んだ内容

- 従来より実施しているコンパクトな形の校内研修(「城西熱血教師塾」)に、初任者はもちろん推進委員会のメンバーにも参加を呼びかけ、研修内容を共有し、事後の指導の充実・発展につなげた。(「城西熱血教師塾」・・・教職経験の豊富な教員が、それぞれの専門分野や得意分野の教育活動について、若手教員に経験知を伝えるねらいで月1～2回30分程度で、内容を絞って実施。すべての教職員が参加可能。)

#### イ 成果

- 和やかな雰囲気の中、経験豊富なベテラン教員から専門的な知識や体験談を若手教員に直接伝えるという有意義な時間となった。また、二年次や三年次の教員、助教諭など若手教員が参加し、意見交換もできて初任者にとって有意義な会となった。

#### ウ 課題

- 部活動を優先する教員や前向きでない教師も若干いて、参加者が固定化してきており広がりが見られない。

---

### ⑤ 研修のノウハウの蓄積方法

#### ア 実際に取り組んだ内容

- 提出文書だけでなく、研修に使用した資料を整理して綴じておき、後々アクセス・参照可能なように保管した。
- 学期ごとや研究授業後に評価をして次につなげるようにしてPDCAサイクルを充実させた。

振り返りが容易にできるよう、一般研修では「初任者研修ノート」を作って研修内容をまとめていくようにした。授業研修では、研究授業後に「授業点検シート」を作って、参観者に評価してもらうとともに初任者は自己評価するようにした。

## イ 成果

- 参考にしたい昨年度や一昨年度の資料が全くなかったうえに、指導教員が転退職していたので、資料作成に苦勞した。そこで、今年度は、紙媒体はもちろん、パワーポイントやワークシートなど電子媒体も保存して、後でアクセスできるようにしたので、来年度以降に役立つと思われる。
- 学期ごとや研究授業後に振り返りをすることは、反省を今後に生かすという意味において有意義であった。また、「初任者研修ノート」や「授業点検シート」は、ポートフォリオ評価としても使えるし、報告文書作成のときにも役にたった。

## ウ 課題

- 「初任者研修ノート」や「授業点検シート」は、年度当初から準備しておくべきであった。連絡協議会での話を参考に研修途中で作成したので、スタート時から作成・活用することを来年度への引き継ぎ事項としたい。

---

## ⑥ 初任者の状況把握と初任者に対する相談体制の整備

### ア 実際に取り組んだ内容

- 指導教員(教科・一般)が配属学年の学年主任と連絡を図りながら、学年での学級(生徒)への関わり、授業の状況、学年内の校務等の状況について把握した。(推進委員会において、または随時)
- 生徒指導や学級経営などについては配属学年の学年主任を中心に学年の教員、そして授業については指導教員を中心に教科部会の教員、さらに同じ部活動の顧問などあらゆる機会を通して、必要に応じて相談の時間をもってもらった。
- 同じ学年の教員や同じ教科の教員を中心としながら、2年次・3年次の教員や若手教員とも相談しやすい体制を整えた。「わかばの会」を設立し、適宜開催した。

## イ 成果

- 学校・学年で初任者を育てようという意識があり、配属学年の学年主任が初任者の状況を的確に把握し、随時報告をしてくれた。
- 学年主任や同じ教科の教員、さらには、同じ部活動の顧問などさまざまな立場から初任者のサポート体制が組み立てられており、必要に応じて指導・助言をしてくれたり、相談にのってくれたりした。
- 「わかばの会」の開催により、参加メンバーの間でより気軽に相談しやすくなったということである。

## ウ 課題

- 「わかばの会」は、当初はテーマを設定せず互いに悩みを打ち明けたり聞いたりする機会としていたが、2学期からは毎回のテーマを決め、そのテーマについて意見交換するように試みた。

相談の機会、テーマについての意見交換の場の両方とも大切なので、ある程度計画的に実施すべきか、気軽にその場その場でざっくばらんに思いを語り合うべきなのか検討の余地があると感じた。

⑦ その他

ア 実際に取り組んだ内容

- 初任者も含め、教員が互いの授業を参観し、学び合うことができる全体の研修体制を充実させ、すべての教員が切磋琢磨できる雰囲気を醸成する。

イ 成果

- 指導力向上研修期間（10月20日～11月20日）には、「授業の冒頭に目標（ねらい・めあて）を示す」、「授業の最後に振り返りの時間を設ける」、「生徒の発言や活動の時間を確保する」ことを再確認しながら教科部会を開き、研究授業等を行い、その成果をレポートにまとめて全教職員で共有できた。初任者の二回目の研究授業においても前述の三点が意識されていた。

また、研究授業に向けて、指導・助言したり、指導教員以外の教員が同じ単元で師範授業をしたり、学び合う場面が見受けられた。

ウ 課題

- 4月に示された「学校経営方針」の中で「本年度の重点目標」の一つに「分かる授業の実践」が掲げられている。また、「学力向上実行プラン」も作成され共通理解を図られてはいるが、すべての教職員が目標達成に向けて一年間意識して取り組んでいるようには感じられなかった。

目標達成に向けて、何をどう頑張っていくのかを焦点を絞って具体的に示していく必要があると感じた。

視点(2) 研修等の内容の充実について

① 初任者の年間の勤務を見通した研修内容の整理

ア 実際に取り組んだ内容

- 学校行事・学年行事等を節目ととらえ、担任、副担任それぞれの立場での校務について、学年・学級事務の遂行や行事实施にあたっての実務はもちろん、その意義や心構えについても研修した。
- 「初任者研修の手引」の年間研修項目のうち、校内研修項目をカバーできるよう、各担当との連携を図りながら進めた。

イ 成果

- 家庭訪問や三者面談、体育祭や文化祭、定期テストや通知表の作成など、年間を通して、その時期にやらなければならないことの意義や留意すべき点について、タイムリーに研修することができた。
- 校外での研修との関連させて計画を立てることにより、先に研修した内容についての再確認したりより深めたりすることができた。

#### ウ 課題

- 毎週行う一般研修のほとんどがペーパーによる講義形式になってしまい、その場では、ある程度理解できていても時間がたつと薄れてしまう。いかに実践につなげていくべきか考えさせられた。

### ② 正担任・副担任・TT担当等，初任者の校務に即した研修内容の工夫

#### ア 実際に取り組んだ内容

- 学級経営の実務や学年・学級事務については、学年主任を中心に学年内の先輩教師の指導を優先して進めてもらうようにした。
- 年度当初，副担任の初任者は，次年度に担任することを想定して，学級担任と密に情報交換し，学級経営方針・方法の理解や生徒の状況の把握を行い，担任不在時には代わって学級に積極的に関わることができるように，初任者の配属されている学年主任に配慮を依頼した。

さらに二学期からは，計画的に各学級の短学活ができるように組んでもらい，補欠としてではなく，担任に代わって学級に入り，実際の担任が実施の場を見守り，短学活後に指導・助言してもらえよう再度，学年主任に依頼した。

#### イ 成果

- 一般研修については，各学年の主任が中心となり，機会を捉えてOJTによる研修をしてきている。また，部活動の顧問も部活動中に学級経営や生徒の関わり方など，適宜指導してくれており，生徒との関わり方や保護者への対応などについて，研修できている。

#### ウ 課題

- 担任をしている初任者Aに比べ，副担の初任者Bは，保護者と関わりや直接的な生徒指導の機会が少なく，知識では理解できていても実践が伴っていないため，経験の差が生じている。

### ③ OJTによる研修と直接指導による研修のバランス

#### ア 実際に取り組んだ内容

- 毎週計画的に行われる一般研修と教科研修の時間を直接指導の場，それ以外の時間はOJTの場とした。そして，一般研修では，学校行事・学年行事等に応じて研修計画を立て，実務に役立つようにした。直接指導の場をOJTで実践したことの振り返りの機会とすると同時に，次のOJTへの方向性を示し，意識づける機会とした。機会を捉えて振り返りをして，PDCAを意識した指導を心がけた。

#### イ 成果

- 家庭訪問や三者面談，体育祭や文化祭，定期テストや通知表の作成など，その時期にやらなければならないことの意義や留意すべき点について，タイムリーに研修することにより実務に生かすとともに，OJTにより再確認し，反省を次回につなげるようにできた。

#### ウ 課題

- OJTによる一般研修を，学年主任を中心に学年内の先輩教師の指導を優先して進めてもらうように依頼した。そのため，数多くの教員が関わってくれてありがたかったが，一方で，いつ・どの場面でどんな内容について研修するのか等の情報交換を密にする必要があった。

---

#### ④ その他

##### ア 実際に取り組んだ内容

- 外部講師を招いての校内全体研修の機会を生かす。
- 長期休業日を有効活用する。

##### イ 成果

- 例年行っている外部講師を招いての校内全体研修で，初任者研修を兼ねて行えたので良かった。
- 長期休業日中の予定として早くに計画され，比較的調整がしやすかった。また，行事や急な生徒指導等で実施できなかった一般研修の取り戻しを長期休業日中に行えたのも良かった。

#### ウ 課題

- 長期休業日とはいえ，校外での初任者研修や部活動の予定があり，初任者二人と指導者の日程を調整するのは大変だった。また，講師を招いての校内研修が一部初任者の出張と重なってしまった。伝達講習をしてカバーしたが，初任者の出張は事前に可能な限り把握しておくべきであった。

※ 本報告書のための補助資料がある場合は，別途添付すること。

【授業点検シート】 初任者の研究授業（自己評価）

月 日

氏 名（ ）

【A－大変よくできた B－よくできた C－努力や修正を要する D－一層努力や修正を要する】

項 目	評 価
1 分かる授業を展開するために十分な教材研究を行った。	A B C D
2 学習指導要領に基づき、目標を明らかにするとともに、効果的な指導方法を工夫しながら、指導案を作成した。	A B C D
3 授業における生徒への発問や指示の仕方、あるいは生徒の発表や発言の取り上げ方が適切にできた。	A B C D
4 板書の仕方やノート（ワークシート）指導が適切にできた。	A B C D
5 学習形態や座席の工夫を適切に行った。	A B C D
6 教師の立ち位置（机間指導を含む）が適切にできた。	A B C D
7 教材・教具（ICTを含む）を活用し、また、ワークシート等を準備し、分かりやすい指導ができた。	A B C D
8 個に応じた適切な指導ができた。	A B C D
9 学習評価を適切に行い、本時の目標が達成できた。	A B C D
10 次の授業につながる授業の評価が適切にできた。	A B C D

○ 所見

<p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
--

【授業点検シート】 初任者の研究授業(参観者評価)

月 日

氏 名 ( )

【A－大変よくできた B－よくできた C－努力や修正を要する D－一層努力や修正を要する】

項 目	評 価
1 分かる授業を展開するために十分な教材研究を行っていた。	A B C D
2 学習指導要領に基づき、目標を明らかにするとともに、効果的な指導方法を工夫しながら、指導案を作成できている。	A B C D
3 授業における生徒への発問や指示の仕方、あるいは生徒の発表や発言の取り上げ方が適切であった。	A B C D
4 板書の仕方やノート（ワークシート）指導が適切であった。	A B C D
5 学習形態や座席の工夫が適切になされていた。	A B C D
6 教師の立ち位置（机間指導を含む）が適切であった。	A B C D
7 教材・教具（ICTを含む）を活用し、また、ワークシート等を準備し、分かりやすい指導ができていた。	A B C D
8 個に応じた指導ができていた。	A B C D
9 学習評価が適切になされ、本時の目標が達成できていた。	A B C D
10 次の授業につながる授業の評価（分析）が適切にできていた。	A B C D

○ 所見

<p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
--



様式 2

平成26年度総合的な教師力向上のための調査研究事業（初任者研修の抜本的な改革）  
実施報告書

1 調査研究校の基礎情報

調査研究実施校名	藍住町立藍住中学校	
校長名	(ふりがな) 氏名	とよた だいのすけ 豊田 大之介
連絡担当者	職名 (ふりがな) 氏名 電話番号	教諭 みくら ゆきお 三倉 幸夫 (088) 692-2505

2 調査研究校の状況（平成27年1月1日現在）

常勤教員数	43人	うち、学級担任外教員数(22人)
再任用短時間勤務教員数	0人	※週 時間勤務 人 ※週 日勤務 人
非常勤教員数	0人	
学級数	20(21)学級	
2年目教員数	2人	
3年目教員数	2人	
初任者の属性等 (所属・校務等)	初任者(A)	1年4組担任，学校食育リーダー 職員会議録
	初任者(B)	第3学年副担任(3年3組副担任) 学年会計，部活動会計
指導教員の属性等 (所属・校務等)	①指導教員(総括担当)	教務主任，学力向上推進員， 初任者Aの学級の数学科担当
	○初任者Aの	
	②指導教員(授業研修担当)	2年1組担任，研修主任，学校食育 リーダー，特別支援教育コーディネーター
	③指導教員(一般研修担当)	1年学年主任，学年会計， 初任者Aの学級の社会科担当
	○初任者Bの	
	④指導教員(授業研修担当)	2年5組担任，保健体育科教科主任
	⑤指導教員(一般研修担当)	3年学年主任，学年会計

### 3 指導体制等

#### 3-A) 校内の指導体制

##### (1) 役割

職名等	役割分担
校長	○初任者研修推進の総括 ○初任者研修に係る校務の決定 ○初任者研修推進委員会の委員 ○計画に基づく一般研修の指導等
副校長・教頭	○指導体制整備・校務立案 ○初任者研修関係者への指導・助言 ○初任者研修推進委員会の委員 ○計画に基づく一般研修や授業研修の指導等
指導教員 (総括担当)	○県教育委員会や町教育委員会との連絡調整 ○初任者研修全体のコーディネーター ○他の指導教員（授業研修担当・一般研修担当）と連携して初任者研修の全体計画を作成 ○初任者研修推進委員会の実施
指導教員 (授業研修担当)	○授業研修のコーディネーター ○授業研修の年間計画の作成 ○授業研修の指導・助言等
指導教員 (一般研修担当)	○一般研修のコーディネーター ○一般研修の年間計画を作成し、一般研修の指導・助言等
その他の主事・主任	○校務内容についての一般研修や授業研修の指導
その他の教職員	○計画に基づく一般研修や授業研修の指導 ○各自の経験に基づいた指導・助言等

##### (2) 初任者研修推進委員会

###### ① 構成員

校長，副校長，教頭，

教務主任（総括担当）

初任者Aの 一般研修担当（1年学年主任），授業研修担当（研修主任）

初任者Bの 一般研修担当（3年学年主任），授業研修担当（保健体育科主任）

初任者A，初任者B （計10名）

- ② 開催時期
    - ・ 1 学期 3 回（5 月， 6 月， 7 月）
    - ・ 2 学期 3 回（9 月， 1 1 月， 1 2 月）
    - ・ 3 学期 2 回（2 月， 3 月）

※初任者は， 4 回参加（6 月， 7 月， 1 2 月， 3 月）
  - ③ 協議内容
    - ・ 初任者研修に関する指示連絡
    - ・ 研修内容の進捗状況説明と確認
    - ・ 初任者の近況についての把握
    - ・ 研究授業等の連絡と調整
- (3) 若手教員情報交換会
- ① 構成員
    - ・ 初任者 2 名
    - ・ 採用されて 2 年目， 3 年目の教員
    - ・ 採用されて 2 校目の教員
  - ② 開催時期
    - ・ 各学期 1 回
  - ③ 協議内容
    - ・ 学級経営， 部活動経営についての情報交換
    - ・ 学校行事や校務等についての情報交換
    - ・ 個々の生徒の状況についての情報交換と関わり方についての研修
- (4) その他配慮した指導体制
- ① 初任者 2 名の職員室座席について
    - ・ 初任者の席を学年団の中央の席に配置する。
    - ・ その隣りに一般研修担当指導教員（初任者所属の学年主任）を配置する。
  - ② 初任者 A の担任する学級について
    - ・ 総括担当指導教員（教務主任）が数学科を担当する。
    - ・ 一般研修指導教員（学年主任）が社会科を担当する。
  - ③ 初任者 A の技術・家庭科（家庭分野）の授業について
    - ・ 初任者 A の技術・家庭科（家庭分野）のすべての授業を， 豊富な経験を持つ授業研修担当指導教員（研修主任）とのチーム・ティーチングで行う。
  - ④ 副担任の初任者 B について
    - ・ 初任者 B が， 3 年 3 組の道徳， 学級活動， 総合的な学習の時間の授業に入って研修ができるよう， 年間時間割を作成する。
  - ⑤ 初任者 B の保健体育科の授業研修について
    - ・ 豊富な経験を持つ保健体育科主任が担当する。
    - ・ 副校長（元指導主事）の授業を参観できるようにして， さらに充実した授業研修ができる体制をつくる。

3-B) 初任者の勤務内容等における配慮事項

- ① 初任者 A の技術・家庭科（家庭分野）の授業の T T の役割分担について
  - ・ 初任者所属の 1 年生と 3 年生の授業は， 初任者が T 1 を担当する。
  - ・ 指導教員所属の 2 年生の授業は指導教員が T 1 を担当する。
  - ・ 初任者 A の勤務の負担や指導力向上等を考慮しながら役割分担を相談し， 必要に応じて変更する。

② 初任者B（副担任）の学級経営の業務分担について

- ・ 3年3組の生徒達が戸惑いを感じないように、細心の注意をはらう。
- ・ 初任者Bと生徒との関係、初任者Bの指導力などを観察し、学年主任を含めて相談しながら、年間を通して段階的に業務分担を変更する。

4 調査研究事業の実施状況

月	各調査研究校における実施状況 (初任者研修に係る取組状況の記録)	実施状況 (徳島県教育委員会実施分)
4月		・ 4/30 調査研究校「調査研究事業実施計画書」提出
5月	・ 5/22 第1回初任者研修推進委員会 ・ 5/27 初任者研修研究授業 (初任者A 道徳)	・ 5/19 第1回検討会議 ・ 5/30 第1回連絡協議会
6月	・ 6/23 第1回初任者研修推進委員会 ・ 6/24 第1回若手教員情報交換会	・ 6/16 学校訪問①
7月	・ 7/ 9 初任者研修研究授業 (初任者B 保健体育 保健分野) ・ 7/16 第3回初任者研修推進委員会	
8月		
9月	・ 9/18 第4回初任者研修推進委員会 ・ 9/19 第2回若手教員情報交換会	・ 9/24 第2回連絡協議会
10月	・ 10/ 7 初任者研修研究授業 (初任者A 技術・家庭 家庭分野)	・ 10/21 学校訪問②
11月	・ 11/21 第5回初任者研修推進委員会 ・ 11/27 初任者研修研究授業 (初任者B 道徳)	・ 11/10 先進校視察(中)(静岡県相良中)
12月	・ 12/ 1 第6回初任者研修推進委員会	・ 12/3 第3回連絡協議会
1月	・ 1/14 初任者研修研究授業 (初任者A 技術・家庭 家庭分野) ・ 1/15 第3回若手教員情報交換会	・ 1/28 第2回検討会議
2月	・ 2/10 初任者研修研究授業 (初任者B 保健体育 体育分野) ・ 2/26 第7回初任者研修推進委員会	・ 2/6 調査研究校「調査研究事業実施報告書」提出 ・ 2/20 第4回連絡協議会
3月	・ 3/ 2 第8回初任者研修推進委員会	・ 研究成果報告の配布

## 5 調査研究の具体的内容と成果・課題

### 視点(1) 初任者研修の校内指導体制の確立と充実について

#### ① 初任者研修のインセンティブが働く校務

初任者と指導教員の負担軽減

ア 実際に取り組んだ内容

- 加配教員の配当1名を技術・家庭科（家庭分野）にして、全学年全学級家庭科をTT授業にした。また、家庭科の免許所有者2人でT1，T2交代しながらの授業となり、効果的な授業実践ができ、生徒管理の負担がずいぶんと軽減できた。

イ 成果

- 技術・家庭科（家庭分野）の授業者のいずれかが出張・年休等でいない場合は、授業交換せず授業することができた。
- 中堅やベテランの教員になると、生徒指導等で困っていることや悩みがあっても相談しにくい面がある。初任者研修で初任者が相談する場などに加わり、初任者の気持ちを共感し合いながら、年齢に関係なく相談しやすい雰囲気できた。初任者を含め、共に研修しながら問題を解決していこうとする中堅・ベテラン教員のインセンティブが働いた。
- 拠点校指導方式に比べ、調査研究方式では一般研修、授業研修とも校内で校内教員が指導するので、生徒の実情に合わせて生徒指導の研修を続けていくなど、より実践的な一般研修を行うことができ、インセンティブも高まった。校内で協力して初任者を育てていく意識も高まったように思う。

ウ 課題

- 初任者研修だけでなく、初任者以外の研修についても授業研修をさらに充実していく必要がある。

#### ② 学校全体で初任者に関わるための指導・評価計画

初任者を育てる協力体制

ア 実際に取り組んだ内容

- 初任者A，Bに対して、学年主任が一般研修担当指導教員を務めている。授業研修指導教員についても、本校で中心的存在である研修主任，保健体育科主任のベテラン教師が務め、毎週の指導にあたった。毎朝、初任者に視点を当てて職員打合せをして、座席を隣り合わせていつでも座席で研修できる体制をとり、初任者研修に取り組んだ。他のベテランや中堅教員も気づいた点があればすぐ声をかけるなどして積極的に関わった。また、生徒指導主事，養護教諭，栄養教諭，事務室長，用務員が初任者に一般研修を行い、初任者との関わった。

イ 成果

- 本校の職員組織は他校と比べて若手教員が多い。初任者研修の時間だけでなく、初任者を含めた若手教員を育てていく意識を高めることができた。

ウ 課題

- さらに他の校務担当教員からも研修する機会を増やすことによって初任者との関わりができ、学校全体を見ながら勤務できる初任者の育成になるのではないかと思う。

③ 初任者研修推進委員会等の効果的な運用

初任者を含めた初任者研修推進委員会

ア 実際に取り組んだ内容

- 1学期3回（5月，6月，7月），2学期3回（9月，11月，12月），3学期2回（2月，3月）の計8回，初任者研修推進委員会を開いた。

イ 成果

- 年間を通して計画的に行うことによって，初任者の成長を確認することができた。
- 各学期末の7月，12月，3月の3回については，県教育委員会への提出書類作成を関係職員全員に連絡する場として，初任者も一緒に参加できて良かった。しかし，初任者の近況を把握するための率直な意見交換の場では，推進委員会に初任者本人がいない方が良かったかもしれない。

ウ 課題

- 意見が自由に出され，活発な協議となる場にできなかったが，初任者の近況についての把握が中心となり，初任者の成長や活躍についての報告に終始してしまう面があった。初任者が現に直面している課題を挙げて指導助言の方法を協議したり，初任者の課題を考えて研修計画を見直したりすることによって，会をより充実させていく必要性を感じた。

---

④ 初任者研修の指導方法の一層の工夫

学校現場を広く多面的に見る視野づくり

ア 実際に取り組んだ内容

- 校内の生徒指導主事，事務室長，養護教諭，栄養教諭，用務員から，関係する校務の観点から一般研修を行った。

イ 成果

- 初任者が教諭以外の立場で働く同僚の見方，考え方を研修することによって視野を広げ，学校の組織の一員として気をつけておくべきことなどを学ぶことができた。

ウ 課題

- 今年度当初の計画では，一般研修は年間通して一般研修担当教員が担当することになっていたが，途中で計画を一部変更した。年度当初から年間計画の中に生徒指導主事，事務室長などからの一般研修を位置づけ，計画的に進めていくべきであった。

---

⑤ 研修のノウハウの蓄積方法

報告書等の確実な蓄積

ア 実際に取り組んだ内容

- 計画書，年間計画，報告書等は紙媒体・電子媒体で保存し，総括担当指導教員が管理する。所感等，初任者の今後の教職キャリアに関する記載物については紙媒体のみで保存し，総括担当指導教員が管理した。
- 一般研修，授業研修で使用した資料等は指導担当教員と初任者が保存し，必要に応じて，次年度へ具体的な研修のノウハウが蓄積できるようにした。

イ 成果

- 数年続けての年間計画が保管されており，本年度もそれらを参考に計画を作成することができた。初任者の反応等によって報告書の記載は当然変わってくるが，蓄積された報告書の書き方を参考にして書きやすかった。

○ 初任者Aは、年間を通し、技術・家庭科（家庭分野）のワークシートを、授業研修の日だけでなく毎日のTTの授業の後で協議しながら作っていくことができ、3学年分すべての実用的なワークシートを作成することができた。

ウ 課題

○ 実際の授業で使用したワークシート等を学校で保管するシステムが確立すると、初任者研修の授業研修だけでなく、他の教員にとっても授業研修が効率的になるのではないかと思われる。

⑥ 初任者の状況把握と初任者に対する相談体制の整備

ア 初任者を安心させられるサポート体制

○ 毎日、一般研修担当指導教員（学年主任）と初任者が職員室にいる時間を利用して、その日の学級の様子や生徒の言動等を聞き、情報交換を行いながら研修した。

イ 成果

○ 一般研修の時間以外で、生徒間で起こった具体的な問題について報告・連絡・相談しながら生徒指導についての研修を年間通して行うことができた。また、問題に合わせて指導したり、保護者に連絡したりする学級担任としての実践力をつけることができた。

ウ 課題

○ 具体的な問題について自分で考え、学年主任等に報告・相談しながら見通しを持って対応していく力をどうつけていくかが今後の課題である。

視点(2) 研修等の内容の充実について

① 初任者の年間の勤務を見通した研修内容の整理

段階的に進めていく研修

ア 実際に取り組んだ内容

○ 一般研修では、初任者が学級経営、学校行事、部活動経営において配慮すべきことを、一般研修担当指導教員（学年主任）を中心に指導できるよう、年間行事計画に基づいて研修を進めた。

○ 授業研修では、学期によってテーマを決めるなどして指導した。1学期は、授業の時間配分、発問や板書のしかた、ワークシート作成の配慮事項など、授業をする上での基本的な内容を中心に繰り返し指導した。2学期は、授業内容に応じて研修テーマを絞って協議した。3学期は、初任者の成長を観ながら、年間を通して授業力が向上するよう研修を進めた。

イ 成果

○ 初任者が担当する学級や部活動の実態の詳細を聞きながら具体的に指導助言したり、学校行事の計画案に沿って初任者がどう行動すればよいか確認したりすることによって、初任者にとって具体的でわかりやすい研修をすることができた。

○ 学期によってテーマを変えながら授業研修を行うことによって、初任者が留意事項を明確にして教材研究したり、授業後の研究協議を充実させることができた。

○ テスト問題作成にあたり、1学期は、出題の目的を確認しながら、出題方法、文の推敲、レイアウト等について意見を聞きながら詳しく指導し、完成した。2学期は、初任者に任せて作成したものについて協議して完成した。1年を通して、初任者が責任を持ってよいものを作成できるように研修を進めることができた。

## ウ 課題

- 今後、初任者が一層の授業力、生徒指導力をつけていくために、2年目以降の若手教員に校内研修の機会をどう確保していくかが課題である。

---

## ② 正担任・副担任・TT担当等、初任者の校務に即した研修内容の工夫

学年がサポートして取り組んだ学年全体学習研究授業

### ア 実際に取り組んだ内容

- 初任者Aは、合同教室で学年の他学級を前に、人権学習の研究授業を行った。一般研修担当教員（学年主任）が、指導案の書き方、発問のしかた、発言のさせ方・聞かせ方等について具体的に詳しく指導し、初任者からの質問にも丁寧に答えながら、授業に向けての研修を進めた。授業の前には学年主任を中心に発言しやすい雰囲気をつくり、授業中いつでも初任者をサポートできる体制をとって行った。

### イ 成果

- 研究授業の中で、1年4組の多くの生徒たちが自分の思いを学年全体の場で発言することができた。1年4組の後方で授業を参観した多くの生徒たちも、それらの発言を真剣に聞くことができ、次時の学年全体学習では、どの学級からもいじめについての経験や思いを語るすることができた。初任者Aは、人権学習の授業について多くのことを学び、授業で達成感を感じるすることができた。

## ウ 課題

- 初任者は、教科の授業研修は年間を通して系統的に行うことができているが、道徳、学級活動、総合的な学習の時間については、系統的に授業研修担当教員や一般研修担当教員と続けていくことが難しい。初任者の道徳等の授業研修にどのように関わっていくべきかが課題である。

生徒の実態から学ぶ生徒指導等の研修

### ア 実際に取り組んだ内容

- 3年生副担任の初任者Bは、一般研修担当教員（学年主任）から生徒一人ひとりについて詳しく情報交換、協議を繰り返し、生徒への関わり方について学んできた。生徒たちに毎日積極的に関わりながら、生徒指導等について研修を積んだ。道徳等の授業にも入りながら学び、生徒との人間関係をつくってきた。また、実際の進学事務等の進め方について100日計画を見ながら研修し、OJTによる研修を積んできた。

### イ 成果

- 生徒との距離感を大切にしながら、生徒指導などについて学ぶことができた。3年生が授業を大切にしながら進路選択に向けて努力したり、学校行事や部活動などを通して仲間と協力したりできるよう、生徒への声のかけ方やサポートの仕方について実践力をつけてきている。また、学年で協力しながら進めていく進路指導に副担任としてどう関わっていけばよいか、一般研修担当教員（学年主任）から具体的な研修を積むことができた。





## ウ 課題

- 第3学年の副担任の業務は、進路指導の面談、進路決定等については保護者が強い関心をもって考えている内容でもあり、学級担任の業務とは一線を引く必要を感じた。学級経営についても副担任の立場では入っていきにくい内容もあり、担任としての責任感をどうしても育てにくい面を感じた。初任者に2年目から学級担任を任せられる人材に確実に育てるために、学級担任として初任者研修を行うことがより望ましいのではないかと感じた。

## 毎時間TTで行う授業研修体制

### ア 実際に取り組んだ内容

- 初任者Aが担当する技術家庭科〔家庭分野〕の授業毎週12.5時間を、年間通して、授業研修担当の指導教員とTTで実践し、授業前後の研究協議を繰り返し行ってきた。

### イ 成果

- 示範授業、実践授業、研究協議を毎週1時間ずつ行うだけでは、学んだことを十分生かした授業をできないこともある。しかし、技術家庭科〔家庭分野〕のすべての授業を毎日授業研修の指導教員とTTで行ったことによって、授業がうまくいかない時にもその都度気づいたことを伝え合ったり、毎日必要に応じて反省と協議を繰り返すことができた。そして、他の学級での授業を、第2、第3、第4の実践授業として行うことによって、指導した内容が初任者にしっかりと定着した。初任者が校外研修で出張する日は、初任者の代わりに授業研修の指導教員が一人で授業することによって、授業交換の負担もなくなることができた。初任者Aは、1年間で、全学年・全単元すべての授業で学級数の分だけ授業研修をすることができた。3年間を見通してそれぞれの学年の生徒たちにどんな力をつけておくべきか考え、授業を計画し実践していく力をつけることができたのではないと思う。



## ウ 課題

- 生徒の学力向上が学校の課題となっており、国語、数学などの教科においてもTT等の指導が必要である。技術・家庭科〔家庭分野〕の授業を年間通して週12.5時間TTで授業してきたことは初任者にとって充実した授業研修となったが、それによって国語、数学などのTTの授業時数を減らさざるを得なかった。また、授業研修担当指導教員の週当たり授業数に負担が生じた面もある。

## 指導教員以外から学ぶ研修体制

### ア 実際に取り組んだ内容

- 本校の副校長は、元指導主事である。初任者Bの授業研修について、授業研修担当指導教員（保健体育科教科主任）だけでなく、副校長も機会をとらえて指導助言を行った。

### イ 成果

- 初任者Bは、毎週、授業研修担当指導教員（保健体育科主任）から示範授業、実践授業、研究協議を行うことにより授業研修を行っているが、それだけでなく、副校長にも疑問点を質問したり、副校長から指導助言したりすることにより、生徒に対する見方・考え方や授業のスキルなどについて多面的に学び続けることができた。体育祭の準備や運営では、保健体育科教員として体育主任をどうサポートするか具体的に研修することができた。また、研究授業等、授業における生徒への指示のしかたや話し方、声の音量、聞かせ方に至るまで具体的な例を挙げながら指導を受け、学ぶことができた。

## ウ 課題

- 初任者研修が終了して2年目以降は、TTで授業に入る以外、他教科の授業を参観して学ぶ経験は減多にない。初任者研修の中で校内の他教科の授業を参観する研修を計画することができなかった。他教科の授業から見方・考え方を吸収したり、自分の授業にうまく吸収したりする授業研修を加えるなど、もう少し創意工夫をしたい。

---

## ③ OJTによる研修と直接指導による研修のバランス

### 初任者にわかりやすい打合せづくり

#### ア 実際に取り組んだ内容

- 毎朝、全体での職員朝会、学年団での打合せの後、初任者がそれらの内容について疑問点等がある場合は、隣座席の一般研修担当教員（学年主任）からすぐ教えてもらえる体制をとることができた。

#### イ 成果

- 毎朝、初任者が打合せ内容についての疑問点があれば質問し、学年主任から補足説明等を聞いて解決することができた。初任者だけでなく本校1年目の職員も含めて学年団全員が確実に共通理解することができ、自信をもって勤務することにつながっていった。
- 学年主任が初任者にとってわかりやすい打合せの方法を考えることによって、打合せが全員にとってさらにわかりやすいものになっていった。

## ウ 課題

- 連絡事項が多い日などについては、朝の学年団打合せの後、その後の日程のこともあり、初任者にとっては質問しづらく、疑問を抱えたまま学級に行く日もあったかもしれない。

## 行事等の前に行う直接指導

### ア 実際に取り組んだ内容

- 体育祭，文化祭，人権問題意見発表会など，事前に校務担当から職員会議等で計画案が出される学校行事や，学期末評価などの基準が示されている内容については，初めに，直接指導による研修を行った。その後，その時気づいた点をOJTによる研修として指導助言を行ってきた。

### イ 成果

- 事前に，直接指導による研修を行うことによって，一般研修担当教員（学年主任）から，資料に目を通しながら留意点などを指導助言したり，疑問点を解決したりすることによって，初任者は安心して業務に向かうことができた。また，事前の直接指導を想起して業務にあたったので，OJTによる研修での指導助言がよく理解できた。

### ウ 課題

- 資料に目を通しながら直接指導による研修を行うことは時間を要した面もあった。事前に，資料に目を通させておくよう指示するなど，時間短縮をはかる必要がある。

## 学年で取り組んだ環境整備

### ア 実際に取り組んだ内容

- 初任者Aの教室環境の整備を，学年団全員で歩調を合わせてOJTによる研修として行った。直接指導による研修でも，一般研修担当指導教員（学年主任）から，ユニバーサルデザインを取り入れた掲示や配慮すべき内容を研修した。

### イ 成果

- 初任者の研修を学年団で意識しながら，協力して環境整備に取り組むことによって，初任者の学級だけでなく全学級が時期や行事を考えた環境づくりを行うことができた。また，全学級で協力して取り組むことによって副担任も自然に協力し，学年団が協働する雰囲気づくりに役立った。

### ウ 課題

- OJTによる学年での研修と，一般研修担当指導教員からの直接指導による研修の時期が，ずれてしまった。時期をうまく組み合わせることで，初任者の負担軽減ができたのではないかと思う。

平成26年度  
総合的な教師力向上のための調査研究事業  
「初任者研修の抜本的な改革」  
成果報告書

2015年3月

徳島県教育委員会教職員課  
〒770-8570  
徳島県徳島市万代町1丁目1番地  
電話 088-621-3150  
ファクシミリ 088-621-2881

